慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	江戸時代刊行成立：孝経類簡明目録
Sub Title	
Author	阿部, 隆一(Abe, Ryuichi) 大沼, 晴暉(Onuma, Haruki)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1977
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.14 (1977.) ,p.1- 100
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	森武之助先生退職記念論集
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000014-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

江戸時代刊行成立

孝経類簡明目録

阿部隆一
大沼晴暉

緒言

漢籍の中には、江戸時代までの我が国の知識層にとっては国書同様か、ある意味ではそれ以上に親しい必読書があった。その中で論語と孝経は奈良時代の古くから、江戸時代はそれに四書が加って、孝経四書は我が国では最も広く読まれ普及した古典である。孝経は国民道徳の基本であったこと、本が薄くて難解でなく、全巻通読がさ程困難でないことと相まって、宮中御学問始めの教科書には多く孝経が選ばれた慣習が次第に広く全国に行きわたって、童蒙初学の教科書は先ず孝経というのが江戸末までのきまりであった。

周知の如く、孝経には古文廿二章、今文十八章の二種のテキストがあり、前者を代表する注は漢の孔安国の伝、後者は漢の鄭玄注である。但し孔安国伝と題するが、魏晋六朝間の仮託というのが今は通説となり、鄭注も果して鄭玄の真作であるか否かは古くから疑問が出されている。我が国に古く伝来したのはこの両注であった。養老律の大学令に孝経は必修科目と定められ、孔鄭二注のいずれによるも可とした。しかし実際我が国で行われたのは孔伝であった。漢土にあっては梁末の乱に孔伝亡び、独り鄭注が行われ、隋に孔伝再び現れて劉炫大に之を敷衍し、唐代今文古文の論争が激烈であったので、唐の玄宗は開元十年経は今文をとり、注は今古文の先儒の説を折衷して御注一巻を欽定して、元行冲に命じて疏三巻を作らしめ、次いで天宝二年玄宗は御注に改訂を施し、同五年疏もその不備を補って中外に頒った。前者を開元始注、後者を天宝重注と称するが、開元始注は禹域には夙に佚し、我が国にのみ伝わった。御注出でて鄭孔共に振わず五代の乱に終に亡佚するに至った。宋の真宗の時、邢昺は勅を奉じて元行冲の疏に基づいて新に「正義」を

撰したので、元行冲疏も廃されて亡逸した。我が国も唐の開元の儀の改変の影響を受けて、清和天皇貞観二年（八六〇）十月、改めて御注孝経を以て正業となすが、学は博を厭わざるを以て孔鄭の兼習を禁ぜずと制した。しかし御注は宮中の儀式に用いられる以外は行われず、室町末まで長い間実際講読されたのは依然として古文孝経であった。室町末までの我が国の孝経学は孔伝を中心として、その疏たる隋の劉炫の「孝経述議」を参照する孔伝の祖述敷衍の域を出なかった。鄭注は日本国見在書目録に著録され、また平安中期日本僧斎然が宋の太宗に謁して鄭注一本を献じたことは有名であるから、その頃までは伝存していたのであろうが、我が国に於ては実際講読の事蹟が文献上にも見出されず、何時しか伝を失うに至った。

漢土には唐後期以降古文孝経は滅びたるが如くなっていたが、宋に入って司馬光は秘閣にあった古文をとって尊び、注を下して「古文孝経指解」を撰した。しかしこの古文は我が国伝来の古文と異り、今文に近い所があり、真の古文とは信じ難いので、宋古文或は趙宋古文等と呼んで真古文と区別されている。ついで朱子はこの宋古文を取り、経と伝とに分ち、前部七章を合せて経一章、其後部を伝十四章とし、旧文の二百廿三字を刪って新な定本を編したのが「孝経刊誤」である。しかしその刊誤は武断に過ぎるの評が多い。元の董鼎は刊語に拠って性理学の立場から詳細な注解を附して「孝経大義」を著し、元の呉澄は今文孝経を改めて経一章伝十二章として「孝経定本」を校定した。明代には心学の見地からの注釈が下され、以後今文宋古文共に改本が試みられ、清に入ってはその考証学の立場から古注による注解や鄭注の輯佚が行われた。

此等宋元明の孝経学は鎌倉時代から室町時代末迄の中世の我が学風には何等影響を及していない。それが急激と言ってもよい程の勢を以て影響を与えるのは江戸時代前期である。慶長元和間は前代の名残りが尾を曳き、古活字版孝経は勅版を始め孔伝であるが、出版が本格的段階に入った寛永元禄間に至ると、出版上から見る限りでは、幾種もの異版を続出し刷印を重ねたのは董鼎の「孝経大義」であるのが最も目立つ特徴で、また「孝経大全」の如き明人の著書が翻刻されている。刊行された邦人の注釈書も中江藤樹の独創的な著作を別としては主として大義か或は一部刊誤に基づく敷衍が殆ど言ってよい。此に比し前代あれほど盛行せる孔伝は僅か一種で、邦人の注も林羅山の「古文孝経諺解」くらいで、孔伝の凋落ぶりは著しいものがある。此は宋明朱子学の流行が如何に盛況であったかを示すと共に、大義の義理を説くこと詳細なのが当時旧来の孔伝よりも新鮮高尚の感を与えて歓迎されたものであろう。しかし長年親まれた孔伝古文孝経は出版界では振わぬように見えても、その講習は決して廃されていたわけでなく、根強いものがあり、大義に基づく邦人撰の注書にも孔伝の影響の大きいことは容易に看取される。

この孔伝不振の頽勢を挽回したのは、享保十七年刊太宰春台音校の孔伝古文孝経である。この校本が一旦出されるや、この本そのものが当時としては校訂の行きとゞいた善本であったに

よることは勿論であるが、当時の徂徠学の流行に乗ったことも与って全国を風靡し、後年この本は清国に伝って、一千年の佚書の出現はかの学者間にその真贋を廻って波紋を投じ、それが知不足斎叢書に翻刻収入された。その本が日本に輸入逆されて、忽ち翻刻されて、この本の権威にさらに箔をつけ、春台本に首書標注を附した頭注本、附訓本、振仮名本、国字解本が輩出し、また地方版の翻刻が現れるに至り、春台校本は明治初まで版を重ねて、孝経刊本の王座を占めた。江戸時代中期後の孝経の講学は再び孔伝が主流となり、御注が之に次ぎ、前期に流行した大義は影を潜め、刊誤は一部の崎門学派に用いられるにすぎず、一方折衷と言うべき邦儒の著書が多くなった。

漢土には夙に佚して我が国にのみ伝存した「群書治要」が天明年間尾張藩で校刊され、その間同書所収の孝経注が経典釈文等引用の鄭注と合致することが名古屋の学者に注目され出し、鄭注の復元が企てられ、寛政三年河村益根、同五年岡田宜生が各々鄭注輯本を公刊した。鄭注の輯佚復元作業はそれとは別に寛政年間から下総の窪木清淵が着手してさらに増補されて文化元年校刊された。この如く孔伝鄭注御注の三注が出そろい、漢書藝文志以降清儒に至る孝経の諸注諸家の説が我が国に紹介され、江戸後期の古注学考証学校勘学の勃興は、従来の大陸旧注の墨守祖述や単なる折衷の態度に慊らず、進んで孝経そのものの原典批判、今文古文孔伝鄭注への考証、実証的校勘、先秦諸書や古書を駆使せる古注学による注解、孝経の綜合的考証研究への機運を促し、それ〴〵の成果をあげながら、幕末に至っている。

孝経は上記の如く古くから経学専門家のみならず、童蒙の教科書であったから、特に江戸時代は藩校私塾の発達と共にその需要は増大し、三都のみならず、地方各地で教科書用に出版され、また平易通俗な国字解や振仮名本の刊行の多いことは孝経の普及がいかに広かったかを物語る一特色である。此は孝経が短篇で刊行費の経済的負担が軽かったことも与っている。また経済的に刊行し易かったことは左程の学者でない田舎学者でもその注解書を自費出版することを比較的可能ならしめている。漢学をかじれば村塾の先生でも孝経は講釈するほど読者層は厚いので孝経類の撰著は多く、未刊に止った稿本もかなり残っているが、江戸時代の他の古典の注釈研究書類に比し、その刊行された率は高いと言ってよい。従って江戸時代同一書でその版種の甚だ多く、またその注釈書が夥しく刊行された点で、和漢書中孝経の右に出る書はないであろう。漢土に於て孝経は経書として尊ばれてはいるが、他の経書に比しては軽視されていると言ってよい。清朝と我が江戸時代とどちらが孝経の講学が盛であったか、その出版点数がいずれが多かったかは、外国人の目に触れるのは普通代表的著作に限られ、些細な地方版や俗本に接する機会が少いのが通例であるから、異国の細微の実情に具に精通し得ない我々は軽々な判断は慎まねばならぬが、寧ろ日本の方が盛であったのではないかという気がする。

現在でも孝経の江戸刊本は伝存が多く、所謂和本の古書を有する所には四書孝経は必ず見られるし、公私文庫には幾種かの

孝経はどこでも蔵されている。個人の蔵書家の中にも孝経の蒐集家はかなり見うけられる。その蒐集の動機は必しも孝経研究を目的として発しているとは限らない。書物好きは古本屋を廻っては本の山をいじり、店の主人と話し込む、さて引き上げる段になって何も買うものがないと気がひけるので、少し前までは店にごろ〳〵して値の安かった孝経を御愛想に買って帰る。それが幾部かたまると一体孝経にはどの位の版本があるかと蒐集慾が刺戟されて積極的に集め出すわけである。孝経の蒐集として世に名あるのは、故人では大阪の田結荘金治氏・石浜純太郎教授、名古屋の一柳知成氏・椙山女学園、東京の狩野亨吉氏・杉浦親之助氏・浜野知三郎氏、旧制高知高等学校教授の中垣正光氏、現在では長沢規矩也博士・林秀一博士等の蒐品であろう。田結荘氏本は「家蔵孝経類簡明目録稿」（昭和十二年大阪・玄武洞文庫刊）一冊に編され、現在関西大学図書館に玄武洞文庫として架蔵されている。関西大学に殆どそのまゝ移っているが、目録著録本中若干散逸したものもあるが、増加しているものもある。石浜氏本は現在大阪外国語大学図書館の有となっている。一柳氏本は「一柳知成氏蒐集孝経諸本展観目録」（昭和九年・大谷大学図書館刊）・「創立三十周年記念孝経諸本展観目録」（昭和十年・椙山女学園刊）の目録があるが、残念ながら先の戦災で焼失した。その稀覯本の一部を林博士が影写しておかれたのは不幸中の幸である。椙山女学園本は上記の展観目録と「孝経諸本目録」（昭和二十四年・椙山女学園刊、油印）の目録があり、椙山女学園大学図書館に保管されている。狩野本は東北大学図書館狩野文庫に架蔵され、杉浦氏本には大正七年序刊「孝経目録」があり、東京大学附属図書館に寄贈された。浜野本は現在我が慶應義塾大学附属研究所斯道文庫にあり、本調査の其礎となった。中垣氏本は今岡山大学図書館の蔵となっている。

江戸時代の孝経類の書誌調査に先鞭をつけられたのは、生涯孝経研究に専念されて赫赫たる多くの業績を公刊され、また天下に冠たる孝経コレクションを蒐集された林秀一博士で、即ち

日本孝経刊行目録（昭和九年「書誌学」三の一・二）

日本孝経未刊本目録（昭和十五年「書誌学」一五の二・三、博士の近刊「孝経学論集」にも収）

である。本調査は博士の驥尾に附した増補で、両論考、また直接博士の御指導、博士の御蔵書に負う所極めて多大である。

この我が国の孝経類典籍の整理調査については、室町時代末までに至る古代中世に関しては、既に阿部の左の論考

室町時代邦人撰述孝経注釈書考（昭和三五年「大倉山論集」第八輯）

天理図書館蔵奈良朝旧鈔古文孝経零巻について（昭和三八年「ビブリア」二四号）

金沢文庫蔵鎌倉鈔本「孝経正宗分聞書」考（昭和三八年「金沢文庫研究」九五号）

室町時代以前に於ける御注孝経の講誦伝流について—清原家旧蔵鎌倉鈔本開元始注本を中心として—（昭和四〇年「斯道文庫論集」第四輯）

古文孝経旧鈔本の研究（資料篇）（昭和四三年「斯道文庫論

集」第六輯専刊号）

に於てその現存本を紹介考証したから、本目録と併せて、維新前に於ける日本の孝経類はほゞ網羅著録し得たと信ずる。

本調査は江戸時代に刊行された、或は成立せる未刊著作を調査整理せる目録で、全て阿部・大沼の共同作業であるが、主として刊本は大沼、写本は阿部が担当し、本稿も亦その分担の執筆にかゝる。調査には往々同僚の川口国昭・白石克両君の協力を得た。本調査は該当の孝経を全国の公私文庫に博捜精査するのが理想であるが、事実不可能に近いから、今回は刊本に関しては斯道文庫本を中心として、上記の孝経の主要蒐書、即ち長沢・林両博士蔵書、関西大学玄武洞文庫本、岡山大学図書館本、大阪外国語大学石浜氏旧蔵本、椙山女学園本、東京大学図書館本、東北大学図書館狩野文庫本については全部を精密に調査し、欠を他の公開図書館蔵本を以て補った。従って刊本の所蔵者名は管見の及んだ本のみに止って、全所在を録したものではない。

本調査について、貴重なる御所蔵本の閲覧について並々ならぬ御厚情を寄せられた御所蔵の各位に対し謹んで深謝の微衷を捧げ、本研究は昭和五十年度慶應義塾学事振興資金の研究費補助を受けたことを附記する。

昭和五十二年早春　　阿部隆一識

凡例

一、本目録は江戸時代に刊行された孝経類を第一部刊本類、江戸時代に成立せる未刊著作類を第二部未刊本類とに分けて著録した。

この刊本とは漢籍の所謂和刻本及び邦人撰述の国書を含む。但し該当刊本の明治以後の修・印・覆刻・影印本、国書に限ってその活字翻印本についても之を附記した。

未刊本中、明治後に至って初めて刊行されたものは第一部に刊年順に録し、該刊本の底本外の主要写本についてのみ附記を加えた。

一、第一部刊本類は次の分類下に刊年順に排列した。

(I)古文
(1)孔伝　A単経　B孔伝
(2)宋古文　A単経　B指解　C刊誤　D大義　Eその他
(3)日本人著作

(II)今文
(1)単経（殆どが御注本を底本としているので、全て単経として一括し、御注本以外のテキストの場合にのみ、注記を加えた）
(2)鄭注
(3)御注　A開元始注本系　B天宝重注本系
(4)その他
(5)日本人著作

(Ⅲ)折衷本
(Ⅳ)総論その他
(1)漢人著作
(2)日本人著作

刊年不明書は推定により〔江戸前期〕刊、刊、〔江戸後期〕刊として、幕末の最後、明治刊の前の所に一括して列した。但し古活字本のみは慶長元和間刊とし冒頭に置いた。

同一版でありながら刊記や刊者名を変えた後印・修印・外題換え本、次にその覆刻や翻刻の重刊本はその書の初刻本の次に年順に排列した。

一、未刊本は著者名の五十音順、著者未詳本は有著者名本の後に書名の五十音順に排列した。

一、各本標題の著者名は号名をとり、当該本に記されてある諱等は号名の下に（　）内に入れて記した。

一、刊本の各書名標題は初出本の後印後修本の場合は又、その覆刻或は翻刻の別版の場合は同と略記した。

標題下（　）内の覆28の如きは、28番本の覆刻たることを示す。

伝注者名の「旧題漢孔安国伝」の如きは当該分類の初出本にのみ記し、以下は省略した。

一、刊本の解説は次の①以下の標目の順で記した。

①外題（内題と同じければ省略）　②封面・見返し　③本文に入る前の序・目録等の首目　④内題　⑤版式等、匡郭の四周双辺・左右双辺・四周単辺は双・左右双・単、有界・無界は有・無、毎半葉幾行、毎行幾字は幾行幾字（和文の字数不等の場合は省略）、注等の小字双行は小双、版心は黒口等で表示　⑥尾題（内題と同じか問題なければ省略）　⑦本文後の附録・跋等　⑧刊記・奥附等　⑨所在、所蔵者名は次の略称による（未刊本も同じ）

玄（関西大学図書館蔵田結荘氏旧蔵玄武洞文庫）　林（林秀一氏）　岡（岡山大学図書館）　石（大阪外国語大学図書館〈石浜氏旧蔵〉）　規（長沢規矩也氏）　浜（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵浜野文庫）　斯（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫）　慶（慶應義塾図書館）　東（東京大学図書館）　狩（東北大学図書館蔵狩野文庫）　椙（椙山女学園大学図書館）

明治以降発行の鉛印本影印本等には所在や①以下の版式の解説を省略した。⑩備考　刊本の解題は版式にとゞめ、内容等についての説明は特別の場合を除き省略した。訓点については白文か断句のみ或は総振仮名のみを記し、普通の訓点本の場合は特記しなかった。

後印・修・覆刻本については①―⑩の説明は、前掲本と異る事項のみを記して、同事項は殆ど省略した。

一、各本の標題の上に通し番号を附した。刊本は一版種一番号とした。従って同版の後印・修補本は刊記が変って一見別版の如く見えても、番号を与えていない。明治後の影印・翻刻本は番号を附さない。未刊本の写本は401から始めた。

一、未刊本は簡潔な内容の解説を主とし、末に蔵者名を（　）に入れて各伝存本を注記した。

一、所蔵者名の肩に＊が冠してあるのは、その本の全巻のマイクロフィルムその他の複写が本文庫に蔵することを示す。

第一部　刊本

I　古文

(1)　孔伝

A　単経

1古文孝経　慶長四年刊（勅版）　大一冊

②孝経慶長／己亥刊行　③孔序　④古文孝経　孔氏伝　⑤左右双有8行17字。大黒口　⑨刈谷図書館・国会図書館・宮内庁書陵部・東洋文庫　⑩白文。「喪親章第二十二」なし。

同　昭和十年刊（東京　斯文会）　大一冊（影東洋文庫蔵本）

同　昭和十九年跋刊（〔京〕　伏見稲荷）　特大一冊

佐々木竹苞楼の覆刻（本文一―八丁）に、影印（序・本文九丁目）を補配せしもの。

2孝経　〔太宰〕春台点　延享元年五月刊（江戸　須原屋小林新兵衛）　大一冊

①古文孝経正文　③孔序　④孝経　⑤双有9行18字。白口　⑧木記の前に「春台先生訓点」と署し、以下に木記「延享元甲子夏五月日／須原屋小林新兵衛梓」。「嵩山房蔵板目録」を付すものあり　⑨玄林　⑩以下19迄の覆刻又は翻刻本では序題「古文孝経序」の「ノ」の送仮名がないもののみを「ノなし」と略記する。

3同　天明三年九月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆2）

①同前　⑧春台先生訓点／木記「延享元甲子夏五月日／天明三年癸卯九月日　再板／東都　嵩山房　江戸日本橋南二町目　小林新兵衛梓」　⑨岡玄林。

4同　寛政四年九月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆3）

①古文孝経正文再板　⑧春台先生訓点／木記「延享元申(ママ)子夏五月日／寛政四年壬子九月日　再板／（以下同前）」　⑨岡玄林。

5同　〔江戸後期〕刊　〔明治〕印（和歌山　平井五牧堂　平井文助）　大一冊（覆4）

①古文孝経正文新刻　⑧春台先生訓点／木記「延享元申(ママ)子夏五月日／寛政四年壬子九月日　再板／南紀　青霞堂　若山新通二丁目　帯屋伊兵衛梓」。奥付「平井五牧堂蔵版書目／（文部省翻刻『物理階梯』等）／書林　和歌山本町弐丁目　平井文助」　⑨石　⑩初印本未見。

6同　文化九年三月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）

①「古文孝経正文」又は「古文孝経正文新刻」　⑧春台先生訓点／木記「延享元申(ママ)子夏五月日／文化九年壬申三月日　再板／東都　嵩山房　江戸日本橋南二町目　小林新兵衛梓」。「嵩山房蔵板目録」を付すものあり　⑨狩玄林　⑩「ノ」なし。

7同　文政二年十二月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）
大一冊（覆刻）
①古文孝経正文再板　⑧春台先生訓点／木記「延享元申子夏五月日／文政二己卯十二月　再板／（以下同前）」。「嵩山房蔵板目録」を付すものあり　⑨岡規玄林。

8同　天保六年五月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）
①同前　⑧春台先生訓点／木記「延享元申子夏五月日／天保六乙未夏五月日　再板／（以下同前）」。「嵩山房蔵板目録」　⑨岡玄浜林　⑩「ノ」なし。

9同　嘉永四年一月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）
①同前　⑧春台先生訓点（位置高し）／木記「延享元甲子夏五月日／嘉永四辛亥春正月日　再板／（以下同前）」。「嵩山房蔵版目録」　⑨規玄林。

10同　慶応二年一月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）
①同前　②春台先生訓点／古文孝経／東都書肆　嵩山房梓　⑧春台先生訓点（位置高し）／木記「延享元甲子夏五月日／慶応二丙寅春正月日　再板／（以下同前）」。奥付「（広告書目）／東都書肆　嵩山房　小林新兵衛梓」　⑨規　⑩八（最終丁）ウ一行目「春秋……」（14も同様。他は全て「秋……」とあり）。

又〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊
②「東都」を「東京」と改む　⑧木記の「東都」を「東京」と改む。奥付も同様に改む　⑨岡楫東　⑩明治以後教科書用として此系統のものが数多く覆刻されているが、それらは省略した。

11同　文化二年三月刊（江戸　川喜田善次郎）　大一冊（覆刻）
⑧春台先生訓点／木記「文化二乙丑三月／書林　江戸神田松枝町川喜田善次郎」　⑨規林。

12同　慶応三年刊（美作　安藤択善蔵板）　大一冊（覆刻）
①孝経　③なし　⑧春台先生訓点（位置高し）／慶応三丁卯年／作陽　安藤択善蔵板／姫路　製本所　灰屋庄八　⑨規林　⑩林に刊年と作陽のみを残し以下を削去せる後印本あり。

又　明治十年十二月〔印〕（津山　万竹堂）　大一冊
①古文孝経　②同上　⑧「春台先生訓点」のみを残し以下を削去。奥付「明治十年十二月翻刻御届／書肆　美作津山本町二丁目　万竹堂発兌」　⑨玄。

又〔後印〕（美作　沢鳳山）　大一冊
⑧春台先生訓点。裏表紙見返に以下の印あり。「薦　両親冥福」。「美作国久米北条郡／中北上村少林寺／沢鳳山」　⑨玄。

13同　〔江戸後期〕刊　〔後印〕（山形　崑崙堂北条忠兵衛）　大一冊（覆刻）
①古文孝経正文再板　⑧春台先生訓点。奥付「崑崙堂蔵書目録／書肆　羽州山形十日町一丁目　北条忠兵衛梓」　⑨林。

又〔明治〕印（山形　明治閣）　大一冊
①春台先生訓点古文孝経　②春台先生訓点／古文孝経／山形書肆　明

治閣蔵　⑧春台先生訓点　⑨斯。

14孝経　天保三年夏刊（春霞堂）　大一冊（覆刻）

①孝経正文　②天保三壬辰夏／孝経正文／春霞堂　⑧なし　⑨規　⑩「ノ」なし。八（最終丁）ウ一行目「春秋……」。訓みに太宰本と少異あり。規に後印本二本あり、共に見返なし。

15孝経　寛政七年六月刊（津軽　稽古館蔵板）　大一冊（覆刻）

①　③孔序　④孝経　⑤双有9行18字。白口　⑧木記「寛政七年乙卯六月日／津軽　稽古館蔵版」　⑨東　⑩白文。声点あり。

又　明治十二年十一月〔修〕（青森　神彦三郎）　半一冊

⑧木記削去。奥付「明治十二年十一月十日出版御届／（広告書目）／出版人　青森県　神彦三郎／売捌所　右同　秋元源吾」

⑨内閣文庫　⑩七丁目全丁修。

16孝経　〔江戸後期〕刊（〔豊後〕　由学館蔵板）　大一冊（覆刻）

①古文孝経正文　③孔序　④孝経　⑤双有9行18字。白口。序・本文巻頭下象鼻に「由学館蔵」　⑨狩玄　⑩断句。玄の裏表紙見返に「天保六歳次臘月日云々」と墨書あり。

17孝経　〔江戸後期〕刊（〔豊後〕　由学館蔵板）　半一冊

①古文孝経正文　③孔序　④孝経　⑤左右双有9行18字。白口。下象鼻に「由学館蔵」　⑨狩玄　⑩白文。字様くずれ写刻体風。

18孝経　〔江戸後期〕刊　大一冊（覆刻）

③孔序　④孝経　⑤双無9行18字。白口　⑨狩　⑩断句。狩一本は序なし。

19同　〔江戸後期〕刊　大一冊（覆18）

①白文孝経　③なし　⑤単無。黒口　⑨規　⑩断句。

20孝経　〔太宰〕春台点　嘉永四年十一月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①大字古文孝経正文再版　②春台先生訓点／古文孝経／東都書肆嵩山房梓　③孔序　④孝経　⑤単有6行12字。白口　⑧奥付「（広告書目）／嘉永四年辛亥十一月再版／東都書肆　嵩山房日本橋通二町目　小林新兵衛梓」　⑨岡林　⑩28の後修本と関係あらむ。

21同　万延元年十一月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆20）

①同前　②同前　⑧奥付「（広告書目）／万延元年庚申十一月再版／（以下同前）」　⑨玄林。

22同　慶応二年五月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）

①同前　②同前　⑧奥付「（広告書目）／慶応二年丙寅五月再版／（以下同前）」　⑨林。

又〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

②「東都」を「東京」と改む　⑧奥付の「東都」を「東京」と改む　⑨岡玄斯椙東。

23同　太宰春台（弥右エ門）点　明治十四年十一月刊（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）

①同前　②版権免許（横書）／春台先生訓点／古文孝経／東都書肆　嵩山房梓　⑧奥付「（広告書目）／天保四年二月原版刻成／明治九年二月十九日版権免許／同十四年十月廿八日五刻御届／同十四年十一月出版／訓点者　故人　太宰弥右エ門／嵩山房　版主　東京日本橋通二丁目十三番地　小林新兵衛」　⑨岡狩玄東　⑩明治以後此系統の覆刻本は教科書用として甚だ多いが、嵩山房の刊行になるもの以外は省略した。

24古文孝経付釈文　馬場春水書　宝暦四年五月刊（江戸　大和田安兵衛）　大一冊

①古文孝経馬場春水書　④古文孝経　⑤無無3行10又は11字　⑥古文孝経／延享五戊辰春正月廿三日馬春水／八十有六　⑦宝暦四甲戌仲穐望日源政隆跋。釈文（総振仮名・単無10行20字）　⑧宝暦四季甲戌夏五月寿桜／江戸書肆　室町二丁目　大和田安兵衛蔵版　⑨浜林　⑩白文。陰刻。

25孝経　〔松下烏石〕（葛辰）書　宝暦四年刊（京　山田三良兵衛・中野宗左衛門）　大一冊

④孝経　⑤無無3行5字　⑥孝経終／宝暦三年九／月書為／楽山公子／葛辰　⑧奥付「宝暦甲戌四年／平安書林／中野宗左衛門／山田三良兵衛」　⑨林　⑩白文。陰刻。

26孝経付弟子職・容節　明和九年刊（〔笠間〕　時習館蔵板）　大一冊

①誦数　②明和壬辰鋟（横書）／鬻梓／誦数　④孝経　⑤双有9行17字。黒口。黒口部に陰刻「時習館蔵」　⑦弟子職。容節　⑨規玄斯林。

27孝経　亀井南冥（魯）点　安永九年六月序刊（北筑南溟堂蔵板）　大一冊

①孝経正文　③安永九年庚子六月庚午亀井魯道載序　④孝経　⑤単有6行12字。白口　⑧木記「北筑南溟堂蔵」　⑨規玄東　⑩東一本は「訓」（一オ四行目・五ウ三行目）の送仮名を「訓」と改む。

28同　〔江戸後期〕刊　大一冊（覆27）

①同前　⑧同前　⑨関西大学　⑩裏表紙見返に「天保九戊戌年求之」と墨書。送仮名は「訓」とあり。

又　天保十五年八月〔印〕（京　尚書堂堺屋仁兵衛）　大一冊

①同前　②心学家訓心得草／（広告）／京都三条通柳馬場角道話堺屋板」（相）。又は「京都三条通柳馬場東角　書林　堺屋仁兵衛板元」と刻する広告書目（玄）　⑧木記同前。奥付「観音経和談抄図会／一休諸国物語図会／天保十五辰年八月／京都書林　三条通柳馬場東へ入町　尚書堂　堺屋仁兵衛板元」　⑨玄相。

又　題〔太宰〕春台点　〔修〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

②春台先生訓点／古文孝経／東都書肆　嵩山房梓　③孔序　⑧木記削去。奥付「（広告書目）／江戸　書肆嵩山房　小林新兵衛梓行」　⑨狩　⑩亀井関係の名称を全て削去した南冥本の本文に、20以下の春台本系と同様に声点を加え訓みを改めたもので、20系の見返と序とを取合せて用いている（但し序は左右双

辺)。

29孝経　天明三年一月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）
小一冊
①古文孝経仮名付　②仮名付／古文孝経／江戸　書肆　嵩山房梓行　③享保十六年辛亥十一月壬午太宰純序。孔序　④孝経（カウケイ）⑤単有7行14字。白口。下象鼻に「嵩山房蔵」　⑧奥付「（広告書目）／天明三年癸卯正月／書肆　江戸日本橋南通二町目西側角　小林新兵衛板」　⑨玄林　⑩総振仮名。

30同　文政十年六月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　小一冊（覆29）
①同前　②「文政再板」（横書）。以下同前　⑧奥付「（広告書目）／天明三癸卯年正月／文政十丁亥年六月再板／書肆　江戸日本橋南二町目　小林新兵衛板」　⑨石岡玄椙東浜林。

31孝経　衣関甫軒（敬鱗）校　天明四年八月刊（一関一関学舘蔵板）　大一冊
②一関学舘蔵板／古文孝経正文　③孔序　④孝経　⑤双有8行18字。白口　⑧天明甲辰秋八月衣関敬鱗甫軒刊語　⑨林　⑩白文。

32孝経　平林三嶽（可儀）書　天明六年十一月刊（江戸嵩山房小林新兵衛）　大一冊
①　②三嶽平林先生書／古文孝経／東都書林　嵩山房梓行　③天明丙午冬十月関脩齢序　④孝経　⑤無無6行12字　⑥尾題なく巻末に「天明乙巳年秋九月／三嶽平林可儀書」　⑦天明丙午冬十月古屋鬲跋　⑧（広告書目）／天明六年丙午十一月／東都書林　嵩山房　日本橋通二町目西側角　小林新兵衛梓行　⑨狩玄　⑩白文。陰刻。

33孝経〔沢田〕東江書　天明八年刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊
②天明戊申新鐫／古文孝経／東都書肆　嵩山房発行　③孔序　④孝経／孔安国伝（伝文なし）　⑤単有6行10字。白口　⑦天明八年戊申九月芝厳跋　⑧奥付「（広告書目）／江戸　書肆嵩山房　小林新兵衛梓行」　⑨狩玄東　⑩白文。跋に「東江先生」の書なりと。林崎学堂石経本。

34孝経　中井尚善校　寛政元年五月序刊（中井氏）　特小折一帖
①古文孝経　②古文／孝経　③寛政己酉夏五月雉岡黒沢万新采直植通央序　④孝経　⑤単無6行12字　⑦寛政改元五月中井尚善跋　⑨林　⑩白文。序に「中井氏ふかく／こゝに見る所ありて此経を小冊の摺（すり）／本となし世の人に授く」と。

35孝経　田蒼梧（大齢）校　寛政二年二月跋刊（西学）　大一冊（木活）
③寛政庚戌春二月蒼梧田大齢跋（「題白文孝経後」と題書）
④孝経　⑤単無10行17字。白口。下象鼻に「西学梓行」　⑨玄　⑩白文。

36孝経　寛政四年刊（咸章堂蔵板）　大一冊
①　②寛政四年壬子開鐫／孝経／咸章堂蔵　④孝経（底本の瓢形印記「彰考館」をそのまま刻す）　⑤双有9行17字。白口　⑨岡狩玄浜林。

37日本国草莽儒業織田氏賛襄館二世盟主越山大先生訂解孝経正文　織田越山訂　寛政五年十一月跋刊（織田氏賛襄館蔵板）　半一冊

①訂解孝経正文　②越山先生論定／孝経正文／賛襄館蔵　④日本国草莽儒業織田氏賛襄館二世盟主／越山大先生訂解孝経正文　⑤左右双有8行17字。白口。下象鼻に「賛襄館蔵」　⑥尾題なく巻末に「寛政五年癸丑十一月丙申／門下　大都講　家弟従周謹校」　⑨玄林　⑩断句。声点あり。420参照。

38　孝経　豬維嶽校　寛政十一年刊（〔会津〕　日新舘蔵板）　大一冊

②日新舘九経／孝経正文／寛政己未新鐫　④孝経　⑤単有9行17字。白口　⑥巻末に「会津　豬維嶽謹校」　⑧日新舘蔵版　⑨規。

39孝経　享和三年十二月刊　中一冊

①古文孝経　④孝経　⑤双有5行15字。白口　⑧享和三年歳在癸亥冬十有二月吉日　⑨岡玄椙東浜林　⑩白文。伝川越板。

40古文孝経定本　朝川善菴（鼎）考定　文化六年三月序刊（〔江戸〕　学古塾蔵板）　大一冊

①　②朝川善菴先生著／孝経六書／（六書の各書名）　学古塾蔵　③文化己巳春三月朝川鼎孝経六書叙。扉「古文孝経定本」。文化己巳春三月関達例言　④古文孝経定本／江戸　朝川鼎五鼎氏考定／門人（跨行）／秋田　関　達／上毛　斎藤尚／同校（跨行）　⑤単有9行18字。白口。下象鼻に「学古塾蔵」　⑨石岡狩規玄東浜林　⑩叙・例言・扉の順に綴じるものあり。上記見返なく扉を見返とするものあり、此方早印か—石・東浜一本。又見返「学古塾蔵」の下に「嵩山房」の朱印を捺すものあり、後印本か。

41古文孝経定本　朝川善庵考定　〔江戸後期〕刊（長門育英社蔵板）　大一冊

①正謬古文孝経定本　②正謬古文孝経定本／長門　育英社蔵　③文化己巳春三月関達例言（40の例言の覆刻）　④古文孝経定本／朝川善庵考定　⑤単無6行12字。白口　⑨玄。

又　明治六年三月〔印〕（大坂　松村九兵衛）　大一冊

①同前　②「長門　育英社蔵」を削去（林に同様に刷印せる袋あり）　③玄のみ「例言」あり　⑧奥付「明治六年三月求版／大阪心斎橋南壱丁目　松村九兵衛」　⑨玄東林。

42孝経　井坂一清書　文化六年五月刊（江戸　岡田屋嘉七・須原屋新兵衛）　大一冊

①草書孝経　③文化戊辰冬十有二月甲亥宮田華龍序　④孝経　⑤単無5行8又は9字　⑥尾題なく巻末に「文化五年歳在／戊辰冬十月望／東都／井坂一清書」　⑦臨池逸氏跋　⑧奥付「文化六年己巳五月／東都書肆／日本橋通二丁目　須原屋新兵衛／芝神明町新道　岡田屋嘉七」　⑨岡規玄林　⑩白文。陰刻。

43孝経　文政十年刊（木曾　水竹居蔵板）　半一冊（包背装）

①「古文孝経正文」と表紙にじかに刷る　④孝経　⑤双有6行11字。白口。下象鼻に「水竹居」　⑧裏表紙見返にじかに「文政丁亥歳／木曾水竹居蔵板」　⑨玄林。

44孝経　兼子天来（鼎）点　文政十年刊（兼子氏智聖堂蔵板）　大一冊

①古文孝経（兼子点）　②文政十年丁亥新鐫（横書）／天来先生訓点／古文孝経／智聖堂蔵版　④孝経／常陸　兼子鼎句読　⑤単有6行11字。白口　⑧「智聖堂著述目録　兼子氏塾」一丁あり　⑨玄林。

45孝経　〔江戸後期〕刊　天保三年十一月〔印〕（京　弘簡堂須磨勘兵衛）　大一冊

①（官許）古文孝経　③孔序　④孝経　⑤単有6行13字。白口　⑧奥付「弘簡堂蔵版／天保三年壬辰十一月求版／皇都書林　冨小路通三条上ル町　須磨勘兵衛」　⑨玄　⑩題簽に「官許」とあり、装訂等から見て或は明治印か。

又〔後印〕（京　弘簡堂升屋勘兵衛）　大一冊

①（音註正文）古文孝経　⑧奥付「和漢諸書物仕入所（須磨姓弘簡堂）／京都　書林　三条通富小路東江入町　升屋勘兵衛版」　⑨狩。

又　題片山〔兼山〕点　明治五年四月〔印〕（京　遠藤平左衛門等八書堂）　大一冊

①同前　②片山先生改点／（音註正文）古文孝経／京都書肆　八書堂発兌（狩に同様に刷る袋あり）　⑧奥付「明治五壬申年二月願上／同年四月官許／三府／書林／東京　村上出店／大阪　書籍会社／京都　村上勘兵衛／永田調兵衛／西村九郎右衛門／大谷仁兵衛／須磨勘兵衛／藤井孫兵衛／島林専助／遠藤平左衛門」　⑨岡狩玄東浜　⑩玄浜は表紙に直接②と同様に刷印し見返なし。後印本か。

又　題〔太宰〕春台点　明治二十八年二月〔修〕（京　若林茂一郎）　大一冊

①（音註大字）古文孝経　②春台先生訓点／（音註）古文孝経／京都書肆　花説堂発兌（明治五年刊本のものを使用）　③孔序（明治五刊本）　④（三丁目より明治五刊本）―単有6行12字。白口　⑧奥付「明治廿八年二月求版／求版者　若林茂一郎　京都市寺町通御池上ル上本能寺前町廿六番戸／発売者　若林支店　京都市寺町通二条下ル妙満寺前町三番戸／（広告書目）／和漢洋新古書籍販売所」　⑨玄林　⑩明治五年四月刊（京　花説堂遠藤平左衛門）題〔太宰〕春台点「孝経」との取合せ本で、題簽・見返・序・本文三丁目より巻末迄は全て明治五刊本のものを使用しており、45の板木は僅かに一・二丁目のみである。

46孝経（外題「童子孝経指南車」）　池田東籬編　菱川清春画　天保七年一月刊（京　山城屋佐兵衛等）　特小一冊

①（童子）孝経指南車　②と③　「仲尼閒居曾子侍坐」の図。「楠正成親子」の図。「士農工商」の図（三オ「士」の図迄彩色）。永字八法。十六点。幼童読書目。篆字伊呂波。唐以呂波　④孝経　⑤単無4行7字　⑦「男女幼童名頭字」等便覧を付す　⑧彩色奥付「皇都　池田東籬亭主人編并書／仝　菱川清春　画／天保七／丙申年／正月発／京摂書林／河内屋長兵衛／伏見屋半三郎／井筒屋忠兵衛／山城屋佐兵衛」　⑨玄　⑩総振仮名。上段に日常便覧を付す。

又〔修〕（京　山城屋佐兵衛等）　特小一冊

⑧同前奥付の書肆名を「京摂書林／大野木市兵衛／井筒屋忠兵衛／山城屋佐兵衛」と改む　⑨玄　⑩「幼童読書目」中の「五経」の順序に修あり。「春秋・詩経・易経・書経・礼記」→「易経・詩経・書経・春秋・礼記」。

又〔池田〕東籬編　菱川清春画　至嘉永三年春〔遞修〕（〔京〕　山城屋佐兵衛等）　特小一冊

②と③「仲尼閒居曾子侍坐」の図。「神功皇后三韓を平治し玉ふ」図。「御曹司牛若丸武蔵坊弁慶」の図—以上彩色図新刻。「農」の図以下同前　⑧奥付「洛士　東籬主人編書／仝　菱川清春画／嘉永三／年戌／春発／三都／書房／丁子屋平兵衛／秋田屋市兵衛／山城屋佐兵衛」　⑨玄東。

又〔池田東籬〕編〔菱川清春〕画〔後印〕（京　吉野屋仁兵衛等）　特小一冊

②なし　③彩色図なし。「農」の図以下同前　⑧奥付「天保六乙未年八月再版／京都書林／伏見屋半三郎／山城屋佐兵衛／吉野屋仁兵衛」　⑨椙林　⑩奥付に「天保六」とあれど最も後印。林は奥付なし。

47孝経　筒井〔鑾溪〕（憲）点　市河〔米庵〕（三亥）書　嘉永三年刊（薩摩　薩摩府学蔵板）　特大一冊

①中楷古文孝経　②嘉永庚戌新鐫／古文孝経／薩摩府学蔵版　③嘉永三季庚戌孟夏筒井憲叙　④孝経　⑤単有5行9字。白口　⑥孝経／嘉永三年歳次庚戌仲／春月／市河三亥書　⑧朱印「薩摩府／学刊行」　⑨石狩規椙東浜林。

又〔後印〕（大坂　伊豫屋善兵衛・相屋九兵衛〈鹿児島藩蔵板〉）　特大一冊

①中楷古文孝経市川米庵書　②同前　⑧奥付「鹿児島藩蔵板取次所／阪府／書林／南久太郎町一丁目　相屋九兵衛／堺筋通清水町伊豫屋善兵衛」　⑨岡玄。

48孝経　川上泊堂（由蔵）点　明治十五年七月刊（大坂　春篁堂小野藤吉）　半一冊

①「大字」と角書し、「川上由蔵訓点／古文孝経」　②泊堂川上由蔵訓点／大字古文孝経／浪華書肆　春篁堂梓　④孝経　泊堂　川上由蔵訓点　⑤単有6行9字。白口　⑧奥付「明治十五年七月三日出板御届／仝　年仝月　刻成／漢孔安国伝／訓点人　大坂府平民　川上由蔵／出板人　同　小野藤吉」　⑨玄林　⑩47を底本とし、行款を変えて改点覆刻せしもの。

49孝経　安政五年刊（〔安中〕　桃谿書院蔵板）　半一冊

②安政戊午新鐫／古文孝経／桃谿書院蔵版　④孝経　⑤単無9行16字。白口。下象鼻に「郷学校蔵板」　⑧製本所／江戸外神田旅籠町壱町目　紙屋徳八／上州安中上野尻町　千巻屋喜平次　⑨林。

50古文孝経　刊　大一冊（木活）

①新鐫改正孝経　③孔序　④古文孝経　⑤双無8行13字。大黒口。下象鼻に「倭板無点」　⑨狩玄　⑩白文。

51孝経　神林復所点　〔江戸後期〕刊（譲善舎蔵板）　大一冊

①古文孝経神林先生訓点　②復所神林先生訓点／訂正古文孝経／譲善舎蔵版　④孝経　⑤単有9行18字。白口　⑨玄。

52孝経 〔江戸後期〕刊（因幡 尚徳館蔵板） 大一冊
①古文孝経因幡国尚徳館蔵版 ④孝経 ⑤双有8行17字。白口 ⑨岡斯浜林 ⑩岡は2以下の「春台本」系「孔序」の覆刻と思われる序を付す。

53孝経 〔江戸後期〕刊（〔鶴岡〕 致道館蔵板） 大一冊（木活）
④孝経 ⑤双有10行17字。白口。上象鼻に「致道館蔵版」 ⑨浜 ⑩白文。

54孝経 〔江戸後期〕刊（〔鶴岡〕 致道館蔵板） 大一冊
① ④孝経 ⑤左右双有8行16字。白口。上象鼻に「致道館蔵板」 ⑥孝経終 達順謹書 ⑨規慶玄東浜林 ⑩白文。

55古文孝経 〔江戸後期〕刊（〔京〕 盧山寺蔵板） 半一冊
① ④古文孝経 ⑤単無6行12字。黒口 ⑧盧山寺蔵板施本 ⑨狩規玄林。

56孝経 〔江戸後期〕刊（信州中野 山岸清左衛門蔵板） 中一冊
①古文孝経 ②道原于天地／徳本于孝弟 ④孝経 ⑤単無8行16字。白口 ⑧信州中野 山岸清左衛門蔵版 ⑨玄。

又 〔修〕 中一冊
①同前 ⑧削去 ⑨岡玄林 ⑩句点・声点を残し訓点・送仮名を削去。

57孝経 〔江戸後期〕刊（京 清水屋次兵衛） 中一冊
①印面表紙左肩にじかに「絵本孝経」と刻す ②例年大卅日に／おき上り／人形を／餝て／よく／□□／十日夷／吉兆手遊（彩色図） ④孝経 ⑤単無6行11字。白口 ⑦人形・菓・雑貨等の広告の後に「けんきんおろし売 京万小路四条下ル町 清水屋次兵衛敬白」 ⑨東 ⑩総振仮名。上段に図。

58孝経 〔江戸後期〕刊 半一冊（木活）
① ④孝経 ⑤無無7行14字 ⑨椙 ⑩白文。

59孝経 〔江戸後期〕刊 半一冊
④孝経 ⑤単有6行12字。白口 ⑨規林 ⑩林は十五丁以下欠。写刻本。

60孝経 〔江戸後期〕刊（桃洞書院蔵板） 大一冊
①孝経（表紙左肩にじかに刷るものあり） ④孝経 ⑤双無12行22字。白口。下象鼻に「桃洞書院」 ⑨狩規斯林 ⑩白文。後に240「古文孝経摂字註」に合印さる。

61孝経 〔江戸後期〕刊 大一冊
① ④孝経 ⑤双有6行12字。白口 ⑨狩 ⑩「開|宗間|居曾|子侍|坐」と誤刻す。

B 孔伝

62古文孝経 旧題漢孔〔安国〕伝 清原秀賢校 慶長七年八月跋刊 大一冊（古活）
③孔序 ④古文孝経 孔氏伝 ⑤双有8行17字小双。粗黒口 ⑦慶長壬寅八月壬子明経儒清原秀賢跋 ⑨京都大学・高野山宝亀院・東北大学・東洋文庫 ⑩白文。京大・東北大は共に廿六

丁目（尾題・跋文）なし。

63古文孝経〔慶長〕刊　大一冊（古活）

③孔序　④古文孝経　孔氏伝　⑤双有8行15字小双。黒口　⑨斯・神宮文庫・成簀堂文庫・東北大学　⑩白文。川瀬一馬氏著「古活字版之研究」著録の無刊記第一種本。

64古文孝経〔慶長〕刊　大一冊（古活）

③同前　④同前　⑤同前　⑨静嘉堂文庫・東洋文庫・日光天海蔵・早稲田大学　⑩白文。同無刊記第二種本。

65同　清原尚賢校　享保六年四月跋刊　大一冊（覆64）

①古文孝経　⑦享保辛丑孟夏己卯清原尚賢跋　⑨狩玄椙　⑩加点。

又〔後印〕（京　博文堂丸屋市兵衛）　大一冊

①　⑧「博文堂蔵板目録　皇都書林　二条通柳馬場西（入ル町丸屋市兵衛」一丁を付す　⑨規椙林。

66同付付録（付）山田松斎（文静）撰　天保六年三月跋刊　大一冊（覆64）

①古文孝経孔氏伝　②扉「古文孝経」。裏に朱にて「天保五季翻／刻活字古本」　⑦活字版孝経付録（「翻刻古本序」「経字数」「考異」「拙読」）。末に「天保六年乙未三月日／後学　信濃　山田文静太古氏謹識」　⑨石岡狩規玄浜林　⑩白文。「山田文静太古氏謹識」の後に「松斎」等の二顆の印を捺すもの早印。後印本は印なし。

67古文孝経〔慶長〕刊　大一冊（古活）

③孔序　④古文孝経　孔氏伝　⑤双有8行15字小双。黒口　⑨成簀堂文庫・東洋文庫　⑩白文。川瀬氏著述の無刊記第三種本。

68古文孝経〔元和〕刊　大一冊（古活）

③孔序　④古文孝経　孔氏伝　⑤双有8行18字小双。粗黒口　⑨京都大学　⑩白文。焼失の安田文庫本と同版か。

69古文孝経　貞享五年五月刊（京　西村七郎兵衛・大坂森田庄太郎）　大一冊

①新版点付古文孝経　③孔序　④古文孝経　孔子伝　⑤単無9行14字小双。粗黒口　⑧貞享五戊辰歳仲夏吉辰　梓行／大坂御堂前森田庄太郎／洛陽押小路　西村七郎兵衛　⑨玄林　⑩底本は足利学校等の「孝経直解」本系。

又　元禄七年八月〔印〕（大坂　油屋与兵衛・京　田中庄兵衛）　大一冊

①「新版点付古文孝経集註」又は「新板古文孝経」　⑧元禄七甲戌歳仲秋吉辰／洛陽五条　田中庄兵衛板／浪花高麗橋筋西　油屋与兵衛板　⑨狩規玄浜。

又　享保十五年〔印〕（大坂　吉文字屋市兵衛）　大一冊

⑧刊記同前。「享保十五年新板／板本　大坂安土町　吉文字屋市兵衛（広告目録）」　⑨林。

又　宝暦十一年一月〔印〕（大坂　定栄堂吉文字屋市兵衛）　大一冊

⑧刊記同前。「定栄堂蔵梓目録　大坂　吉文字屋市兵衛／宝暦十一年辛巳春正月校／大坂書肆　吉文字屋市兵衛／江戸書肆吉文字屋次郎兵衛」一丁を付す　⑨玄。

又〔後印〕（大坂　定栄堂吉文字屋市兵衛）　大一冊

①新板古文孝経　②儒書品目（規と玄とでは書名相違す）　⑧刊年を残し書肆名削去。規は「儒書暦書品目　定栄堂　大坂心斉橋南四丁目　吉文字屋市兵衛」二丁半を付す。玄は「（広告目録）／書林　吉文字屋市兵衛蔵版」半丁を付す　⑨規玄。

又〔後印〕（大坂　吉文字屋市左衛門）　大一冊

①同前　②なし　⑧刊年を残し書肆名を削ること同前。「（広告目録）／大坂心斎橋南江四丁目　吉文字屋市左衛門」二丁半を付す　⑨浜。

70孝経　太宰〔春台〕（純）音校　享保十七年二月刊（江戸　紫芝園蔵板）　大一冊

①　③享保十六年辛亥十一月壬午太宰純序。孔序　④孝経／漢魯人　孔安国　伝／日本信陽　太宰純　音　⑤双有9行18字小双。白口。下象鼻に「紫芝園」　⑧奥付「享保十七年壬子仲冬朔旦／東都　紫芝園蔵版」に朱印「紫芝園／蔵版不／許翻刻」を捺す（石・岡一本朱印なし）　⑨石岡規玄椙浜林　⑩断句。以下の79迄の覆刻本では管見に入った書の全てに朱印のなかった場合のみ、「朱印なし」と記載する。

又〔後印〕（江戸　嵩山房）　大一冊

⑧同前奥付の前に「江戸　書林嵩山房蔵梓目録」一丁あり　⑨狩浜。

71同　宝暦十一年五月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆70）

①孝経再刻　⑧奥付「享保十七年壬子仲冬朔旦／東都　紫芝園蔵版／宝暦十一年辛巳五月日　再刻／書肆嵩山房小林新兵衛発行」。朱印なし　⑨岡玄斯林　⑩林一本は奥付に以下の引札を貼付す。「古文孝経参疏三巻兼山字子造追鐫／同付録一巻　追鐫」。

72同　安永七年一月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）

①孝経新刻　⑧奥付「（前半同前）／安永七年戊戌春正月日　新板／（以下同前）」　⑨岡狩規玄東林　⑩狩と、規東林の各一本は92「古文孝経序跋」と合綴。

73同　寛政元年三月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）

①「孝経」又は「孝経再版」　⑧奥付「（前半同前）／寛政元年己酉三月　再版／（以下同前）」　⑨岡狩玄椙　⑩玄に92「古文孝経序跋」と合綴せしものあり。

74同　寛政六年十一月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）

①孝経再刻　⑧奥付「（前半同前）／寛政六年甲寅十一月　再板／（以下同前）」　⑨石岡玄椙東浜　⑩東は113「〔唐音〕孝経」・「徂徠先生学則」と合綴。

75同　文化四年三月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）

①孝経新刻　⑧奥付「（前半同前）／文化四年丁卯三月　新板／（以下同前）」　⑨石岡玄浜林。

76同　文政二年十二月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）

①孝経再板　⑧奥付「(前半同前)／文政二己卯十二月　再板／(以下同前)」　⑨岡規玄斯椙東。

77同　嘉永二年三月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）

①同前　⑧奥付「(前半同前)／嘉永二己酉三月　再板／(以下同前)」　⑨石岡規慶林。

又〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

⑧同前奥付の「東都」を「東京」と改む　⑨規東。

又　太宰春台（純）音校　明治九年二月〔印〕（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

⑧奥付「享保十七年八月　原版／嘉永二年三月　九刻／明治九年二月九日版権免許／註解者　故人　太宰春台／嵩山房　版主　東京日本橋区通二丁目十三番地　小林新兵衛」　⑨岡椙。

78同　太宰〔春台〕（純）音校〔明治〕刊　大一冊（覆77）

①同前　⑧奥付「享保十七年壬子仲冬朔旦／東都　紫芝園蔵版／嘉永二己酉三月　再板／書肆嵩山房小林新兵衛発行」（77「孝経」の奥付迄の覆刻）。朱印なし　⑨斯　⑩次の79「孝経」と共に明治以後の覆刻にかかる偽版であろう。

79同〔明治〕刊　大一冊（覆78）

①同前　⑧同前（78「孝経」の奥付迄の覆刻）。朱印なし　⑨狩規玄椙。

80孝経〔江戸後期〕刊　大一冊（覆刻）

②重刻古文孝経　⑤単無。白口　⑨規慶　⑩断句。

81孝経　太宰〔春台〕（純）音　寛政十年五月刊（江戸　衆星閣角丸屋甚助）　大一冊（覆刻）

①「古文孝経新板」又は「古文孝経正文再板」　⑤単有。白口。下象鼻に「古尚堂」　⑧奥付「古文孝経足利原本校正／東都　衆星閣蔵版／寛政十年戊午仲夏朔旦　新板／書肆　角丸屋甚助」　⑨規玄浜林　⑩70以下の太宰本の覆刻・付訓本。浜は奥付なし。「足利原本校正」と称するも偽ならむ。

82孝経　太宰〔春台〕（純）音　享和三年八月刊（江戸　関口氏）大一冊（覆刻）

①古文孝経新板　⑤単有。白口　⑧奥付「享和三年亥仲秋朔旦／新板／東都／書肆　関口氏」　⑨岡　⑩70以下の太宰本の覆刻・付訓本。

83孝経　太宰〔春台〕（純）音〔片〕山兼山（世璠）点〔片山述堂〕（格）校　文政十二年四月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊（覆刻）

①古文孝経山字点　②兼山先生訓点／古文孝経／江戸書肆　嵩山房梓　③太宰純序。孔序　④孝経／漢　魯人　孔安国伝　上毛　山世璠国読／日本信陽　太宰純音　孫　格参校　⑤双有。白口。下象鼻に「嵩山房」　⑧奥付「(広告書目)／文政十二己丑初夏／東都書肆　嵩山房　日本橋通南二町目　小林新兵衛板」　⑨石岡狩規慶玄東浜林　⑩孔序から後は70以下の太宰本の覆刻・付訓。

又〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

②「江戸」を「東京」と改む　⑧同前奥付の「東都」を「東京」

と改む ⑨東。

84〔古文〕孝経〔標註〕 太宰春台（純）音〔片〕山兼山（世璠）点注 明和九年一月序刊（江戸 嵩山房小林新兵衛） 大一冊

①古文孝経標註 ②春台先生音／古文孝経孔伝／兼山先生標註 嵩山房梓 ③明和九年壬辰春正月兼山山世璠序。又山世璠序。太宰純序。孔序 ④孝経／漢 魯人 孔安国伝／日本信陽 太宰純音／後学上毛 山世璠標註（二・三行目跨行） ⑤双有。白口。下象鼻に「紫芝園」 ⑧奥付「原本享保十七壬子年仲冬朔旦／古文孝経参疏三巻 兼山先生造 追鐫／同付録一巻 追鐫／明和八辛卯年三月／書肆嵩山房 小林新兵衛梓」 ⑨岡規東林 ⑩孔序から後は70以下の太宰本の覆刻・付訓。標注を新たに加う。岡は後印本で奥付の「古文孝経参疏」の下の「追鐫」の二文字を削去す。

85同 寛政六年十一月刊（江戸 嵩山房小林新兵衛） 大一冊（覆84）

①「古文孝経標註」又は「古文孝経標註再板」 ⑧奥付「原本享保十七壬子年仲冬朔旦／古文孝経参疏三巻 兼山先生出来／同付録一巻 追鐫／寛政六年甲寅十一月再板／書肆嵩山房 小林新兵衛梓」 ⑨岡玄東浜林。

86同 文化十二年三月刊（江戸 嵩山房小林新兵衛） 大一冊（覆刻）

①古文孝経標註再刻 ⑧奥付「（前半同前）／文化十二年乙亥三月再刻／書肆嵩山房 小林新兵衛梓」 ⑨石岡規玄斯椙林。

87同 安政七年一月刊（江戸 嵩山房小林新兵衛） 大一冊（覆刻）

①同前 ⑧奥付「（前半同前）／安政七年庚申正月再板／書肆嵩山房 小林新兵衛梓」 ⑨岡狩規斯椙浜林。

又 太宰春台（純）音 片山兼山（世璠）点注 明治九年二月〔印〕（東京 嵩山房小林新兵衛） 大一冊

⑧奥付「享保十七年八月原版／安政七年正月五刻／明治九年二月版権免許／標註者 故人 片山兼山／嵩山房 版主 東京日本橋区通二丁目十三番地 小林新兵衛」 ⑨岡玄林。

88同 太宰春台（純）音 片山兼山（世璠）点注 明治十六年六月刊（東京 嵩山房小林新兵衛） 大一冊（覆刻）

①古文孝経標註六刻 ⑧奥付「享保十七年八月原版刻成／明治九年二月十九日版権免許／同十六年五月十一日六刻御届／同年六月六刻刻成／標註者 故人 片山兼山／嵩山房 版主 東京日本橋区通二丁目十三番地 小林新兵衛」 ⑨岡狩玄東林。

又〔後印〕（東京 錦栄堂大倉孫兵衛） 大一冊

①同前 ⑧同前奥付に「書林／和漢洋（以上横書）／大日本東京日本／橋区通壱町目第／拾九番地錦栄堂／大倉孫兵衛発兌」と刻する朱印を捺す ⑨東。

89同 太宰春台（純）音〔片〕山兼山（世璠）点注 天保十五年春刊（京 松栄堂蓍屋幸介） 大一冊（覆刻）

①改正標註古文孝経 ②春台先生音／古文孝経校本／兼山先生標註

松栄堂梓　④双有。白口。下象鼻に「松栄堂」　⑧奥付「（広告目録）／天保十三寅年御免／同十五辰春刻成／皇都書林／寺町蛸薬師下ル丁　松栄堂　蓍屋幸介」　⑨石岡規玄林。

90孝経孔氏伝〔太宰春台〕音　田蒼梧（大齢）・島翮楊皐（沖夫）点注〔天明八年〕秋刊（〔会津〕　日新館蔵板）　大一冊

①孝経　②宗聖曾子絵像賛　③孔序。太宰純序　④孝経孔氏伝／会津（二・三行目跨行）／蒼梧　田　大齢／楊皐　島翮沖夫／同校（二・三行目跨行）　⑤双有。白口　⑧奥付「戊申秋新鐫／日新館蔵版」（岡・規一本・東浜は奥付なし）　⑨石岡規玄東浜林　⑩本文は70以下の太宰本の覆刻・付訓。標注を加う。

91孝経　題太宰〔春台〕（純）音〔渋井〕太室点注　享和二年三月跋刊（米沢　好生堂蔵板）　大一冊

①「標説孝経」又は「標説古文孝経」（玄に「標説孝経　好生堂」と刷る袋あり）　③太宰純序。孔序　④孝経／漢　魯人　孔安国伝／日本信陽　太宰純　音　⑤双有。白口。下象鼻に「好生堂」　⑦享和二年三月司市田盛敞跋　⑧米沢　好生堂蔵版　⑨岡狩規玄浜林　⑩跋に「標先師太室先生之説」とあり。本文は70以下の太宰本の覆刻・付訓。但し声点なく標説を加う。

92〔古文孝経序跋〕（外題）　木〔村〕〔蒹葭堂〕（孔恭）編　天明元年八月刊（嘉靖堂蔵板）　大一冊

②扉「翻刻清鮑長塘知不／足斎叢書第一集古／文孝経序跋／嘉靖堂蔵版」　③天明改元辛丑孟秋日木孔恭序。辛丑中秋前三日曾之唯序　④古文孝経孔氏伝序。新彫古文孝経序。古文孝経序。跋　⑤双有9行18字。白口。下象鼻に「嘉靖堂蔵」　⑧天明改元歳辛丑秋八月／嘉靖堂蔵（朱印「嘉靖／堂記」）　⑨関西大学。

又〔後印〕（大坂　柳生助七等）　大一冊

①　②扉又は見返同前　③玄・斯一本は序の後に「新刻清人の序跋前板之古文孝経／御とぢ加へ被成候へば全本に相成候様ニ／界行を合セ置申候四方之君子御求メ／奉希候　書林某等謹白」一丁あり　⑧同前刊記の次に「平安　武村嘉兵衛／梁瀬伝兵衛／村田平兵衛／柳原喜兵衛／日下甚兵衛／浪華　高橋喜助／伴八兵衛／野村長兵衛／柳生助七」一丁あり　⑨石狩規玄斯相東林　⑩狩規東・林一本は72「孝経」と合綴。玄一本は73「孝経」と合綴。合綴本に「平安　武村嘉兵衛」以下を列挙せる葉なきものあり。

93孝経付古文孝経（宋古文）　題太宰〔春台〕（純）音　天明二年三月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　中一冊（翻清知不足斎叢書本）

①古文孝経　②漢孔安国伝／古文孝経／東都　嵩山房蔵板　③乾隆四十有一年秋七月盧文弨序。乾隆四十有一年歳次丙申暮春之吉呉騫序。乾隆四十一年歳次丙申中春吉鄭辰序。孔序　④孝経／漢　魯人　孔安国　伝／日本信陽　太宰純　音　⑤左右双有9行21字小双。白口。下象鼻に「知不足斎叢書嵩山房翻刻」　⑦古文孝経宋本。乾隆丙申鮑延(ママ)博跋。太宰純序。天明改元十月大塩良跋　⑧奥付「天明二年壬寅春三月／書肆／京都　武村嘉兵衛　弘所／東都　小林新兵衛　梓」　⑨岡狩規玄東林　⑩白文。声点

なし。

94同　寛政二年八月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　中一冊（覆93）

①同前　③盧文弨序。呉騫序。鄭辰序。太宰純序。孔序　⑦古文孝経宋本。鮑延博（ママ）跋。大塩良跋　⑧奥付「天明二年壬寅春三月／寛政二年庚戌秋八月再板／東都　嵩山房／書肆　小林新兵衛梓」　⑨岡規玄椙浜林。

95孝経　太宰〔春台〕（純）音　小畑詩山（行簡）訂　弘化二年七月序刊（〔江戸〕　詩山堂蔵板）　大一冊

①　②詩山小畑先生訂正／古文孝経　③弘化二年秋七月仲浣小畑行簡序。太宰純序（年記「亨保」と誤刻）。孔序　④孝経／漢　魯人　孔安国　伝／大日本（三・四行目跨行）／信陽　太宰純　音／江戸　畑行簡　訂　⑤単無8行20字小双。白口。下象鼻に「詩山堂」　⑨岡規玄椙東浜林　⑩断句。

96孝経　松平孤龍（龔）校　明和七年三月序刊（獲麟蔵板）　大一冊

①「孝経」の下に「古文孔氏伝以／明法道大博士／坂上明兼本校」とあり　③明和七年庚寅暮春既望松平龔序（印文に「孤龍」とあり）。孔序　④孝経／孔氏　伝　⑤双有9行18字小双。白口。序・巻頭巻末等の下象鼻に「獲麟蔵」　⑧尾題前に朱印「獲麟蔵」（林は朱印なし）。「校正九経獲麟蔵本遺考（書目）」半丁あり　⑨東浜林　⑩長沢規矩也氏に著者自筆草稿本あり。その著者識語に「孔氏伝古文孝経古本跋尾云明法道大博士坂上明兼以古巻／書写云云明兼者按長承之比人則山本右衛門尉之家先也（以下略）」と。

97孝経（清家正本）　清原宣条校　天明元年十月刊（京　田中市兵衛〈清原家蔵板〉）　大一冊

①「古文孝経清家正本」。斯に「清原家正本／古文孝経／平安博文堂発行」と刷る袋あり　③天明辛丑年冬十月清原朝臣則賢序。天明辛丑年冬十月清原朝臣宣条序（此順逆のものあり）。孔序。目録　④孝経　孔氏伝／正二位清原宣条　校　⑤双有8行18字小双。白口　⑦天明紀元辛丑冬十月赤松鴻跋　⑧奥付「（朱印）『明経／道章』／清原家蔵／天明元年辛丑冬十月再刻／京都書林　田中市兵衛発行」　⑨石岡規玄斯東浜林。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①同前　⑧奥付「（広告目録）／江戸　書肆嵩山房　小林新兵衛梓行」。又は「書林嵩山房蔵板目録」　⑨狩玄浜林。

98同　弘化二年三月刊（京　金華堂福島秀豊等〈伏原―清原―家蔵板〉）　大一冊（覆97）

①古文孝経清家正本再刻　③宣条序。則賢序。弘化二年春三月清原朝臣宣明序。孔序。目録　⑦赤松鴻跋。弘化二年春三月源朝臣松苗跋　⑧弘化二年乙巳三月再刻／門下末弟／皇都　金華堂福島秀豊／成立堂菅原孝秀／晨風堂木戸義明／思道軒源義次／京師　愛樹堂子成／浪華　琅玕堂子篤／京師　平岡群虎堂／上田是則軒／福岡龍章堂／吉谷自成堂／曾根粛成堂／村田鳳池堂／浪華　平沢白翁／伏見　坪井松林堂／三雲松鶴軒／城州岡本石岩堂／河州　松井甄古堂／京師　岩佐蔵焉堂／加藤誠貴堂／堺　加藤保身堂／若州　中川推山堂／丹州　竹内博愛堂／

伏原家蔵（朱印『明経／道儒』）　⑨石岡規玄　⑩97の覆刻・付訓本。訓仮名・送仮名を新たに加う（97は訓点・句点・連合符のみ）。

又　嘉永二年三月〔印〕（京　金華堂福島秀豊等）　大一冊

①同前　⑧後付四オに「御免許／嘉永二年己酉三月」と加刻（四ウより「弘化二年乙巳三月再刻……」と続く）。又「門下末弟四肆」の上に「御本／御弘通／支配所」と入木　⑨岡狩規玄椙林。

又〔修〕（京　金華堂福島秀豊等）　大一冊

①同前　③宣明序の二ウに「伏原家蔵」（但し朱印なし）と加刻　⑧四オの跋の後に金華堂・晨風堂刊語「此書は孔子の講堂壁中石函より出たる所の真の／孝経之大聖人孔子孝道を曾子に伝へ給ふ書にして／大日本国儒学の取上　清原家の御蔵版なれは市中／俗間の売本とおなしからす……」。四ウより「弘化二年乙巳三月再刻／門下末弟／皇都　金華堂福島秀豊／成立堂菅原孝秀／晨風堂木戸義明／思道軒源義次／京師　平岡群虎堂（以下九肆同前）／皇都　愛樹堂子成／浪華　琅玕堂子篤」（後付の四丁目以下新刻）　⑨玄。

99古文孝経　〔林〕天瀑校　寛政十一年十月序刊　大一冊（木活・「佚存蔈書」所収）

①古文孝経孔伝　③寛政十有一年歳在屠維協洽孟冬月吉天瀑山人佚存蔈書序。佚存蔈書第一帙目録　④古文孝経／漢　孔　氏伝　⑤単有10行20字。線黒口　⑦己未仲春初七日天瀑跋　⑨狩玄浜　⑩白文。

100古文孝経（足利本）　山本南陽（龍）校　寛政十二年夏刊（江戸　嵩山房小林新兵衛〈山本氏蔵板〉）　大一冊

①古文孝経孔氏伝　②南陽山本龍校訂／足利本（横書）／古文孝経孔氏伝／庚申之夏赤城元恕校語　③寛政十二年庚申五月山本龍序。寛政庚申五月朔山本信有序（此順逆もあり）。隋劉炫古文孝経序直解　④古文孝経／漢魯人孔安国伝　日本足利山本龍校　⑤単有9行20字小双。黒口　⑧奥付「山本太冲蔵板／南陽先生著　文理発揮　全一冊　近刻／鳩巣先生著　論語序説考全一冊　近刻／寛政庚申之夏／東都　書肆嵩山房　小林新兵衛発行」　⑨狩玄林　⑩玄は奥付なし。

又　文化十一年夏〔印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛〈山本氏蔵板〉）　大一冊

①同前　②見返の校語のうち「赤城元恕」を「賀茂忠恕」と改む（但し印記「元恕」のまま。又校語中の「不佞元恕」の文字もそのまま）　⑧奥付「（前半同前）／文化甲戌之夏／東都書肆嵩山房　小林新兵衛発行」　⑨規玄椙東浜林。

101孝経　文政六年十月跋刊（〔福山〕阿〔部〕正精）　特大一冊（弘安二年九月鈔本の模刻・朱墨套印）

①古文孝経孔氏伝　③孔序。末に「元亨元年十一月廿一日資家／秘説奉授式部大夫殿畢／散住清原良枝」とあり　④孝経孔氏伝　⑤単有6行14字内外小双　⑥孝経一巻／弘安二年九月十三日書写之早／花押　⑦文政癸未冬十月阿正精跋　⑨狩玄斯椙東林　⑩朱にてヲコト点を付す。

同　大正十四年刊　半一冊（影101・杉浦親之助編刊「孝経五種」所収）

102孝経　伊藤鳳山（馨）点注　弘化三年冬刊（京　学半楼蔵板）　大一冊

①「標註古文孝経定本」又は「頭書孝経孔伝読本」　②鳳山伊藤先生点乙並鼇頭／頭書孝経孔伝読本／平安　学半楼蔵　③孔序。（孝経孔序鼇頭　出羽　伊藤馨子徳氏　著）　④「孝経／漢魯人　孔安国　伝」。（孝経孔伝鼇頭　出羽　伊藤馨子徳氏　著）　⑤単有8行16字小双。白口　⑥孝経終　後学　出羽　伊藤馨謹点乙　⑧奥付「伊藤大三郎著／弘化三年丙午冬／発兌／諸国／売弘／書肆／大坂／藤屋善七／河内屋喜兵衛／河内屋紀一兵衛／江戸／須原屋茂兵衛／小林新兵衛／紀劦　坂本屋紀一郎／尾陽　永楽屋東四郎／皇都／勝村治右衛門／菊屋七郎兵衛／升屋勘兵衛／近江屋佐太郎／本屋善兵衛」　⑨石岡狩規慶玄椙東浜林　⑩奥付に「皇都　升屋勘兵衛」なきもの後印か—規浜。

又　題〔太宰〕春台音〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①古文孝経定本　②春台先生音／鼇頭古文孝経定本／伊藤先生増注　嵩山房梓　⑧奥付「（広告書目）／江戸　書肆嵩山房　小林新兵衛梓行」又は「嵩山房蔵版目録」　⑨玄東浜林。

又〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①同前　②同前　⑧岡は「嵩山房蔵版目録　東京　小林新兵衛」。林は奥付「三都／発行／書林／京都　出雲寺文治郎／大坂　河内屋喜兵衛／河内屋茂兵衛／秋田屋太右衛門／敦賀屋九兵衛／東京　岡田屋嘉七／須原屋伊八／山城屋佐兵衛／須原屋茂兵衛／須原屋新兵衛」　⑨岡林。

(2)　宋古文

A　単　経

103孝経　寛文二年八月刊（京　谷口三餘）　大一冊

①　④孝経　⑤単無7行13字。白口　⑧寛文二壬寅暦仲秋中旬／洛下書堂　谷口三餘行梓　⑨狩林。

104同〔寛文〕刊　大一冊（覆103）

①　⑧同前　⑨岡玄　⑩刊記迄の覆刻。

又　寛文七年一月〔印〕（京　田中文内）　大一冊

①　⑧寛文七丁未暦孟春中旬／洛下書堂　田中文内行梓（「七丁未」「孟春」「田中文内」入木）　⑨玄。

又〔後印〕　大一冊

①　⑧削去　⑨規玄。

又〔後印〕（京　菊屋安兵衛）　大一冊

①　⑧尾題下に入木「京寺町通三条上ル町／菊屋安兵衛」　⑨規玄林。

又〔修〕　大一冊

①孝経再板　④孝経　開宗朋（ママ）誼章第一　⑧削去　⑨規林。

105孝経　〔寛文七年三月〕刊　明和二年九月〔修〕（大坂　永昌堂柏原屋佐兵衛）　半一冊

①孝経仮名付　④孝経（かうきやう）　⑤単無7行13字。白口　⑧「寛文七丁未

年三月開版／明和二乙酉年九月重訂／浪速書林　柏原屋佐兵衛蔵版」。次に「永昌堂板行書目抜書／御書物御経類古本売買所大坂心斎橋北久宝寺町　柏原屋佐兵衛板」又は「大坂心斎橋通伝馬町　柏原屋佐兵衛板」とある広告書目を付す（玄一本は広告書目なし）　⑨岡玄　⑩本文は103又は104の粗なる覆刻か。匡郭・版心に比し文字美麗。総振仮名。

又〔通修〕（京　升屋勘兵衛）　大一冊

①孝経　④孝経　⑧寛文七丁未年三月開版／明和二乙酉年九月重訂／京冨小路通三条上ル／升屋勘兵衛　⑨玄浜　⑩一丁目新刻。一オ二行目「順天下」を「訓天下」と改む。二丁目以下は105の総振仮名を削去せしものにて少々削り残しあり。玄は浜より削り残しの部分多し。

106孝経　刊　半一冊

①孝経片カナ付　④孝経（カウケイ）　⑤単無7行13字。白口　⑨玄　⑩103系なれど小ぶりにして覆刻とは云えず。

107孝経　題山崎〔闇斎〕（嘉）点　寛政七年十一月刊

〔後印〕（京　菱屋孫兵衛）　大一冊

④孝経　山崎嘉点　⑤双無7行13字。白口。下象鼻に「山崎嘉点」　⑧「寛政第七乙卯歳仲冬至日／京都書林　久保権八郎再刻」。奥付「（広告書目）／皇都書林　京御幸町御池下ル町　菱屋孫兵衛板」　⑨玄　⑩103以下の覆刻には非ざるも行格は同じ。双花魚尾等の版式から見て〔江戸前期〕刊本の覆刻か。

又　安政五年五月〔印〕（大坂　河内屋万助）　大一冊

①孝経山崎嘉点再刻　⑧同前刊記の後に「安政第五戊午歳仲夏吉日／大阪書林　河内屋万助求板」と加刻。次に「（広告書目）／大阪書肆　心斎橋通久宝寺町　河内屋万助蔵板」（玄一本はなし）　⑨玄。

又〔後印〕（大坂　河内屋源七郎）　大一冊

①同前　⑧刊記同前。奥付「発行／書肆／江戸　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋新兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋吉兵衛／須原屋伊八／出雲寺万治郎／紙屋徳八／尾州名古屋　菱屋藤兵衛／大坂　河内屋源七郎板」　⑨林　⑩303後印本と同奥付。

又〔明治〕印（大坂　前川源七郎）　大一冊

①同前　⑧刊記同前。奥付「製本処　大阪心斎橋通北久宝寺町四町目十八番地　前川源七郎」　⑨狩。

108孝経　刊（京　武村市兵衛）　大一冊

④孝経　⑤単無7行15字。白口単白魚尾　⑧二条通松屋町武村市兵衛刊行（陰刻）　⑨岡。

又　題山崎〔闇斎〕点〔後印〕（京　林権兵衛）　大一冊

①重刊改正孝経山崎点　⑧刊記同前。奥付「花洛書舗　寺町通二条下ル町　林権兵衛」　⑨林。

又〔後印〕（京　林権兵衛）　大一冊

①同前　⑧原刊記の「二条通松屋町武」を削去し「村」を「林」に修刻。「市」を削去し「権」を入木。すなわち「林権兵衛刊行」（陰刻）とす。次に同前奥付を付すものあり　⑨岡玄林。

又〔後印〕（京　藤井文政堂山城屋佐兵衛）　大一冊

①同前　⑧刊記同前。奥付「皇都書林　寺町通五条上ル町

藤井文政堂　山城屋佐兵衛」　⑨玄東林　⑩玄林は山城屋の住所を「寺町通四条南へ入町」とす。此方後印か。

109同　刊　大一冊（覆108）

①孝経　⑧岡は刊記とおぼしき箇所を墨にて塗抹。規は墨釘、或いは削去痕か　⑨岡規　⑩訓みは108「孝経」とかなり異る。107「孝経」とも異る。110―112は本版に近し。

又　題山崎〔闇斎〕点　〔後印〕（京　菊英館菊屋安兵衛）　大一冊

①孝経　山崎点　⑧「京師書林　寺町通三条上ル町　菊屋安兵衛」。次に「菊英館蔵板目録抜書　京都書林　寺町通三条上ル町　鹿野氏　菊屋安兵衛」を付すものあり　⑨岡玄浜林。

又　〔後印〕（大坂　檜皮屋善七）　大一冊

①孝経　⑧浪華書林　讃岐屋町西横堀西江入　檜皮屋善七板　⑨岡林。

110同　刊　大一冊（覆刻）

⑧なし　⑨林　⑩字様・匡郭等全体に太し。

111同　天保十三年刊（薩摩　薩摩府学蔵板）　大一冊（覆刻）

①孝経　②天保十三年改正／孝経／府学蔵版（朱印「薩摩府／学刊行」）　⑧なし　⑨狩規玄東　⑩狩と、玄二本は訓仮名・送仮名の一部を削去せし後修本。玄一本は見返の朱印なし。

112同　題山崎〔闇斎〕（嘉）点　刊（〔大坂〕　大野木市兵衛）　大一冊（覆刻）

①孝経　④孝経　山崎嘉点　⑧大野木市兵衛板　⑨林　⑩字様細し。刊記或いは入木か。

113〔唐音〕孝経　石川〔金谷〕（貞）音　明和元年十一月刊（京　文泉堂）　大一冊

①孝経唐音四声付　②皇都原板（横書）／石川貞校語／唐音孝経／明和元年甲申仲冬　文泉堂梓行　③明和元年甲申冬十一月朔南宮岳序　④孝経（ヒヤウキン）　⑤単無7行15字。白口　⑧明和元年甲申十月／勢州　石川貞謹音／平安　文泉堂敬梓　⑨石玄東　⑩東は74「孝経」・「徂徠先生学則」と合綴。唐音を総振仮名にて記す。本文は108以下の「題山崎嘉点本」の覆刻ならむ。但し本文一オ二行目「訓天下」とあり。

114孝経　源輗校注　文政六年春序刊（二本松　二本松学館蔵板）　大一冊

③文政六年癸未春源宜序　④孝経　⑤単無7行15字。白口　⑥尾題なく巻末に「源輗校」　⑧二本松学館蔵　⑨玄　⑩断句。声点・標注を付す。覆刻に非ざるも108以下の「題山崎嘉点本」を底本とす。

115孝経〔江戸後期〕刊　大一冊

①　④孝経　⑤単無7行15字（五オ迄）。7行16字（五ウより）。白口　⑨岡相　⑩前半（五オ迄）は翻108か。字様細くやや異り、匡郭縦長にて覆とは云えず。

116新刻孝経〔野田〕西派校　安永二年九月刊（大坂河内屋八兵衛）　大一冊（覆刻）

①　④新刻孝経　⑤左右双無7行15字。白口　⑧備前岡山西派先生校正／安永二癸巳年九月／大坂書林　心斎橋南久宝寺町

河内屋八兵衛刻　⑨岡林　⑩本文覆109か。

孝経　天明七年六月〔修〕（大坂　崇高堂河内屋八兵衛）　大一冊

①「新刻孝経」（早印本）。又は「孝経山崎嘉点」　④孝経　⑤同前（版心「新刻孝経」のまま）　⑧校者名・刊記を削去し、新たに「備前岡山学校西派先生校正／木記『天明七年丁未六月大阪崇高堂書坊　南久宝寺町心斎橋筋　河内屋八兵衛』」。次に「崇高堂蔵版目録　大阪心斎橋筋南久宝寺町　河内屋八兵衛」（なきものあり）　⑨岡規玄浜林　⑩内題の「新刻孝経」を「孝経」と改む。連合符・訓みなどに修あり。

又〔後印〕（大坂　秋田屋太右ヱ門等）　大一冊

⑧刊記同前。奥付「諸国／発行／書肆／備前岡山　片上屋孫兵衛／中嶋屋益吉／豆腐屋善右ヱ門／備中倉敷　太田屋六蔵／土州高知　瀬戸屋才助／筑前博多　多飛屋治助／播州姫路　隅屋治郎平／江戸日本橋　須原屋茂兵衛／大坂心斎橋　秋田屋太右ヱ門」　⑨岡規林。

又　天保五年一月〔印〕（大坂　秋田屋太右ヱ門等）

大一冊

⑧刊記同前。奥付「天保五甲午歳／初春再刻／諸国／発行／書林／紀劦若山　紀田屋平右ヱ門／播州姫路　隅屋紀右ヱ門／灰屋爛二／備前岡山　中嶋屋益吉／備中倉敷　太田屋六蔵／筑前博多　多飛屋治助／土劦高知　瀬戸屋才助／京　勝村治右ヱ門／江戸　須原屋茂兵衛／大阪　秋田屋太右ヱ門」　⑨林。

又〔後印〕（大坂　秋田屋太右衛門等）　大一冊

⑧同前刊記の「天明七年丁未六月」迄を残し木記の枠と書肆名を削去。奥付「三都／発行／書林／江戸　須原屋茂兵衛／須原屋伊八／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／小林新兵衛／英大助／西宮弥兵衛／金花堂佐助／京都　勝村治右衛門／大阪　秋田屋太右衛門」　⑨岡。

又　題山崎〔闇斎〕（嘉）点〔野田西派〕校　至天明八年二月〔遞修〕（大坂　河内屋八兵衛・同宇八）

大一冊

①孝経山崎嘉点　⑧「天明八歳戊申仲冬／大阪書房／心斎橋筋南久宝寺町　河内屋八兵衛／同宇八」。次に「崇高堂蔵板目録」一丁、又は河内屋のものと思われる「広告書目」を付す　⑨岡玄林　⑩「天明七年六月〔修〕」本と最終丁（九丁目）のみ異る。九丁目のみ新刻せし版を何らかの理由で作るも、元の版が残っており、それが後々まで求板されしものの如し。

117孝経　題山崎〔闇斎〕（嘉）点〔江戸後期〕刊（京井上氏蔵板）　大一冊（覆116天明七年六月〔修〕本）

①孝経山崎嘉点　④孝経　⑤左右双無7行15字。黒口（底本版心の「新刻孝経」の「新刻」とある部分を黒口にせし如し）　⑧皇都　井上氏蔵板　⑨岡玄林　⑩岡は刊記なく早印。墨がのらず或いは校正刷りか。

118孝経　斎藤笠山（寛）校　嘉永四年春刊（岡山　松嶋屋林助）　大一冊（覆刻）

④孝経　⑤単無7行15字。白口単白魚尾　⑧備前国学儒員笠山斎藤寛校正／嘉永四辛亥年青陽／岡山瓦町　書林　松嶋屋林助

版　⑨岡　⑩本文覆109か。

又　題山崎〔闇斎〕（嘉）点　斎藤笠山（寛）校〔後印〕大一冊

①孝経（改正山崎嘉点）　⑧「岡山瓦町　書林　松嶋屋林助版」を削去　⑨石玄椙浜。

119同〔江戸後期〕刊（大坂　秋田屋市兵衛等）大一冊（覆118）

①同前　⑧同前。奥付「発行／書房／長劦蘓　熊城七郎左衛門／山城屋孫十郎／藝劦広嶋／柏原屋定五郎／備中倉敷　板屋謙次／備前岡山　片上屋孫兵衛／中嶋屋益吉／郡屋与四郎／三劦岡崎　本屋文吉／尾州名古屋　岡田屋平次郎／勢州桑名　糀屋伝四郎／美濃大垣　茶屋源蔵／大阪　秋田屋市兵衛」　⑨林。

又〔後印〕（大坂　秋田屋市兵衛等）大一冊

①同前　⑧刊記同前。奥付「和漢書籍精造発兌／江戸　須原屋茂兵衛／須原屋新兵衛／須原屋伊八／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／大坂　秋田屋市兵衛」　⑨岡林。

120孝経　題山崎闇斎点　鈴木定寛校　安永十年三月刊（大坂　永昌堂荒木佐兵衛）大一冊

①古文孝経（朱文公鑑定山崎闇斎点）　②朱文公鑑定／古文孝経／（山崎先生訓点鈴木先生句読）　浪華　永昌堂刻　④孝経　朱熹鑑定　⑤単無8行14字。白口単黒魚尾。下象鼻に「〇永昌堂版」　⑦鈴木定寛跋　⑧「安永十年辛丑三月発行／江戸通本石町十軒店　山崎金兵衛／大坂心斎橋通伝馬町　荒木佐兵衛」。次に「永昌堂板行書目抜書／御書物御経類古本売買所　大坂心斎橋通伝馬町　柏原屋佐兵衛板」を付すものあり　⑨岡玄林。

又〔後印〕（大坂　池内八兵衛）大一冊

①孝経　山崎闇斎点　②なし　⑧刊記同前。奥付「大阪書林　長堀四ツ橋　池内八兵衛」　⑨石。

又〔修〕（大坂　池内八兵衛）大一冊

①同前　②初印本見返の「永昌堂刻」を削り「池内」と入木　⑤下象鼻の「〇永昌堂版」を削去　⑦跋文中の「永昌主人」を「池内主人」と改む　⑧刊年を残し書肆名を「大阪書林　池内八兵衛」と改む　⑨玄林。

又　至寛政十年春〔逓修〕（大坂　西河堂池内八兵衛）大一冊

①同前　②なし　③寛政戊午春杉浦益勧孝経説　⑧刊記同前。次に「浪華西河堂蔵梓記　池内八兵衛」を付す　⑨規玄。

又　至天保八年六月〔逓修〕（大坂　中村三史堂塩屋弥七）大一冊

①同前、又は「古文孝経正文（再板）」　②なし　⑤白口単白魚尾。一丁目下象鼻に「鈴木定寛句読」　⑧刊記削去。奥付「天保八年丁酉六月求版／浪華中村三史堂　心斎橋通本町北江入　塩屋弥七」　⑨狩規浜林　⑩規は跋文なし。

121孝経（大義本）寛文三年一月刊　大一冊

③大徳之九年歳在乙巳陽復之月熊禾序　④孝経大義　⑤単無9行17字。白口　⑦成化二十二年歳次丙午秋九月甲子徐貫跋　⑧寛文三年癸卯孟春望日刊之　⑨規　⑩大義本による。

122孝経　寺本尚友斎点　貞享二年一月刊（京　八尾市兵

衛）　大一冊

③〔自〕序　④孝経　⑤単無6行14字。白口。版心下部に「寺本治点」　⑦貞享元甲子歳孟冬下旬土田篤平跋　⑧貞享二年乙丑（ママ）孟春吉旦洛陽堀川八尾市兵衛開板　⑨玄　⑩跋文中に「寺本尚友斎先生」と見ゆ。

123〔画図〕孝経　元禄十二年四月刊　小一冊

①画図孝経　③口絵二丁　④孝経　⑤単（左右の辺は巻頭巻末のみ）無8行13字　⑦画図（十二ウ―十九丁迄）　⑧元禄第十二己卯暦孟夏吉旦（画図の前にあり）　⑨石慶玄楫東林　⑩刊誤本。

124孝経　松崎誠洞（祐）書　元禄十二年十二月刊（松崎氏）　大一冊

④孝経　⑤単無6行12字　⑧木記「元禄己卯十二月朔誠洞松崎祐」刊語　⑨玄　⑩白文。松崎氏刊語に曰く。「刊／行諸本加註釈付訓点不便誦故自筆／寿梓授諸児曹以助習化之功云」と。

125孝経　〔林鳳岡〕（藤信篤）点　宝永三年三月刊　小折一帖

③「孝経開宗明義章」とあり、次に「従一位政家」等の和歌十一首を載せ、「中院亜槐通茂卿／御筆蹟以写之／早」とあり　④孝経　⑤無無3行12字　⑦宝永三年暮春之日大学頭藤信篤跋　⑨林　⑩総振仮名。刊誤本。

又〔後印〕（〔京〕〔事親軒〕大和屋伊兵衛）　小一冊

②扉「大学頭藤信篤訓点／孝経（改正）／事親軒梓」　③なし　⑤無無5行12字　⑧木記「大和屋伊兵衛板」　⑨玄。

126同　刊　小折一帖（覆125）

①孝経開宗明義章　③「中院亜槐通茂卿」以下なく、和歌に続けてすぐに本文の折を貼付す（但し、はじめからそうであったものか、後人の切貼りかは不明）　④孝経　⑤単（上下のみ）無4行12字　⑦同前　⑨玄　⑩本文は訓点・連合符・振仮名を除いた125の粗なる覆刻。跋文は訓点・連合符・訓仮名あり。

127孝経　山口〔剛斎〕（景徳）点　寛政六年六月刊（大坂　泉本八兵衛・赤松九兵衛〈津和野　津和野府学蔵板〉）　大一冊

①　④孝経　朱子定本　⑤左右双無6行14字。白口　⑦寛政五年歳次癸丑山口景徳跋　⑧尾題前に木記「津和野府学蔵版／大阪書林発兌」。奥付「寛政六年甲寅六月／大坂／高麗橋壱町目赤松九兵衛／心斎橋通南久宝寺町　泉本八兵衛／発行」　⑨東林。

128孝経　文政十三年三月刊（修道館蔵板）　大一冊

①　④孝経　⑤左右双有6行10字。白口　⑧文政十三年春三月／朱印「修道／館」（狩玄は朱印なく後印本か）　⑨狩規玄　⑩白文。刊誤本。

129同　〔江戸後期〕刊（福井　帯屋喜平治）　大一冊（覆128）

①　⑧御用御書物所／越前福井　帯屋喜平治板　⑨岡狩玄楫林。

又〔後印〕　大一冊

①　⑧削去　⑨規。

130孝経・大学・中庸　〔中江藤樹〕点　〔江戸前期〕刊

小一冊

③誦経威儀　④孝経　⑤単無6行12字。白口　⑨規。

131同　〔江戸前期〕刊（五倫書屋）　小一冊（覆130）

③同前　⑧欄外に木記「板本　五倫書屋」　⑨玄　⑩訓みを改むる箇所あり。

又　〔後印〕　中一冊

⑧なし　⑨斯楫。

又　〔修〕　中一冊

③なし　⑧なし　⑨規玄林　⑩連合符・送仮名等に修あり。誦経威儀なく丁付「三」より始る。玄は「孝経」のみ。

132孝経　〔中江藤樹〕書　〔江戸前期〕刊　小一巻

①藍色地錦繡表紙十三・六糎　②金切箔散し　③誦経威儀　④孝経　⑤天地金泥花弁文様。紙背に金泥花弁文様の薄葉紙をはる。金界。界高十・二糎。界幅一・二糎。行十六字　⑨玄斯林　⑩白文。玄斯の同版本は、玄は墨界。誦経威儀-3行目より存す。斯は金界。黄裂覆表紙。この外に林に断簡（折帖式）一葉あり。

133同　〔江戸前期〕刊　小一巻（覆132）

①藍色地空押卍つなぎ表紙に金泥にて蓮を描く　②金箔　⑤無辺無界　⑨規　⑩薄様刷り。

134孝経　〔江戸後期〕刊　半一冊

①　③誦経威儀　④孝経　⑤単無7行16字。白口　⑨玄　⑩白文。

135孝経　大沢（源）道安点　〔江戸後期〕刊（大沢氏蔵板）　大一冊

①孝経　源氏点　②司馬光指解／范祖禹訓説／趙起蚊集解／孝経／大沢氏蔵版　④孝経　源道安読／子道賢校／孫喜謹刻　⑤左右双有9行17字。白口　⑨狩　⑩指解本。

又　〔後印〕（竹内英仙蔵板）　大一冊

②清納蘭成徳経解所収／宋司馬光指解范祖禹／訓説之経文即是此本／古文孝経／竹内英仙蔵版　⑨玄。

136孝経　〔江戸後期〕刊　大一冊

②孝経　④孝経　⑤左右双有10行18字。白口　⑨玄　⑩白文。刊誤本。

137孝経　中根貞点　〔江戸後期〕刊　半一冊

①孝経（題簽、又は表紙にじかに刷る）　④孝経　⑤単有7行13字　⑦中根貞跋　⑨狩玄林　⑩刊誤本。

138孝経　〔江戸後期〕刊　大一冊（木活）

④孝経　⑤単無9行19字。白口　⑨玄　⑩白文。刊誤本。

139孝経　〔江戸後期〕刊　大一冊（木活）

④孝経　⑤無無8行16字。黒口　⑨玄　⑩白文。刊誤本。

B　指解

140孝経　〔指解補註〕　宋司馬光指解　南宮〔大湫〕（岳）補注　明和五年三月刊（津　大森伝右衛門等）　大一冊

①孝経　③明和四年歳次丁亥十一月朔旦冬至南宮岳序。司馬光

叙。司馬光伝　④孝経／陝州　司馬光　指解／信濃　南宮岳補註　⑤双有9行18字小双。白口。下象鼻に「積翠楼」　⑥孝経　⑧奥付「南宮弥六郎補註／明和五年戊子三月初吉／書林／京都　田中市兵衛／江戸　植村藤三郎／大坂　渋川清右衛門／津藩　大森伝右衛門」　⑨狩規玄椙浜林。

又〔明治修〕（三重　桂雲堂豊住伊兵衛）　半一冊

①補註指解古文孝経　②指解補註／古文孝経／書肆　桂雲堂発兌　③なし　⑥孝経終　⑧奥付「皇漢洋書籍発売所／三重県　桂雲堂豊住伊兵衛／大阪府　同　同支店　豊住幾之助／蔵版製本之記」　⑨林　⑩七オ・九—十三・十五丁目修。

又〔後印〕（奈良　桂雲堂豊住書店）　半一冊

①同前　②同前　③同前　⑧裏表紙見返に青スタムプ「奈良市三条通角振町／桂雲堂　豊住書店」　⑨岡規玄　⑩岡は明治修印本にて奥付なし。

141孝経〔指解〕　天明七年一月刊（大坂　文粋堂増田源兵衛）　大一冊

①孝経司馬温公指解　②司馬温公指解／孝経／大阪書林文粋堂増田保矩刊語（「今茲丙午請　官上木」とあり）　③司馬光序　④孝経／司馬光指解（跨行）　⑤双有10行18字小双。白口　⑧奥付「天明七年丁未正月／書肆　大阪堺筋長掘(ママ)橋北へ入　増田源兵衛梓」　⑨規玄浜林　⑩断句。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①同前　②刊語は残し「大阪書林文粋堂増田保矩謹識」の十三字削去　⑧「書林嵩山房蔵版（又は板）目録」を付す　⑨狩規林。

又〔明治〕印（東京　小林新兵衛）　大一冊

①同前　②同前　⑧奥付「天明七年丁未正月／書肆　東京日本橋区通二丁目十三番地　小林新兵衛（初印本の奥付に書肆名を入木）」　⑨浜。

142孝経〔指解〕　神埜松篁軒（世猷）点　文化十三年八月序刊（名古屋　東壁堂永楽屋東四郎）　大一冊

②松篁軒先生校本／孝経指解／張藩書肆　永楽堂梓　③文化十三年丙子秋八月朔神埜世猷序。司馬光序　④孝経　司馬温公指解／尾張　神埜世猷　校読　⑤左右双有9行18字小双。白口　⑦文化丙子秋八月佐容跋　⑧「尾陽東壁堂製本略目録／東都書物問屋／尾州　永楽屋東四郎／江戸　同出店／濃州大垣　同出店」六丁を付す　⑨規。

又〔後印〕（名古屋　永楽屋東四郎）　大一冊

①孝経指解校本　②なし　⑧奥付「大日本国郡全図／後撰和歌集新抄（広告）／書肆／尾州名古屋本町通七丁目　永楽屋東四郎／江戸日本橋通本銀町二丁目　同出店」　⑨玄。

又　文政五年春〔印〕（〔名古屋〕　永楽屋東四郎等）　大一冊

①同前　②なし　⑧奥付「孝経鄭註／同群書治要本　尾張岡田新川先(ママ)校正／同絵本／孝経外伝服膺孝語　南総宇子廸先生輯録／文政五年壬午春／発行書肆（横書）／東武　前川六左衛門／皇都風月庄左衛門／浪華　河内屋八兵衛／尾張　永楽屋東四郎」　⑨石林　⑩この奥付頻出。

又〔明治〕印（名古屋　片野東四郎等）　大一冊

①指解校本古文孝経　②なし　⑧奥付一丁半「諸国発行書肆（横書）／江州大津　沢宗治郎／古川伊助／江州高宮　近江屋太兵衛／勢州山田　山碕与三兵衛／藤原甚右ェ門／勢州松坂　柏原兵助／本屋嘉助／勢州津　山形屋伝右ェ門／篠田伊十郎／丁子屋清七／勢州肥田　服部利三郎／勢州四日市　永楽屋治右ェ門／武田礼吉／勢州桑名　森伝四郎／濃州大垣　岡安慶助／本屋利兵衛／濃州笠松　玉井屋忠蔵／本屋庄兵衛／濃州岐阜　福田半九郎／伊豫屋長治郎／濃州上有知　鈴木市郎右ェ門／濃州加納　佐藤次郎九／三州岡崎　伊藤文吉／安藤新三郎／遠州浜松　伊勢屋太右ェ門／伊勢屋権平／東京　北畠茂兵衛／稲田佐兵衛／佐久間嘉七／太田金右ェ門／西京　藤井孫兵衛／神先宗八／村上勘兵衛／福井源治郎／大坂　柳原喜兵衛／前川善兵衛／松村九兵衛／田中太右ェ門／名古屋　片野東四郎」　⑨岡規玄椙浜。

又〔後印〕（名古屋　片野東四郎）　大一冊

①同前　②神野世猷校読／指解古文孝経／名古屋書肆　東壁堂蔵刻（なきものあり）　⑧奥付「発行書肆（横書）／東京　北畠茂兵衛／稲田佐兵衛／小林新兵衛／吉川半七／別所平七／北沢伊八／京都　大谷仁兵衛／出雲寺文次郎／福井源次郎／田中治兵衛／大坂　柳原喜兵衛／前川善兵衛／岡田茂兵衛／松村九兵衛／尾州名古屋　片野東四郎」　⑨狩規林　⑩この奥付頻出。

C　刊誤

143孝経刊誤　宋〔朱〕熹撰　〔山崎闇斎〕点　明暦二年四月刊（京　武村市兵衛）　大一冊

①　④孝経刊誤（内題下に小字双行にて「古今一文有二不レ同カラ／者一別見ハス二考一異ニ」とあり）　⑤双無7行13字。白口　⑦淳熙丙午八月十二日〔朱〕熹跋二則　⑧木記「明暦二丙申年仲呂吉辰／二条通松屋町書肆武村市兵衛刊行」　⑨石岡狩規玄椙東浜林　⑩椙は317「孝経刊誤付考」と合綴。

又〔後印〕　大一冊

⑧削去　⑨林。

144同　寛政二年十一月刊（京　川上軒）　大一冊（覆143）

①　④内題下の「者」に送仮名の「ノ」なし　⑧木記「寛政第二庚戌歳仲冬至日／京都書林　川上軒再刻」　⑨石岡規玄椙東浜。

又〔後印〕（京　出雲寺松栢堂）　大一冊

⑧木記同前。次に「山崎闇斎先生門人編集略書目／御書物所　京都三条通堺町　出雲寺松栢堂」。早稲田大学蔵本は、木記の後に「（広告書目）／御書物所　京都三条通堺町　出雲寺松栢堂」（155の後印本と同じ）を付す　⑨林。

145孝経刊誤　〔山崎闇斎〕点　弘化四年十二月刊（会津藩蔵板）　大一冊

①　②弘化四年丁未十二月鐫／孝経刊誤　④孝経刊誤（内題下に小字双行にて「古一今一文有レ不ル一同カラ／者別見ハス二考一異ニ」とあ

り）　⑤単無8行17字。白口　⑦〔朱〕熹跋二則　⑧墨印「会津藩蔵版」（岡浜は墨印なし、後印か）　⑨岡狩浜林。

又　明治三年六月〔修〕　大一冊

①　②明治三年庚午六月再彫／孝経刊誤　⑧なし　⑨狩　⑩五・六・九・十・十三丁以下全丁新刻。

146孝経刊誤　大槻〔平泉〕（清準）点　文化八年冬刊（〔仙台〕養賢堂蔵板）　大一冊

①　②宋朱子定本　日本後学大槻清準訓点／孝経刊誤／文化辛未季冬鐫　養賢堂蔵　④孝経刊誤（内題下に小字双行にて「古今文有レ不レ同／者別見二考異一」とあり）（句点・声点省略）　⑤双有8行16字。白口　⑦〔朱〕熹跋一則　⑨狩玄林　⑩狩は扉「孝経刊誤」の裏を②と同様に刷印す。

147孝経〔刊誤〕　〔江戸後期〕刊（〔萩〕明倫館蔵板）　半一冊

①朱子刊誤孝経　④孝経朱子刊誤　⑤単有7行16字。白口。下象鼻に「明倫館蔵」　⑨岡規玄椙東浜林　⑩上段に音注あり。

148同　〔江戸後期〕刊　半一冊（覆147）

①本文共紙表紙にじかに「朱子刊誤孝経」と刷印　⑤大黒口（147の版心下象鼻の「明倫館蔵」と刻する部分）　⑨玄　⑩白文。上段空白。本文覆147か。

149孝経　〔江戸後期〕刊　大一冊

①孝経　④孝経朱子刊誤本経一章　⑤単無5行10字。黒口　⑥孝経朱子刊誤本経終　⑨規　⑩刊誤本の経一章のみを刻す。

D　大　義

150孝経大義　宋朱熹刊誤　元董鼎注　〔寛永〕刊　大一冊（古活）

③大徳之九年歳在乙巳陽復之月熊禾序。目録　④孝経大義朱文公刊誤鄱陽董鼎註　⑤双無9行17字小双。粗黒口　⑥孝経大義終　⑦成化二十二年歳次丙午秋九月甲子徐貫跋　⑨京都大学・大東急記念文庫・東洋文庫・内閣文庫　⑩白文。

151同　寛永五年四月刊　大一冊（覆150）

①　⑧寛永五年孟夏吉旦　⑨岡狩規玄林　⑩付訓。

又　貞享元年六月〔修〕（京　小河多左衛門）　大一冊

①「孝経大義」又は「大字孝経大義」　③熊禾序。目録—岡狩にのみあり。序目修　⑤柱題「孝経新註」の「新註」の二字を削去す　⑥「終」の一字を削去し刊記を加う　⑦なし　⑧于時貞享元年林鐘吉辰／京誓願寺前／小河多左衛門新板（印文「方淑」と刻す）　⑨岡狩規玄東林。

又　文化十年〔印〕（大坂　加賀屋善蔵）　大一冊

①羅山訓点孝経大義　③熊禾序　⑧文化十年癸酉校正　大阪書林加賀屋善蔵梓　⑨岡規玄林。

152同　〔寛永〕刊　大一冊（覆刻）

③熊禾序。目録　④孝経大義朱文公刊誤鄱陽董鼎註　⑤単　⑨斯東　⑩訓みは151とかなり異る。

又　寛永十八年八月〔印〕（京　田原仁左衛門）　大一冊

①　⑧寛永十八歳八月吉辰　二条通鶴屋町　田原仁左衛門梓行
⑨石岡規玄斯椙林。

又　貞享二年一月〔印〕（京　不明）　大一冊

①　⑧貞享二年乙丑孟春吉辰日／二条通　⑨岡規玄林　⑩書肆名を削去せし後印本か。但し書肆名あるもの未見。

又　天明八年十一月〔印〕（大坂　崇高堂河内屋八兵衛）　大一冊

①　⑧「天明八年戊申十一月／大阪書林崇高堂　心斎橋通南久宝寺町　河内屋八兵衛」。次に「崇高堂蔵板目録」一丁あり
⑨石狩。

153同　正保四年八月刊　大一冊（覆152）

①　⑧正保四年仲秋吉旦　⑨岡狩玄東浜林。

154孝経大義　承応三年七月刊（〔京〕　中村長兵衛）　大一冊

①新板孝経大義　③熊禾序。目録　④孝経大義　朱文公刊誤　鄱陽董鼎註　⑤双無10行20字小双。粗黒口　⑦徐貫跋　⑧承応三甲午涼月吉旦／中村長兵衛新刊　⑨岡狩玄東林。

又　貞享五年五月〔修〕（京　井筒屋六兵衛）　大一冊

①新□孝経大義　⑤単辺。白口（粗黒口部と下魚尾とを削去す）
⑧貞享五戊辰歳五月穀旦／二条通柳馬場西入町　井筒屋六兵衛開版　⑨玄斯林。

155孝経大義　寛文五年五月刊（〔京〕　長尾平兵衛・飯田忠兵衛）　大一冊

①大字孝経大義　③熊禾序。目録　④孝経大義　朱文公刊誤　鄱陽董鼎註　⑤双無7行14字小双。粗黒口　⑦徐貫跋　⑧寛文五乙巳歳五月開刊／飯田忠兵衛　長尾平兵衛　⑨岡狩玄椙林　⑩岡椙と、玄林の各一本は「飯田忠兵衛」を削去せし後印本。

又　〔後印〕（京　出雲寺和泉掾）　大一冊

①孝経大義　⑧京師三条通升屋町／御書物所　出雲寺和泉掾
⑨石岡玄椙東浜林　⑩林に「（広告書目）／御書物所　京都三条通堺町　出雲寺松栢堂」（144の後印本と同じ）あり。

156孝経大義　題〔林〕羅山点　寛文十年九月刊（〔江戸〕　河村利兵衛）　大一冊

①羅山訓点孝経大義　③熊禾序。目録　④孝経大義　朱文公刊誤　鄱陽薫鼎註（ママ）　⑤単無10行17字小双。白口双花魚尾（中央に黒口部あり）。上象鼻に「孝経」。中縫に「新註」　⑦徐貫跋　⑧寛文十庚戌九月吉旦／河村利兵衛板行　⑨岡玄椙東浜林　⑩林の一本を除き、他は全て、刊年を残し書肆名を削去せし後印本。

又　〔修〕（大坂　田原屋平兵衛）　大一冊

①同前　⑤上花魚尾・柱題の「新註」・中央の黒口部を削去
⑧刊年同前。次行書肆名入木。「大坂順慶町一丁目筋　書林田原屋平兵衛梓」　⑨岡玄東林。

又　〔後印〕（大坂　定栄堂吉文字屋市兵衛等）　大一冊

①同前　⑧同前刊記の書肆名を削去す。奥付「書肆定栄堂／大坂　心斎橋南四丁目東側　吉文字屋市兵衛／同安土町北ニ入ル西側　同源十郎／江戸　日本橋南三丁目西側　同治郎兵衛」
⑨玄椙　⑩玄に後印本あり―見返に「定栄堂儒書品目」。巻末

に「儒書暦書品目　定栄堂　大坂心斎橋南四丁目　吉文字屋市兵衛」一丁半を付す。椙は奥付なし。

又〔後印〕（大坂　松村九兵衛）　大一冊

①同前　⑧刊年同前。次行書肆名入木。「浪花書林　松村九兵衛」　⑨狩林　⑩林一本は序目なし。

又〔後印〕（大坂　敦賀屋彦七・同九兵衛）　大一冊

①同前　⑧刊記同前。奥付「三都／発行／書肆／江戸　岡田屋嘉七／須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／西宮弥兵衛／須原屋伊八／京　銭屋惣四郎／大坂　敦賀屋九兵衛／敦賀屋彦七（末二肆の下に『板行』と横書）」　⑨規林。

又〔明治〕印（大坂　文栄堂前川善兵衛）　大一冊

①同前　⑧刊年を残し書肆名削去。奥付「文栄堂蔵版／阪府書林　東区南久宝寺町四丁目（ママ）八番地　前川善兵衛」。玄の奥付は「三都／書林／東京　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／和泉屋金右衛門／出雲寺万次郎／岡田屋嘉七／和泉屋吉兵衛／椀屋喜兵衛／京都　出雲寺文次郎／丹後屋徳次郎／大坂　近江屋平助／河内屋徳兵衛／伊丹屋善兵衛蔵板」（伊丹屋は前川氏）　⑨岡玄林　⑩前川のみの奥付を付すもの後印か。

157孝経大義　題〔林〕道春点　貞享元年五月刊　大一冊

①孝経大義道春点　③熊禾序。目録　④孝経大義　朱文公刊誤／鄱陽董鼎註　⑤単無9行17字小双。白口　⑦徐貫跋　⑧貞享元甲子夏五月吉辰　⑨石林。

又〔後印〕（〔京〕栗山宇兵衛）　大一冊

①同前　⑧刊年同前。次行入木「栗山宇兵衛開板」　⑨石岡狩規玄椙浜林。

又〔後印〕（〔京〕万屋作右衛門）　大一冊

①同前　⑧書肆名を「万屋作右衛門板」と改む　⑨石岡玄。

158孝経大義　元禄五年一月刊（江戸　万屋清兵衛）　大一冊

①　③熊禾序。目録　④孝経大義　朱文公刊誤／鄱陽董鼎註　⑤単無9行18字小双。白口　⑦徐貫跋　⑧元禄五壬申歳正月上旬／武昌城住万屋　清兵衛梓　⑨岡規玄東林　⑩刊年の「五壬申」「正」の字入木か。

159孝経大義　元禄五年一月刊（〔京〕新井弥兵衛・北村四郎兵衛）　半一冊

①孝経大義片仮名付　③熊禾序。目録　④孝経大義（カウケイタイギ）（内題下に小字双行にて「朱文公刊誤（シュブンコウカンゴ）／鄱陽董鼎註（ハンヤウノトウテイチウ）」と題書す）　⑤単無8行18字小双。白口　⑦徐貫跋　⑧元禄五壬申春正月良辰　⑨玄東林　⑩総振仮名。東と、玄林の各一本は「新井弥兵衛梓」を削去せる後印本。

北村四郎兵衛寿
新井弥兵衛梓

160孝経大義　元禄六年九月刊（〔京〕出雲寺前和泉掾）　小一冊

③熊禾序。目録　④孝経大義　朱文公刊誤／鄱陽董鼎註　⑤単無9行17字小双。白口　⑦なし　⑧元禄六年九月日／出雲寺前和泉掾板行　⑨石斯林。

161孝経大義　貝原〔益軒〕（篤信）点　元禄八年九月刊（〔京〕芳野屋）　大一冊

①「新版貝原点孝経大義」又は「新版大字孝経大義」　②扉「改点孝経大義」

③元禄乙亥孟春念日貝原篤信題説。熊禾序。目録　④孝経大義朱文公刊誤鄱陽董鼎註　⑤単無8行18字小双。白口　⑦徐貫跋　⑧元禄乙亥九月吉日　芳野屋新刊　⑨岡規玄浜林　⑩刊記入木か。

162同　明治十六年三月刊（福岡　林磊落堂林斧介）　大一冊（覆161）

①孝経大義　②朱文公刊誤鄱陽董鼎註／孝経大義／福岡　林磊落堂版　③熊禾序。目録　⑦徐貫跋　⑧奥付「明治十六年二月十二日出版御届／同年三月刻成／出版人　福岡県士族　林斧介」　⑨玄林。

163孝経大義〔江戸後期〕刊　大一冊（木活）

③熊禾序　④孝経大義／朱文公刊誤　⑤単無9行19字。白口　⑦徐貫跋　⑨玄　⑩白文。見返に「弘化二年巳十一月廿四日求之」と墨書。

164孝経大義（本末本）　杠宗之首書　明暦三年一月刊（〔京〕中野道伴）　大一冊

③熊禾序。目録　④孝経大義　朱文公刊誤鄱陽董鼎註　⑤単無10行20字小双。黒口　⑥孝経大義本（末）終　⑦徐貫跋。明暦二年十二月望宇都宮由的叙　⑧明暦三丁酉年／正月吉旦／中野道伴板行　⑨規　⑩宇都宮遯庵の跋文中に「杠宗之」の首書と見ゆ。二十四丁目（二冊本では下冊の巻頭丁）に「孝経大義末」と題書す。以下の首書本末本の冊数は、二冊本と一冊本のうち、多く存する方で代表させ一々は記さない。

又〔後印〕大一冊

③明暦第二歳朧月穀旦懐徳堂人永三叙。熊禾序。目録　⑦徐貫跋。宇都宮由的叙　⑧「中野道伴」の四字を削去す　⑨規玄　⑩永三の叙にも「杠宗之」につき記載あり。

又〔修〕大一冊

③熊禾序（序題下に「肥州杠宗之」と入木）。目録　⑦徐貫跋　⑧同前　⑨狩玄林。

又〔杠宗之〕首書〔遯修〕大一冊

①首書孝経大義　③序題下の「肥州杠宗之」の五文字を削去す　⑧同前　⑨岡規慶椙浜林　⑩浜は上冊欠。

又　天明八年十二月〔印〕（大坂　河内屋八兵衛等）　大一冊

①同前　③同前　⑧天明八年戊申冬十二月／大坂書肆　心斎橋筋南久宝寺町　河内屋八兵衛　同宇八　同鍋吉　⑨椙。

又〔後印〕（大坂　藤屋善七）　大一冊

①同前　⑧刊年同前。次行入木「大坂書肆　藤屋善七」　⑨岡東。

又〔後印〕（京　文正堂近江屋卯兵衛）　大一冊

①同前　⑧刊年と「書肆」の二文字を残し他を削去。奥付「諸書物製本所／京都書林　醒ヶ井通五条上ル　文正堂　近江屋卯兵衛」　⑨林。

165同　〔杠宗之〕首書　〔江戸前期〕刊　大一冊（覆164遯修本）

③熊禾序（「肥州杠宗之」の五文字なし。以下の覆刻本も同様）。目録　⑦徐貫跋　⑧明暦三丁酉年／正月吉旦／板行　⑨東。

又〔後印〕（京　本屋長兵衛）　大一冊

①首書孝経大義　③熊禾序。目録　⑦徐貫跋　⑧明暦三丁酉年／

正月吉旦／一条通鏡石町　本屋　長兵衛板行（同前刊記に書肆名を加刻）　⑨岡玄林。

又〔後印〕（京　天王寺屋市郎兵衛）　大一冊

①同前　⑧「正月吉旦」のみ残し刊記削去。裏表紙見返に「平安書林　京極通五条橋詰町　天王寺屋市郎兵衛」とあり　⑨規慶玄　⑩慶は刊記のみ。

又〔後印〕（大坂　河内屋茂兵衛等）　大一冊

①同前　⑧刊記同前。奥付「書林（横書）／京都　河内屋藤四郎／江戸　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋新兵衛／山城屋政吉／英大助／英文蔵／丁子屋平兵衛／岡田屋嘉七／大阪　河内屋藤兵衛／河内屋茂兵衛」（168後印本と同奥付）　⑨岡玄　⑩玄の奥付は「英大助」なく「岡田屋嘉七」の次に「和泉屋吉兵衛」あり。又「河内屋茂兵衛版」とあり。此方後印か。

又〔明治〕印（大坂　群玉堂岡田茂兵衛）　大一冊

⑧奥付「群玉堂蔵版／大阪心斎橋通博労町四丁目十七番地　岡田茂兵衛」　⑨関西大学。

166同　〔江戸前期〕刊　大一冊（覆刻）

①首書孝経大義　③熊禾序。目録　⑦徐貫跋　⑧明暦三丁酉年／正月吉旦／板行　⑨岡玄　⑩玄は後印。

又〔後印〕（〔京〕　鈴木太兵衛）　大一冊

⑧明暦三丁酉年／正月吉旦／鈴木太兵衛（書肆名入木）　⑨早稲田大学。

又　天明八年十一月〔印〕（大坂　河内屋八兵衛）　大一冊

①籠頭孝経大義　⑧「天明八年戊申冬十一月／大坂書肆／心斎橋筋南久宝寺町　河内屋八兵衛／同宇八／同鍋吉」。次に「崇高堂河内屋八兵衛蔵板目録」を付す　⑨椙林　⑩林は口絵に183「孝経〔児訓〕」の「孝図」を付すも、書肆の手になるか否か不明。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①頭書孝経大義　⑧刊記同前。奥付「（広告書目）／江戸　書肆嵩山房　小林新兵衛梓行」又は「書林嵩山房蔵版目録」　⑨岡慶玄椙林。

又〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①同前　⑧同前広告書目の「東都」を「東京」と改む　⑨浜。

167同　〔江戸前期〕刊　大三（覆刻）

①首書孝経大義　③熊禾序。目録　⑦徐貫跋　⑧明暦三丁酉年／正月吉旦／板行　⑨岡。

168孝経大義　二巻　〔毛利玄斎〕首書　延宝二年八月刊（大坂　清左衛門・京　伊兵衛尉）　大二冊

①籠頭許註孝経大義乾（坤）　③熊禾序。目録　④孝経大義（イ田ハ）（ニ宋ホ新安）（ヘ元ト都陽）　⑤単無9行17字小双。黒口　⑥孝経大義末終　⑦徐貫跋。寛文丁未之春〔首書者自〕跋　⑧延宝第二甲寅歳仲秋吉日／書堂（京押小路通大坂心斎橋）伊兵衛尉清左衛門板行　⑨岡玄林　⑩玄林は「大坂心斎橋　清左衛門」を削去せる後印本。

朱文公董鼎註（刊誤）（下巻の巻頭には「孝経大義末」と題書す）

又　延宝四年二月〔印〕（大坂　清左衛門・京　伊兵衛尉）　大三冊

①鼇頭評註孝経大義上本（上末）（下本末）　⑧刊記削去。裏表紙見返に「延宝第二二（ママ）丙辰歳仲春吉日／書堂　京押小路通伊兵衛尉清左衛門　大坂心斎橋　板行」　⑨石岡狩規玄斯東林　⑩狩斯東は後印本にて奥付なし。

又　〔後印〕（大坂　河内屋茂兵衛等）　大一冊

①鼇頭評註孝経大義　⑧奥付「書林（横書）／京都　河内屋藤四郎／江戸　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋新兵衛／山城屋政吉／英大助／英文蔵／丁子屋平兵衛／岡田屋嘉七／大阪　河内屋藤兵衛／河内屋茂兵衛」（165後印本と同奥付）　⑨玄。

又　〔後印〕（大坂　河内屋徳兵衛）　大一冊

①同前　⑧奥付「三都／発行／書林／京都　出雲寺文次郎／勝村治右衛門／菱屋孫兵衛／江戸　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／和泉屋金右衛門／椀屋喜兵衛／大坂　伊丹屋善兵衛／近江屋平助／河内屋徳兵衛板」　⑨林　⑩林に奥付「（広告書目）／大坂書林　心斎橋通南久太郎町　河内屋徳兵衛板」を付すものあり、後印本か。

又　嘉永四年五月〔印〕（大坂　河内屋徳兵衛・近江屋平助）　大一冊

①同前。但し行書体（林）・楷書体（玄）の二種あり　⑧奥付「嘉永四年辛亥五月補刻／大坂書林／心斎橋通備後町　河内屋徳兵衛／同所　近江屋平助」　⑨玄林　⑩題簽が楷書体のものが後印か。

E　その他

169孝経・弟子職　清任兆麟集注　寛政四年一月刊（大坂　崇高堂泉本八兵衛・京　玉照堂野田儀兵衛）　大一冊（覆清刊本）

①孝経弟子職集註　②悉遵朱子定本（横書）／清震沢任文田集註／孝経弟子職／書坊　京師玉照堂　大坂崇高堂　③乾隆庚子十月甲子任兆麟序。丁酉六月朔旦心斎序。孝経序説　④孝経　任兆麟集註　⑤左右双有9行17字小双。白口　⑧奥付「寛政四年壬子春正月／書林／京　御幸町通押小路下町　野田儀兵衛／大阪　心斎橋通南久宝寺町南入　泉本八兵衛」　⑨岡玄椙林　⑩「弟子職」にも「乾隆辛丑五月丙申任兆麟序」。「弟子職序説」あり。覆清・付訓本。

又　〔後印〕（大坂　崇高堂泉本八兵衛等）　大一冊

①同前　⑧奥付「（刊年同前）／書林／京　御幸町通押小路下町　野田儀兵衛／江戸　日本橋通　小林新兵衛／大阪　心斎橋通南久宝寺町南入　泉本八兵衛」　⑨石狩規東。

170〔古文〕孝経〔説〕宋范祖禹説　寛政五年十月刊（京　吉田新兵衛等）　大一冊

①古文孝経説　③范祖禹進呈古文孝経説序　④孝経／宋秘書省著作郎兼（末画を欠く）侍読范祖禹説　⑤双有8行18字。白口　⑧奥付「寛政五年癸丑冬十月刻／京都書林／田中市兵衛／林権兵衛／吉田新兵衛」　⑨玄。

又　明治五年四月〔修〕（京　花説堂須原屋平左衛門）　大一冊

③孔序。范祖禹序　④孝経／開宗明誼章第一　⑧奥付「（広告

書目）／明治五年壬申四月御免許／京都書肆　花説堂　須原屋平左衛門版」　⑨林　⑩孔序の下象鼻に「遠藤花説堂蔵版（一丁目）」、「再版（二丁目より）」とあり。章名等を加刻し、20以下の太宰本（大字）系の序を取合せて用いたものであろう。

又〔宋范祖禹〕説　明治五年十月〔以後印〕（京　花説堂遠藤平左衛門）　大一冊

③孔序　⑧奥付「明治五年壬申十月再刻／御免許　不許偽板／京都書林　遠藤平左衛門版」　⑨岡。

又〔後印〕（京　花説堂須原屋平左衛門）　大一冊

①古文孝経　③孔序　⑧奥付「三都／書物／問屋／東京　須原屋茂兵衛／須原屋平助／須原屋新兵衛／須原屋佐助／須原屋伊八／村上出店／大阪　書籍会社／河内屋喜兵衛／伊丹屋善兵衛／京都　村上勘兵衛／須原屋平左衛門版」　⑨林。

171孝経〔宋范祖禹〕説　明治十六年七月刊（福岡　不明）　大一冊（覆170明治五年十月〔以後印〕本）

①古文孝経　③孔序　⑧明治十六年六月十四日翻刻御届／同年七月出版／翻刻人　福岡県士族　某（文字消えて読めず）　⑨林。

(3)　日本人著作

172孝経見聞抄　三巻　題〔林〕道春撰　万治三年二月刊（〔京〕松長伊右衛門）　大三冊

①孝経見聞抄上（中・下）　④孝経見聞抄巻上（中・下）　道春記／誦一経威一儀　⑤単無6行12字国字解小双25字内外。白口　⑧万治三庚子歳／二月吉日／松長伊右衛門開板　⑨石岡狩規玄椙東浜林　⑩宋古文。岡は巻中欠。

孝経理諺抄　三巻（172の外題換）　元禄十六年一月〔修〕（大坂　野村長兵衛）　大三冊

①孝経理諺抄上（中・下）　④孝経理諺抄巻上（中・下）　道春記　⑧元禄十六癸未歳孟春吉祥日／大坂高麗橋一町目　野村長兵衛梓行　⑨玄。

173孝経〔纂註〕　貝原〔存斎〕（元端）撰　寛文四年九月刊（〔京〕長尾平兵衛）　大一冊

①孝経纂註　③孝経総論　④孝経　朱文公較定／貝原元端纂註　⑤単無10行24字。白口　⑧寛文四稔甲辰九月吉旦／長尾平兵衛開板　⑨岡狩規玄東浜林。

又〔修〕（大坂　播磨屋本三郎）　大一冊

①攷正孝経纂註貝原先生　④「朱文公較定」、「元端」を削去　⑧刊年のみ残し書肆名を削去。奥付「（広告書目）／大阪書林心斎橋塩町北江入東側　播磨屋本三郎梓」　⑨玄。

又〔明治〕印（大坂　群玉堂河内屋岡田茂兵衛）　大一冊

①古文孝経纂註　④同前　⑧同前。奥付「和漢西洋書籍売捌所／大阪心斎橋博労町角　群玉堂河内屋　岡田茂兵衛」　⑨石玄東。

174大和孝経　六巻〔山科長盧〕撰　寛文四年冬刊　大六冊

①「絵入大和孝経一（二）」。「絵入やまと孝経三（一五）」。「絵入集霊物語」

③〔自〕序。引用る古事目録　④大和孝経巻之一（倭孝経巻第二〈三〉・屋末登孝経巻之四・屋満登孝経巻之五・孝経集霊之部序・集灵之部）　⑤単無12行22字内外。白口　⑧寛文四年季冬吉祥　⑨狩東浜　⑩経文総振仮名。国字解。宋古文。東は集霊欠。

又〔後印〕（京　山本長兵衛）　大六冊

①新刻入大和孝経一（一六）　⑧刊年同前。次行書肆名入木「山本長兵衛」　⑨狩玄椙東林。

175孝経啓蒙〔中江藤樹〕撰〔江戸前期〕刊　大一冊

④孝経啓蒙　⑤単無6行13字内外小双16字内外。白口　⑨岡狩規玄椙浜　⑩経文白文。狩玄椙は丁付がなく、その方が早印か。宋古文。

又〔後印〕（江戸　浅倉久兵衛・同□左衛門）　大一冊

⑧「書林／浅草広小路　浅倉□左衛門／同久兵衛」とある印を捺す。或いは売捌の印か　⑨林。

同　大正十四年刊　半一冊（影175初印本・杉浦親之助編刊「孝経五種」所収）

176孝経啓蒙　四巻〔中江藤樹〕撰　寛文八年一月刊（〔京〕中野道伴）　大一冊

③〔自〕序。誦経威儀　④孝経啓蒙（孝経啓蒙巻二―四）　⑤単無8行16字。白口　⑦孝経啓蒙者摘諸説而便観覧／之書也因剞劂氏之需聊加訓点／云　⑧寛文八年戊申正月吉日／中野氏道伴板行　⑨椙林。

又〔後印〕（京　野田庄右衛門）　大一冊

⑧刊年同前。次行書肆名入木「烏丸通下立売下町　野田庄右衛門板行」　⑨玄　⑩この175176本は従来定稿本系とされて来たが、最近の研究では逆に此が初稿本系、藤樹全集等の所謂初稿本が定稿本と目されるに至った。

孝経啓蒙　中江藤樹撰　志村巳之助校　（明治二六年刊「藤樹全書」初編巻二所収）

孝経啓蒙（初稿本系）　中江藤樹撰　加藤盛一校　（昭和三年刊「藤樹先生全集」一・昭和十五年増訂印「藤樹先生全集」一所収）

底本篠原氏本。対校寛文八年刊本・無刊記刊本・京大蔵万治三年真祐写本・仮名書き孝経本。

（京都大学図書館）万治三年真祐写一冊。奥書「万治三年晩秋洛下後生真祐謹写」。誤脱が多いが、寛文・無刊記両刊本と出入あり。経文を句割し、注を附す。（藤樹書院）篠原元博写一冊。（*天理図書館）元禄二年伝新井白石写一冊。尾題「孝経首解終」。奥書「元禄二年己巳歳八月初十日　書之（輝）」。上段解注七行小字双行、下段経文八行四字。上段の注は啓蒙の注を殆ど全載、その一部は摘録して経文の傍注とする。無刊記本より写せる如し。

177孝経啓蒙　中江藤樹（原）撰　弘化元年八月跋刊（安中　板倉氏蔵板）　中一冊（「甘雨亭叢書」所収）

①　②第五集／甘雨亭鼓書／安中板倉氏開雕　③甘雨亭叢書第五集目録。孝経啓蒙（扉）。安中城主板倉勝明撰藤樹中江先生

伝　④孝経啓蒙／江西　中江原惟命著　⑤左右双有9行21字。白口　⑦弘化紀元中秋勝明跋　⑨岡狩慶玄楫東浜林　⑩定稿本系。但しこの本は訛誤が多い。

孝経啓蒙（定稿本）　中江藤樹撰　加藤盛一校　（昭和三年刊「藤樹先生全集」一・昭和十五年増訂印「藤樹先生全集」一所収）

底本全書岡田氏本。対校書院写本・白石真蹟抄本・孝経啓蒙附解本・益田本。

定本孝経啓蒙　中江藤樹撰　加藤盛一校注　昭和十七年刊（東京　天晨堂）　一冊

底本戸田本。

孝経啓蒙　中江藤樹撰　加地伸行校注　（昭和四九年刊「日本思想大系」29所収）

底本戸田本。

（愛媛県大洲市香渡家）藤樹自筆稿本一冊。晩年の筆で、門人新谷藩士戸田孫助に与え、戸田家に伝来し、後香渡家に移る。戸田本と称さる。巻首に「全孝図・全孝図説・全孝心法・誦経威儀」を冠す。（藤樹書院）写一冊。書院写本と称さる。（同上）写一冊。外題「孝経句解」。表紙見返に「益田義則書」と墨書。湖東門人益田家伝来本。益田本と称さる。（玄）写一冊。外題「孝経句解」。表紙見返に「益田義則書」と墨書。前者と同系。（京都大学図書館）〔江戸前期〕写一冊。後補表紙の外題（近写）に「孝経摘解零本単」。巻末に所謂定稿本に属する啓蒙が首より「終於立身、上文所謂始与中皆帰宿於立身、為全孝、如有孝心而不立身、則」〈以下欠、原文の訓点略〉までを附する。青山延宇旧蔵本。（林）昭和一五年林秀一影写〈拠岡山市立図書館本〉一冊。尾題「孝経蒙引終」。（玄）写一冊。「高根斉」「高根鼎三」の印あり。首に「全孝図・全孝図説・全孝心法・誦経威儀」を冠す。戸田本の如き定稿に至らざる前の未定の箇所が存する。（藤樹書院）岡田季誠写一冊。

178 増註孝経大義　二巻　片〔山〕松庵（朴元）撰　寛文八年五月序刊（西田爾弓斎）　大三冊

①増註孝経大義天（地・人）　②「増註孝／経大義」と左右に刻し中央に「書林西田爾弓斎梓行」　③寛文戊申夏五月松庵朴元序。凡例。采摭書目。目録。熊禾序（「増註孝経大義序／松　庵　片　朴元」とあり）　④増註孝経大義巻之上／朱文公刊誤鄱陽董鼎註（巻之下／松庵　片　朴元）　⑤双無10行21字小双。粗黒口　⑦徐貫跋　⑨石狩規玄楫東浜　⑩増注部は陰刻。狩玄は目録を二冊目巻頭（大題の前）に綴ず。

179 孝経大義講草鈔　六巻　〔小出永庵〕撰　寛文九年九月刊（京　小嶋弥左衛門）　大六冊

①孝経大義講草鈔一（一―六）　③孝字訓解大概。目録。孝経総論。曾子孝実。一経之発端。熊禾序　④孝経大義講草鈔巻之一（一―六）（首目は大題の後にあり）　⑤巻一は双無11行字数不等。巻二（熊禾序より）以後双無8行18字国字解小双。白口　⑦なし　⑧寛文九己酉歳九月十六日／室町通鯉山町　小嶋弥左衛門開板　⑨石規玄楫東浜林。

又〔後印〕（京　上村次郎衛門）　大六冊

①同前　⑧刊年同前。次行書肆名入木「二条通玉屋町　上村次郎衛門開板」　⑨狩。

180孝経大義証解　四巻　松浦交翠窩（黙）撰　延宝五年十月刊（江戸　戸嶋惣兵衛）　大四冊

③延宝丙辰之穐林叟序。総論　④孝経大義証解巻之一（一―四）　⑤双無11行21字小双。白口　⑦歳在乙卯仲秋既望番易交翠窩松浦黙跋　⑧延宝五丁巳年／十月吉旦／江戸室町三丁目戸嶋惣兵衛刊　⑨狩玄浜　⑩熊禾序より徐貫跋迄の証解。但し本文は要語の抽出、或いは「至某々」として箇条の抄出にとどまる。

181孝経大義詳略大全　四巻　毛利玄斎（逋客）輯校　延宝七年五月刊（松岡平兵衛）　大一冊

③熊禾序。目録（共に大題の後にあり）　④孝経大義詳略大全巻之一（三）／洛汭　逋客　毛利　玄斎　校輯（巻之二〈四〉は「洛下」とあり）　⑤単無9行17字小双25字。粗黒口　⑦徐貫跋　⑧延宝七己未歳仲夏吉日／書肆　松岡平兵衛繡梓　⑨林。

又〔後印〕（〔京〕　銭屋儀兵衛）　大二冊

①鼇頭孝経大義詳略大全巻一（三）　⑧刊年同前。次行書肆名入木「書肆　銭屋儀兵衛繡梓」　⑨岡玄斯椙。

又　毛利貞斎（逋客）輯校〔修〕（〔京〕　銭屋儀兵衛）　大二冊

①同前　④「洛下　逋客　毛利　貞斎　校輯」と改む　⑨石岡椙。

又　至正徳六年四月〔逋修〕（〔京〕　銭屋儀兵衛）　大二冊

①重改鼇頭孝経大義詳略大全巻一二（三四）　⑧正徳六丙申稔初夏穀旦／書肆　銭屋儀兵衛繡梓　⑨玄椙東林　⑩鼇頭を増補し、本文も巻二の十七ウ・十八オ等に修あり。

182孝経大義詳解　四巻　蘆川桂洲（正柳）撰　貞享五年八月刊（〔京〕　村上勘兵衛）　大二冊

①　③貞享戊辰四月庚申宇遯菴的叙。援引書目。総論。熊禾序。目録　④孝経大義詳解巻之一（一―四）　⑤単無10行17字国字解小双。白口　⑦徐貫跋。貞享第五戊辰歳蘆川桂洲正柳跋　⑧貞享五戊辰年八月上浣／村上勘兵衛彫刻　⑨狩　⑩鼇頭あり。

又　元禄元年十月〔印〕（〔京〕　森田長兵衛・奥村源兵衛）　大五冊

①孝経大義詳解総論序（一―四）　⑧元禄元戊辰年十月上浣／奥村源兵衛森田長兵衛彫刻　⑨石岡規玄椙東浜林　⑩浜一本は首目なし。規玄の各一本と東は書肆名を削去せし後印本。

又　享保六年三月〔印〕（大坂　吉田松根堂加賀屋善蔵）　大四冊

①同前　③なし　⑧享保六年辛丑更衣。次に「浪華書林吉田松根堂蔵版書目　心斎橋通安土町北へ入　加賀屋善蔵」四丁を付す　⑨玄　⑩一冊目（首目）欠か。

183孝経〔児訓〕　元禄六年三月刊（〔京〕　大和屋伊兵衛）　大二冊

①孝経児訓忠（信）　③孝図（宋米芾賛）　④孝経　⑤単無5行5字。白口。柱題「孝経児訓」　⑧元禄六癸酉年三月吉日／二条

通大和屋伊兵衛板行　⑨玄椙浜　⑩総振仮名。上段に国字解。浜は上冊欠。玄一本は下冊欠。宋古文。図は彩色。

又　正徳四年五月〔印〕（〔京〕　大和屋伊兵衛）　大一冊

①訓児孝経絵抄　⑧正徳四甲午五月穀旦／大和屋伊兵衛板行　⑨岡玄　⑩以下図は無彩色。

又〔後印〕（京　銭屋庄兵衛）　大一冊

①同前　⑧刊年同前。次行入木「京書林　堀川通綾小路下ル町銭屋庄兵衛版」　⑨石岡玄椙浜林。

又〔後印〕（京　銭屋庄兵衛・銭屋治兵衛）　大一冊

①訓児孝経絵抄　校正　⑧刊年同前。次行入木「京書林／堀川通綾小路下ル町　銭屋庄兵衛／油小路松原下ル町　銭屋治兵衛／版行（二肆の下に横書）」　⑨東。

184孝経示蒙句解　中〔村〕〔惕斎〕（仲敬甫）撰　元禄十六年五月序刊（京　武村新兵衛）　大一冊

①孝経示蒙句解　③元禄癸未五月穀日滕臧季廉序　④孝経示蒙句解　⑤単無7行14字国字解小双28字。白口　⑥孝経示蒙句解終　⑧華洛二条／書肆武村新兵衛刊行　⑨岡狩規東浜林　⑩刊誤本。序に「仲氏敬甫」の作とあり。

又〔後印〕（京　菊華堂菊屋七郎兵衛）　大一冊

①同前　⑧刊記削去。奥付「京都書林／寺町通松原上ル町西側／菊屋七郎兵衛／板行」　⑨岡狩玄浜林　⑩林は奥付の前に「菊華堂蔵板仮名本抜書目録　寺町通松原上ル町西側　菊屋七郎兵衛板元」を付す。又林一本は奥付なく「蔵板書物目録　寺町通松原上ル町　京都書林　菊華堂」を付す。岡は此「蔵板書物目録」の後に奥付「（広告書目）／書肆　京都寺町松原上ル町西側　菊屋七郎兵衛板」あり。

185同　宝永五年九月刊（大坂　小間物屋）　大一冊（覆184）

①同前　④孝経示蒙句解（振仮名ケウに注意）　⑥なし　⑧宝永五戊子年九月吉日／浪華　小間物屋重彫　⑨玄椙。

又〔後印〕　大一冊

①同前　⑧刊年のみ残し書肆名を削去　⑨岡玄椙林。

又　享保三年六月〔印〕（大坂　河内屋宇兵衛）　大一冊

①同前　⑧享保三戊戌年六月吉日／浪華書林　河内屋宇兵衛　⑨岡玄斯林。

186孝経刊誤集解　中〔村〕〔惕斎〕（仲欽）撰　増〔田〕〔立軒〕（謙）編　元禄十七年一月刊（京　武村新兵衛）　大一冊

①　③元禄九年六月既望増謙益夫序　④孝経刊誤集解／平安仲欽敬甫著／門人増謙益夫編　⑤単無7行14字小双。白口　⑧元禄十七年甲申正月日／華洛二条　書肆武村新兵衛刊行　⑨岡玄椙東浜林。

又　寛政元年十一月〔印〕（大坂　泉本八兵衛）　大一冊

①　⑧同前刊記の後に「寛政元年己酉十一月日／浪華心斎橋書肆泉本八兵衛求版」と入木　⑨林。

又〔後印〕（江戸　小林新兵衛）　大一冊

①　⑧刊記前半同前。「寛政元年己酉十一月日」をそのまま残し、以下「江戸日本橋通二町目　書肆小林新兵衛求版」と、書肆名を入木にて改む　⑨岡狩規玄椙東林。

187 孝経刊誤集解付付録　千葉祚胤校　〔江戸後期〕刊

大一冊（木活）

①孝経刊誤集解並付録　③同前　④同前　⑤単有8行17字小双21字。白口　⑦付録（「右十六章採諸任氏序説以付于巻後／千葉祚胤」とあり）　⑨狩。

188 孝経釈義便蒙　二巻　竹田春菴（定直）撰　貝原益軒訂　享保二年刊（京　柳枝軒茨木多左衛門）　半三冊

①孝経釈義便蒙上（下・下末）　②益軒貝原先生訂正　春菴竹田氏著述／孝経釈義便蒙／享保二丁酉歳刊布　平安柳枝軒蔵版　③享保丁酉孟春竹田定直序　④孝経釈義便蒙上（孝経釈義便蒙巻下／益軒貝原先生訂正　春菴竹田定直著）　⑤単無10行23字内外　⑧六角通御幸町西入町／茨木多左衛門寿梓　⑨岡狩慶椙林　⑩国字解。刊誤本。狩は189「孝経便蒙付纂」の見返を付す。或いは「付纂」との合印本か。

又〔明治〕印（京　瑞錦堂）　半二冊

①孝経釈義便蒙上（下）　②同前。但し書肆名を「平安瑞錦堂蔵板」と改む（見返の裏貼りに明治の活版本の反故を使用。表紙も明治のものと見ゆ）　③なし　⑧削去　⑨林。

孝経釈義　明治十七年八月〔修〕（東京　嵩山房小林新兵衛）　半二冊

①孝経釈義上（下）　②益軒貝原先生訂正春庵竹田定直著述／孝経釈義／東都書肆嵩山房　③竹田定直序　④孝経釈義巻上（孝経釈義巻下／益軒貝原先生訂正　春菴竹田定直著）　⑧奥付「享保二年三月出版／明治十七年八月十五日板木買受御届／著者　故竹田定直／版主　東京日本橋通二町目　小林新兵衛／東京／書肆／北畠茂兵衛／稲田佐兵衛／小林新造」　⑨東　⑩内題を改む。

189 孝経便蒙付纂　二巻　竹田春菴（定直）撰　貝原益軒訂　享保三年刊（京　柳枝軒茨城多左衛門）　大二冊

①孝経便蒙付纂上（下）　②益軒貝原先生訂正　春菴竹田氏著述／孝経便蒙付纂／享保三歳刊布　平安城書肆柳枝軒蔵版　④孝経便蒙付纂　⑤単無10行23字小双　⑥孝経便蒙付纂下終　⑦元禄庚午冬十月吉旦竹田定直跋　⑧木記「六角通御幸町西入町／書林茨城多左衛門版行」。次に「貝原先生編述目次／享保二丁酉歳平安六角御幸町書林柳枝軒蔵版」　⑨浜。

又　享保六年〔印〕（京　茨城多左衛門）　半二冊

①同前　②なし　⑧木記同前。次に「益軒先生編述書目／享保六辛丑歳　平安六角御幸町茨城多左衛門」　⑨狩。

孝経便蒙　二巻　明治十七年八月〔修〕（東京　嵩山房小林新兵衛）　半二冊

①孝経便蒙上（下）　②益軒貝原先生訂正春庵竹田定直著述／孝経便蒙／東都書肆嵩山房　④孝経便蒙　⑥孝経便蒙下終　⑧木記削去。奥付「元禄三年十月出版／明治十七年八月十五日板木買受御届／著者

故竹田定直／版主　東京日本橋通二町目　小林新兵衛／東京／書肆／北畠茂兵衛／稲田佐兵衛／小林新造」　⑨玄東　⑩内題を改む。

孝経釈義便蒙　二巻・孝経便蒙付纂　三巻　享保二・三年刊　〔後印〕（京　柳枝軒茨木〈城〉多左衛門）　半三冊

①「孝経釈義便蒙上(下・下末)」―下末は「付纂」に貼付―玄三冊本。「孝経釈義便蒙上(下・下末・不明)」―玄四冊本。「孝経釈義便蒙上(中・下)」―下は「付纂」に貼付―林　②188の見返に同じ。「付纂」に189の見返を付すものあり　⑧「便蒙」の巻末刊記は188に同じ。次に189と同様の書目又は「柳枝軒蔵書目録　六角通御幸町西入町　小川多左衛門」五丁を付す。「付纂」の巻末木記も189に同じ。玄の四冊本は木記なく後印か　⑨玄林　⑩単行・合印の別が判然とせぬものあり。

又〔後印〕（大坂　河内屋茂兵衛）　大三冊

①「孝経釈義便蒙下」のみ残る　②なし　⑧「便蒙」「付纂」共巻末の刊記を削去し、「付纂」に以下の奥付を付す。「書林（横書）／京都　河内屋藤四郎／江戸　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋新兵衛／山城屋政吉／英文蔵／丁子屋平兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋吉兵衛／大阪　河内屋藤兵衛／河内屋茂兵衛版」　⑨浜　⑩この奥付頻出。

孝経釈義便蒙　二巻・孝経釈義便蒙附纂　二巻　（明治四四年刊「益軒全集」八所収）

190 孝経安知鈔　三巻　勝田祐義撰　享保三年一月刊　大三冊

①孝経安知鈔上(中・下)　③誦経威儀　④○孝経安知鈔巻上（孝経安知鈔巻中・下）　⑤単無8行20字小双。白口　⑥孝経安知鈔終（孝経安知鈔巻上〈中〉終）　⑧木記「享保三戊戌暦孟春吉祥日／武都　勝田祐義編」　⑨岡狩規玄斯東　⑩宋古文。斯に自筆稿本あり。

孝経国字解　三巻(190の外題換)　明和四年三月〔修〕〔大坂　丹波屋半兵衛〕　大三冊

①孝経国字解上（中・下）　③孝経国字解巻上誦経威儀　④○孝経国字解巻上（孝経国字解巻中・下）　⑤版心の書名を削去　⑥孝経国字解終（孝経国字解巻上〈中〉終）　⑧朋(ママ)和四丁戌(ママ)三月吉旦／武都　勝田祐義編／大坂心斎橋南詰　丹波屋半兵衛板　⑨玄林。

又〔後印〕（大坂　玉笥堂丹波屋半兵衛）　大三冊

①同前　②東都勝田祐義先生著／孝経国字解全部三冊／浪華書房玉笥堂　⑧同前刊記の「戌」を「亥」と改む　⑨東。

又　至安永五年十月〔遁修〕（大坂　永昌堂柏原屋佐兵衛）　大三冊

①古文孝経国字解上（中・下）　⑥巻下の尾題を削去　⑧「享保三戊戌暦孟春／武都　勝田祐義編／安永五年丙申十月購板　浪花　書林　柏原屋佐兵衛」。次に「永昌堂板行書目抜書／御書物御経類古本売買所　大坂心斎橋通伝馬町　柏原屋佐兵衛板」　⑨椙林。

又〔明治〕印（大坂　森本文金堂河内屋太助）　大三

冊

①同前　②東京　勝田先生著／古文孝経国字解／浪華　森本文金堂蔵　⑥同前　⑧刊記同前。奥付「発行／書林／江戸　須原屋茂兵衛／須原屋伊八／山城屋佐兵衛／英大助／岡田屋嘉七／出雲寺万治郎／紙屋徳八／和泉屋吉兵衛／須原屋新兵衛／大坂河内屋太助」　⑨岡浜。

又〔遁修〕（大坂　桑林堂中野啓蔵）　大三冊

①同前　②中央に「古文孝経国字解全部三冊」とあり、左右に「国字解」の広告文（ひろめ）を記し、「浪華書林荒木永昌堂発行」　④巻中の内題を削去　⑧刊記同前。奥付「（『明治字典』等の広告書目）／和漢諸先生法帖石摺手本類製本所／桑林堂　大坂本街松屋町北へ入　中野啓蔵版」　⑨狩　⑩椙は見返なし。

孝経国字解　三巻　（大正二年刊「校註漢文叢書」三所収）

191孝経述（九述巻之一）　赤松太庚（弘）撰　宝暦六年二月刊（江戸　名山閣和泉屋吉兵衛〈木瓜亭蔵板〉）

大一冊

①孝経述　②太庚先生著／孝経述／東都　木瓜亭蔵版　③宝暦六年丙子春正月八日菅谷千秋序。論例小言（「宝暦丙子正月既望　山本周之謹書」とあり）　④九述巻之二／東都　赤松　弘著／門人（跨行）／岩　景明／高橋　盛／仝校（跨行）　⑤双有9行16字小双。白口　⑥九述巻之一終　⑧宝暦丙子春二月／論語述　近刻　全十冊／東都書肆名山閣　和泉屋吉兵衛発行　⑨岡狩規玄椙浜。

又〔後印〕（江戸　出雲寺和泉掾）　大一冊

②なし　⑧宝暦丙子春二月／論語述　五冊　出来／御書物師江戸日本橋通壱町目　出雲寺和泉掾　⑨規林。

192孝経〔集説〕　井〔上〕金峨（立元）撰　宝暦六年九月刊（江戸　玉海堂藤木久市〈槃塾蔵板〉）　大一冊

②井金峨先生撰／孝経集説／東都書肆玉海堂　③宝暦丙子夏五月山邦序。井立元序　④孝経／日本東都　井立元集説　⑤双有9行18字小双。白口。下象鼻に「槃塾蔵」　⑧（広告書目）／宝暦六丙子年九月／東都書林藤木久市梓　⑨狩。

193新刻孝経集説　〔井上〕金峨撰　明和四年閏九月序刊（江戸　越後屋藤兵衛〈考槃堂蔵板〉）　大一冊（覆192）

①孝経集説再刻　②なし　③明和四年閏九月袁藤君愿序。例言（192の自序の途中からの覆刻）　④新刻孝経集説／金峨先生撰門人　井毅子成　校（跨行）　⑧朱印「考槃堂／蔵版不／許翻刻」。裏表紙見返に「浅草新寺町稲荷町二町目／越後屋藤兵衛」　⑨浜。

又〔後印〕（江戸　藤木久市等）　大一冊

①同前　⑧朱印なく刊記「原刻宝暦丙子之秋九月／再刻明和丁亥之秋九月／東都書林／藤木久市／前川六左衛門／同長八」　⑨狩玄東　⑩狩は刊記の書肆名の「長八」の二字を削去せし後印本。

又〔後印〕（江戸　藤木久市等）　大一冊

⑧刊年同前。書肆名新刻「東都書林／芝神明前　藤木久市／日

本橋通三町目　前川六左衛門／日本橋通三町目　山口吉郎兵衛」　⑨石林。

194孝経〔斎氏伝〕　斎〔宮〕〔静斎〕（叔子）撰　〔宝暦〕刊　大一冊

③斉叔子大礼序　④孝経／日本（跨行）／広陵　斉叔子大礼伝／南泉　唐宗師大卿　校　⑤左右双有9行19字小双。白口。下象鼻に「蓊藹園」　⑨玄。

195孝経外伝　斎〔宮〕〔静斎〕（叔子）撰　〔宝暦〕刊　大一冊

①　④孝経外伝／広陵　斉叔子大礼　輯／南泉　唐宗師大卿校　⑤左右双有9行19字小双。白口。下象鼻に「蓊藹園」　⑨玄　⑩経文は一部の抄出にとどまる。

孝経〔斎氏伝〕・孝経外伝　宝暦十三年九月〔印〕（京斯文堂林宗兵衛）　大二冊

①孝経斎氏伝乾（坤）　⑧奥付「音例静斎先生著　出来／静斎先生文集　近刻／宝暦十三癸未歳九月／皇都書肆斯文堂　高倉通二条上ル町　林宗兵衛梓」　⑨椙林。

196古文孝経国字解　二巻　藤之元撰　明和七年三月序刊　半二冊

③明和庚寅春三月玉主人序　④古文孝経国字解巻上（古文孝経国字解下）／古文孝経序（孔序）　⑤左右双有10行21字内外小双。黒口（下巻は白口）　⑦孝経伝来　⑨椙　⑩序に「友人藤之元為之」とあり。

又　題〔太宰〕春台点　〔藤之元〕撰　明和七年八月〔修〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　半一冊

①古文孝経国字解　③なし　⑤白口　⑦なし　⑧奥付「春台先生訓点／明和七年庚寅秋八月日／東都　書肆嵩山房　小林新兵衛梓」　⑨岡玄椙浜林　⑩一オ末行「君」を「天」と改む。林は「古文孝経参疏三巻兼山宇子造追鐫／同付録一巻　兼山宇子校定　追鐫」の引札を貼付す。

又〔後印〕（江戸　小林新兵衛）　半一冊

⑧玄は「（広告書目）／日本橋通弐町目　小林新兵衛」。規は「（広告目録）／東都書林　日本橋南二丁目　小林新兵衛蔵板」。「女訓孝経教寿全一冊　高蘭山先生閲」の引札を挿む　⑨規玄。

197古文孝経講釈　二巻　小林文由録　文化十二年四月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　半二冊（翻196修印本・絵入）

①古文孝経講釈上（下）　②春台先生定本／古文孝経講釈全部二冊／東都書肆　嵩山房梓　③重刻古文孝経序／春台先生定本　小林文由録　④古文孝経講釈巻上（古文孝経講釈巻下／小林文由録／春台先生定本—跨行—）　⑤左右双有10行21字内外小双。白口。下象鼻に「嵩山房」　⑧奥付「（広告書目）／文化十二乙亥初夏／東都書肆　嵩山房　日本橋通南弐町目　小林新兵衛板」　⑨岡狩規慶玄東林　⑩本文は196修印本を底本とした粗なる覆刻か。岡に「絵本国字解書道手本類（嵩山房のものか）」とある書目を付すものあり。東京大学蔵「孝経〔国字解〕」〔江戸〕写　中一冊は板本の写しには非ざれど、多少の文字の違いを除き内容ほぼ同一。

198 古文孝経国字訓　三巻　徂山述　明和七年九月刊（京　博文堂丸屋市兵衛）　半三冊

①古文孝経国字訓上（中・下）　②徂山先生閲／古文孝経国字訓／皇都書林　博文堂　③明和庚寅秋八月芥徽卿叙　④古文孝経国字訓上／孔安国／古文孝経序（十九丁より本文「古文孝経孔氏伝」。「古文孝経国字訓中〈下〉　孔氏伝」）　⑤双有8行20字小双。白口。上象鼻に「孝経国字辨」　⑧徂山先生述　門人出羽田質之・日向阪義質仝著／明和七年庚寅九月／江戸　須原屋茂兵衛／大阪　柏原屋清右衛門／発行（上記二肆の下）／京都　丸屋市兵衛蔵板　⑨玄斯林　⑩玄は巻中欠。玄林は見返なし。

古文孝経国字辨　三巻　寛政十年十二月修（京　田中市兵衛）　半一冊

①　②なし　③なし　④古文孝経国字辨上（中・下）　⑧徂山先生述（のみ残し以下を削去）／寛政十年午十二月再訂／京都書林　田中市兵衛　⑨岡玄椙林　⑩内題を改む。玄のみ大本三冊にて「芥徽卿叙（『刊古文孝経国字訓叙』のまま）」を付す。他より早印ならむ。

199 孝経旁訓　山崎長卿撰　明和七年十一月刊（大坂　永昌堂柏原屋佐兵衛・丹波屋半兵衛）　大一冊

①　③明和庚寅夏六月山崎長卿序。孝経大意　④孝経旁訓　浪速山崎長卿述　⑤単有6行14字。白口　⑧「（広告書目）／明和七庚寅年十一月／心斉橋南詰　丹波屋半兵衛／同北久宝寺町　柏原屋佐兵衛」。次に「永昌堂板行書目抜書／御書物御経類古本売買所　大坂心斎橋通伝馬町　柏原屋佐兵衛板」二丁半を付す　⑨玄　⑩本文右傍に総振仮名、左傍に注解。

又〔後印〕（京　升屋勘兵衛）　大一冊

①孝経児訓　⑧同前刊記の書肆名を削去し入木「大坂書林　心斎橋順慶町　柏原屋与左衛門」。奥付「皇都／書林／三条富小路北　升屋勘兵衛」　⑨椙林　⑩柏原屋与左衛門印本未見。

200〔冢註〕孝経　冢田大峯（虎）撰　安永七年二月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛〈環堵室蔵板〉）　大一冊

①孝経冢虎註　②環堵室蔵／冢註孝経／東都書肆　嵩山房発行　③安永丁酉歳冬十一月朔馬場徳方士静序。安永四年乙未十月己亥冢田虎叔貔序（此順逆のものあり）　④孝経／日本　信濃冢田虎　註　⑤双有9行18字小双。白口。下象鼻に「環堵室」　⑧「冢田多門著／安永七年戊戌春二月刻／江都日本橋書肆嵩山房　小林新兵衛発行」。次に「雄風館著書目録　大峯冢田氏塾」一丁あり　⑨岡狩規玄椙浜林　⑩「雄風館目録」に墨釘あるもの早印。岡一本は墨釘なく奥付「江戸　書肆嵩山房　小林新兵衛梓行」を付す。狩林は刊記のみにて目録・奥付を付さず。椙は裏表紙欠。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①同前　⑧刊記同前。「雄風館目録」なく「書林嵩山房蔵板目録」を付す　⑨石椙浜。

又〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①同前　⑧刊記同前。同前広告目録の「東都」を「東京」と改む　⑨東。

201 孝経童子訓　上河〔淇水〕（正揚）撰　下河辺拾水画

天明元年五月刊（京　弘章堂山本長兵衛・循古堂近江屋治郎吉）　大一冊

②河子鷹編輯／孝経童子訓／平安書鋪弘章堂循古堂寿梓　③前訓・書学・文房之図　④孝経童子訓　⑤単無6行11字内外国字解小双　⑦宋儒道統之図。安永庚子の秋七月望上河正揚跋。日本年代略記。本宗五服之図。喪祭大意。不成就日録。願成就日。十干。十二支。十二月の異名等の日常便覧　⑧洛西隠士　下河辺拾水書并画／天明元年辛丑夏五月吉祥日／皇都書肆／二条通麩屋町東江入北側　山本長兵衛／麩屋町通三条上ル二丁目　近江屋治郎吉　⑨玄楫　⑩宋古文。上段に図・日常便覧。玄は「日本年代略記」に「（天明）二」と加刻。又玄に本文から正揚跋迄（四―七十八丁）にて、上段を印刷せぬものあり、講義用か。上段には「寛政庚申歳六月晦日／錦城南岡隠者／琢淳／与　木村平八」と識す講釈を書き入れる。

又〔天明七年修〕（京　弘章堂山本長兵衛・循古堂近江屋治郎吉）　大一冊

①外題を左肩に、目録外題を中央上部に貼付　②同前　⑨楫浜　⑩「日本年代略記」の「（天明）七」迄年記を加刻す。浜は同じく八迄加刻。「五」以下の文字浮いて見ゆ。売出年迄の年記を加刻して販売せしものか。

又〔至寛政元年遞修〕（京　弘章堂山本長兵衛・循古堂近江屋治郎吉）　大一冊

①同前　②同前　⑨岡林　⑩「日本年代略記」の「寛政己丑正月改元」迄年記を入れ、天明年間の主要事件を加刻す。

又〔後印〕（京　弘章堂山本長兵衛・林安五郎）　大一冊

②同前　⑧刊記の「麩屋町通三条上ル二丁目　近江屋治郎吉」を削去し、「新町通三条上ル二丁目　林安五郎」と入木　⑨岡。

又　文政七年五月〔印〕（大坂　河内屋新次郎）　大一冊

②同前　⑧天明元年辛丑夏五月吉祥日／二条通麩屋町東江入北側　山本長兵衛／文政七甲申年五月補刻／摂陽書林　北久太郎町四丁目　河内屋新次郎　⑨東。

又　上河淇水（正揚）撰　下河辺拾水・松川半山画　至嘉永六年九月〔遞修〕（京　俵屋清兵衛等）　大一冊

①孝経童子訓　②上河淇水先生著／孝経童子訓／京摂書林謙二舎積小館合梓　③前訓・書学・文房之図（松川半山）　⑦宋儒道統之図。正揚跋。日本年代略記（半丁増加）。本宗五服之図。喪祭大意。不成就日録。願成就日。破軍星。十干。十二支。十二月の異名等の日常便覧　⑧洛西隠士　下河辺拾水書画／嘉永六年丑九月再板／三都／会／書林／江戸芝神明前　岡田屋嘉七／大坂心斉橋筋北久太郎町　河内屋喜兵衛／同せんたんの木北久太郎町　河内屋新治郎／京都麩屋町通姉小路上ル町　俵屋清兵衛　⑨慶玄林　⑩本文も全丁修になる箇所多し。

202 孝経直解　松平君山（秀雲）撰　天明元年十一月刊（名古屋　藤屋吉兵衛等）　大一冊

①孝経直解　③天明元年辛丑夏五月癸巳岡田挺之序。天明辛丑夏六月礒谷正卿序。大意　④孝経直解／尾張　君山松平秀雲士

龍著／男　忠武／孫　秀彦／門人（跨行）／松原士鳳／浅井好徳／関屋惟徳／平野博文／林元規／友松純嘏／同校（跨行）⑤単有10行20字小双。白口　⑧奥付「天明元丑年十一月／尾張名古屋本町七町目　藤屋吉兵衛／大阪心斉橋南久宝寺町南江入河内屋八兵衛／京都二条通堺町　円屋源兵衛」　⑨狩規玄浜　⑩玄は見返に「京都三条通柳馬場東角　書林　堺屋仁兵衛板元」とある付箋を貼る。

又〔後印〕（名古屋　藤屋吉兵衛等）　大一冊

①同前　⑧奥付「天明元丑年十一月／尾張　名古屋本町七丁目藤屋吉兵衛／京都／唐本屋吉左衛門／円屋源兵衛／丸屋市兵衛」　⑨岡規椙林。

203古文孝経〔国字口義〕　菅〔井〕覇陵（敬勝）撰　天明四年五月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　半一冊

①古文孝経国字口義　②覇陵先生著／古文孝経国字口義／東都書肆　嵩山房梓　③関脩齢序（天明癸卯之冬東江源鱗書）。天明壬寅秋九月菅敬勝吉甫序　④古文孝経　菅氏国字口義　⑤左右双有8行16字小双。白口　⑧奥付「（広告書目）／天明四甲辰五月／江戸書肆　日本橋二丁目　小林新兵衛発行」　⑨狩玄。

204こうきやう　天明五年刊（千住　関屋海野寿翁蔵板）中一冊

④こうきやう　⑤無無8行字数不等（経文を和文にて記す。十六ウ-2行より注釈）　⑦口演（神社への千歌詩奉納とその寄金の呼びかけ）。「〇孝経印施　法信心の御方は何冊なり／とも御寄付可被成候則左に／記し置申候／孝経廿巻　日本橋壱丁目万や宇兵衛／同十巻　同弐町目　福嶋九兵衛／同十五巻　千住掃部宿　米屋忠兵衛／同十巻　中橋五りん丁　嶺岸数馬」　⑧天明五乙巳年／於広前施本／渕江領千住掃部宿／関屋　海野寿翁蔵板　⑨玄。

205古文孝経解〔田〕中道斎（仲和）撰　中田謙斎（敏）校　天明六年九月刊（大坂　興文堂亀屋安兵衛〈淡〔路〕島　監憲斎蔵板〉）　大一冊

①　②道斎先生著／古文孝経解／監憲斎蔵版　書林興文堂　③天明乙巳冬十一月稲田植苗序。天明五季乙巳春三月望藤江秀序。天明乙巳冬謙（末一画を欠く）斎中田敏校語　④古文孝経解／阿州　道斎　仲和　著／淡州　中田敏校／古文孝経序　⑤左右双有10行16字小双。白口。序・跋・本文等の首丁の下象鼻に「監憲斎」　⑦天明乙巳冬十一月蓮斎仁尾以友跋　⑧天明六年丙午秋九月／淡島　監憲斎蔵板（下に陰刻朱印「監憲／斎」）／阿州道斎先生著　道斎先生詩集　近刻　全部三冊／大坂書林心斎橋北詰　亀屋安兵衛　⑨岡狩規玄東浜林　⑩岡玄は後印本で見返並びに監憲斎の朱印なし。斯の写本は自筆初稿本か。

206孝経〔箋注〕　天明七年一月刊（京　浅井有斐堂）　大一冊

①新刻孝経箋注　④孝経　⑤双有10行21字小双。白口単白魚尾　⑥孝経　⑧天明七年丁未正月吉旦／堀川通高辻上ル町　浅井有斐堂寿梓　⑨玄　⑩宋古文。

又　寛政七年一月〔修〕（京　中川藤四郎）　大一冊

①「孝経」又は「新刻孝経箋注」　⑥孝経箋注終　⑧天明七丁未正

月吉旦／寛政七丁卯正月求版／堀川通六角下ル町　中川藤四郎版　⑨石岡玄楫林　⑩尾題を改む。

207孝経〔餘師〕溪百年撰　天明七年十一月刊（大坂　清水長右衛門等）　半一冊

①経典餘師孝経之部　②讃岐溪百年先生述／経典餘師孝経之部／（ひろめ）浪華書林羣鶴堂蔵　③凡例付言。読法よみかた　④孝一経／溪　氏　訳　⑤左右双有9行14字国字解小双。白口。下象鼻に「群鶴堂梓」　⑥孝経終　⑧奥付「四書之部　出来　五経并忠経武経七書　追々刻成／天明七丁未歳十一月／皇都書林　武村嘉兵衛／東都書林　山崎金兵衛／前川六左衛門／荒木佐兵衛／浪華書林　山口又一郎／森田伝兵衛／清水長右衛門」　⑨玄林　⑩上段に総振仮名にて「読法（よみかた）」を記す。林は後印本で奥付は「（広告同前）／天明七丁未年十一月／皇都書林　山本長兵衛／淡海治郎吉／東都書林　山崎金兵衛（以下同前）」。

又〔後印〕（大坂　柏原屋嘉兵衛等）　半一冊

①同前　⑧奥付「（広告同前）／天明七丁未十一月／皇都書林　山本長兵衛／淡海治郎吉／田中市兵衛／東都書林　山崎金兵衛／前川六左衛門／小林新兵衛／浪華書林　荒木佐兵衛／山口又一郎／清水長右衛門／柏原屋嘉兵衛」　⑨玄。

又〔後印〕（大坂　賭春堂山口屋又一）　半一冊

①同前　⑧「賭春堂蔵板目録　大坂心斎橋通北久太郎町　山口屋又一」を付す　⑨東。

208同〔明治〕刊（大坂　三木平七）　半一冊（覆207）

①同前　②なし　③なし　④孝経（連合符なし）　⑤版心下象鼻「群鶴堂梓」のまま　⑧林の奥付は「皇漢洋書籍処／書林（横書）／東京　北畠茂兵衛／西京　遠藤平左エ門／江州彦根小川九兵衛／同大津　沢宗治郎／播州明石　紙屋卯一郎／同姫路　灰屋輔二／同　同千代平／泉州堺　北村佐平／阪府心斎橋通　三木平七梓」。玄の奥付は「（広告書目）／府下各区小学校書籍取扱処／阪府書林　南本町心斎橋北へ入西側　三木平七」　⑨玄斯林　⑩巻末の「百拝（シテ）而訳（スト）／焉云爾（レレ）」（原文は小字双行）なし。斯は奥付なし。

209同　文化六年七月刊（大坂　文金堂河内屋太助・曙春堂山口屋又市）　半一冊（覆207）

①経典餘師孝経之部再刻　②讃岐溪百年先生述／経典餘師孝経之部／（ひろめ）浪華書林曙春堂文金堂梓　③凡例付言。読法よみかた　④孝一経／溪　氏　訳　⑤白口。下象鼻に「河内書屋梓」　⑥孝経畢　溪代録謹訳　⑧「文化六年／歳次己巳／七月再刻／皇都書林　伏見屋藤右衛門／東都書林　須原屋茂兵衛／浪華書林　山口屋又市／河内屋太助」。次に「大坂書林森本文金堂蔵板目録　心斎橋唐物町　河内屋太助」を付すものあり　⑨岡狩玄斯椙東林　⑩「百拝云々」なし。巻末上段に「天明七年／丁未十一月／刻」とあり（211迄同様）。東は奥付に「天保新板増補書翰大成」の広告あり。

210同　文化十二年五月刊（江戸　山盛堂）　半一冊（覆209）

①「経典餘師孝経之部」又は「経典餘師孝経之部再刻」　②なし　③以下同前　⑧文化十二亥年／五月吉日／東都　山盛堂板　⑨岡狩玄東林。

211同　〔江戸後期〕刊　半一冊（覆刻）
①経典餘師孝経之部再刻　②なし　③以下同前　⑧なし　⑨東。

212同　天保十四年九月刊（大坂　文金堂河内屋太助・文積堂河内屋仁助）　半一冊（覆209）
①同前　②天保再板（横書）／讃岐溪百年先生述／経典餘師孝経之部／（ひろめ）浪華書林文積堂文金堂梓　⑥溪代録謹訳／孝経畢　⑧奥付「経典餘師／出来目録（以上上段）／天保十四癸卯歳九月再刻／皇都書林　出雲寺文治郎／東都書林　須原屋茂兵衛／浪華書林　河内屋仁助／河内屋太助」　⑨岡玄椙林　⑩巻末上段に「天明七年／丁未十一月／刻／文化六年己巳七月／二刻／天保十四年／癸卯九月／三刻」と刻す。

213同　明治六年刊（大坂　文金堂森本太助）　半一冊（覆212）
①同前　②皇国二千五百三十三年新鐫（横書）／讃岐溪百年先生著／経典餘師孝経之部／浪華書肆　文金堂蔵　⑧奥付「各国書籍処／発兌／書賈／大阪心斎橋通本町東江入　書籍会社／下ノ関西南部町　書籍会社／大阪心斎橋通唐物町　森本太助」　⑨玄林　⑩巻末上段の「天明七年云々」なし。

又　〔後印〕（大坂　前川源七郎）　半一冊
⑧奥付「（『スペリング独学』・『リードル独学』等の広告書目）／発兌書肆　大阪心斎鉄橋筋北久宝寺町南へ入　前川源七郎梓／（欄外に）右之書籍何方之出肆へも差出し有之候間仰寂（ママ）寄御求可下候」　⑨岡。

214同　天保十四年冬刊（江戸　〔錦彩堂〕菊地虎松）　半一冊（覆刻）
①孝経餘師　②讃岐溪百年先生述／経典餘師孝経之部／書肆　錦彩堂梓　③凡例付言。読法よみかた（前付の二丁を一丁に縮める）　⑤白口　⑥孝経畢　溪代録謹訳　⑧奥付「（広告書目）／天保十四癸卯季冬発市／東都書肆　北本所表町　菊地虎松板」　⑨玄林　⑩巻末上段の「天明七年云々」なし。

215同　〔江戸後期〕刊　半一冊（覆214）
①同前　②なし　③以下同前　⑧なし　⑨岡狩規　⑩規の裏表紙見返に「嘉永六丑十一月求之　村岡氏」と墨書あり。

又　〔後印〕（江戸　小林新兵衛）　半一冊
①同前　②讃岐溪百年先生述／経典餘師孝経之部／書肆　尭幸堂梓　⑧奥付「（広告書目）／書林　日本橋南二丁目　小林新兵衛蔵板」　⑨林　⑩尭幸堂刊本か。

孝経〔餘師〕　昭和九年刊（東京　斯文会）　菊一冊
底本212。

216孝経〔餘師〕〔溪百年〕撰　天保十三年三月刊（江戸　吉田屋文三郎）　中一冊
①孝経餘師　③序。読法よみかた　④孝経　⑤単有7行12字小双。白口　⑥孝経畢　⑧奥付「孝経餘師（ひろめ）／天保十三壬寅年三月新刻／江戸馬喰町壱丁目　吉田屋文三郎」　⑨斯林　⑩巻末上段に「孝経畢（かうきやうをはんぬ）」。林一本は奥付なく、裏表紙見返に「天保十四卯年／正月求之」と墨書あり。

又　〔後印〕（江戸　誠徳堂）　中一冊
①同前　②初学捷径／孝経餘師／東都　誠徳堂蔵梓　⑧なし　⑨玄。

217同　〔江戸後期〕刊（江戸　吉田屋文三郎）　中一冊（覆216）

①同前　②なし　③序。読法（前付の二丁を一丁に縮める。本文の丁付は三―三十のまま）　⑧奥付「（広告書目）／江戸　人形町通り庄助屋敷　吉田屋文三郎板」　⑨椙東　⑩巻末上段に「孝経畢」。216の粗雑なる覆刻。

又〔後印〕（江戸　山城屋平助）　中一冊

①同前　⑧奥付「（広告書目）／日本橋元大工町北側　山城屋平助蔵板」（玄斯なし）　⑨岡玄斯林。

218同　万延刊（江戸　保永堂）　中一冊（覆217）

①同前　②万延新刻／幼童必読孝経餘師／東都書林　保永堂蔵板（斯林なし）　③同前　⑤白口。本文丁付一―冊。「十一ノ十三」として序の二丁分をごまかす　⑧なし　⑨玄斯林　⑩巻末上段に「孝経畢」。217の粗雑なる覆刻か。字様やや大ぶり。

219同　〔江戸後期〕刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　中一冊（覆217）

①古文孝経餘師　②幼童必読／古文孝経餘師／江戸書肆　嵩山房梓　③同前　⑤白口。丁付一―二十八　⑧奥付「（広告書目）／東都書肆　嵩山房　日本橋通二丁目　小林新兵衛」　⑨玄　⑩巻末上段の尾題の読法なし。217の粗雑なる覆刻。字様やや小ぶり。

220古文孝経和字訓　塚田大峯撰　天明八年一月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①古文孝経和字訓　②大峯先生訓　門人岩井夙上木／古文孝経和字訓／江都書肆　嵩山房梓行　④古文孝経和字訓　⑤左右双有8行16字小双。白口。下象鼻に「嵩山房板」　⑧奥付「塚田多門訓／天明八年戊申正月望／江都日本橋書肆　小林新兵衛板」　⑨岡狩規玄東浜林　⑩総振仮名。

221孝経小解〔熊沢蕃山〕（息游軒）撰　天明八年十一月刊（江戸　西村源六等〈□春堂蔵板〉）　大二冊

①孝経小解上（下）　③天明戊申仲冬之日草加源定環循仲序　④孝経小解　⑤無無12行18字　⑧朱印「□春／堂蔵」／天明八戊申歳／仲冬良辰／大坂心斉橋転馬町　荒木佐兵衛／江都本石町十軒店　山崎金兵衛／同本町三丁目　西村源六」。次に「山金堂蔵板書籍目録」を付すものあり　⑨岡狩規玄椙林　⑩国字解。宋古文。序に「息游軒」の作とあり。岡一本と林は刊記の前に朱印押捺部の枠のみ残る後印本で、「山金堂蔵板書籍目録本石町十軒店山崎金兵衛」を付す。岡玄林に更に後印にて枠も削去せしものあり。

又〔後印〕（江戸　西村源六等）　大二冊

⑧朱印・枠なし。221の刊記「荒木佐兵衛」の前に、「京二条通堺町東　脇坂庄兵衛／同麩屋町通御池下ル　淡海治郎吉」の二肆を加刻　⑨狩東。

又　熊沢〔蕃山〕（了芥）撰　文政三年十月〔印〕（江戸　文会堂山田佐助）　大二冊

②熊沢了芥先生講釈／孝経小解／東都書舗　文会堂発行　⑧刊記なし。「文会堂広告書目」一丁（なきものあり）。奥付「（広告書目）／文政三年庚辰初冬／書林／京都　小川太左衛門／江

戸　須原屋茂兵衛／前川六左衛門／須原屋伊八／北島長四郎／山田佐助」　⑨岡狩林　⑩刊記半丁分を印刷せざりし如し。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大二冊

②同前見返の「文会堂発行」を「嵩山房発行」と改む。⑧221後印（西村源六等）本と同じ。「天明八戊申歳／仲冬良辰／京二条通堺町東　脇坂庄兵衛／同麩屋町通御池下ル　淡海治郎吉／大坂心斉橋転馬町　荒木佐兵衛／江都本石町十軒店　山崎金兵衛／同本町三丁目　西村源六」。次に「嵩山房蔵板（版）目録」（玄なし）　⑨岡慶玄椙浜林　⑩印面と、広告書目中に「83孝経山子点」（文政十二年四月刊）を載せることから「山田佐助印本」の後印と推定。

孝経小解　中江藤樹定本並国訳　熊沢蕃山講述　明治四四年刊（東京　読売新聞社）　四六判一冊

孝経小解　熊沢蕃山撰（明治四五年刊「先哲遺著漢籍国字解全書」一所収）

底本221。

孝経小解　四巻　井上通泰解説　昭和三年刊（東京　珍書保存会）　大四冊

影印蕃山自筆稿本。

孝経小解（昭和四年刊「国民思想叢書儒教篇」所収）

底本221。

孝経小解（昭和十三年刊「日本精神文献叢書」九所収）

底本221。

孝経小解　四巻（昭和十五年刊「蕃山全集」三所収）

底本蕃山自筆稿本。

222〔国訳〕古文孝経　松本梧園（廉安）撰　寛政元年十一月刊（門人蔵板）　大一冊

①ひらかな古文孝経国訳　③寛政元年己酉冬十一月松本廉安「国訳古文孝経序」　④古文孝経／東都　梧園松本廉安訳　⑤左右双有8行18字内外小双。白口　⑥孝経終　⑧寛政元年己酉十一月／門人蔵版　⑨狩規玄椙。

223古文孝経孔伝参疏　三巻〔片山〕兼山閲　山中祐之輯　寛政元年刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大三冊

①古文孝経参疏上（中・下）　②兼山先生著／古文孝経参疏／寛政元年己酉新刻　東都　嵩山房梓　③寛政元年己酉秋九月葛山寿序。古文孝経孔序参疏。凡例（「凡例」・「孔序参疏」の順に綴るものあり）　④古文孝経孔伝参疏巻之上（中・下）／山中祐之　輯／兼山先生閲（跨行）／葛山　寿／萩原万世／同校（跨行）　⑤双有9行17字小双。白口　⑦己酉秋九月萩原万世跋　⑧奥付「天明八年戊申初秋／江都　書肆嵩山房　小林新兵衛（ママ）行」　⑨岡規慶玄斯椙東浜林。

又〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

②「東都」を「東京」と改む　⑧「江都」を「東京」と改む　⑨岡東。

224神儒仏三法孝経口解　三巻　釈東嶺円慈撰　寛政三年夏刊（豆州　円通山蔵板）　大三冊

①神儒仏三法孝経口解上（中・下）　③天明五年丁巳五月至寛

政元年己酉十二月朔夜之暁旦東嶺頭陀円慈序　④神儒仏三法孝経口解巻之上（中・下）／第一神乗孝経（第二儒道孝経・第三釈門孝経）　⑤単無12行23字。白口　⑦寛政庚戌冬参学某跋　⑧助刻／鈴木氏　山本氏　小泉氏　浅野氏　山際氏　池上氏　小山屋／長田氏　古山氏　大野氏女　保坂氏　中村氏女　伊藤氏／寛政辛亥夏上梓／豆州円通山蔵板　⑨狩慶玄椙林　⑩玄は跋を序の後に綴ず。椙は刊記の後に綴ず。

225古文孝経解詁　〔宮田〕五溪（平龍）撰　寛政六年十月序刊　大一冊

①古文孝経解詁　③寛政六年秋七月江康鵬序。寛政甲寅歳冬十月松原駿序　④古文孝経解詁／日本　五溪　平龍　著／紀府杉豹　校　⑤双有10行20字。白口　⑦寛政六甲寅夏六月松井玄隆子雄跋　⑨石狩東　⑩断句。

226孝経　石川雅望訓解　寛政九年三月刊（江戸　耕書堂蔦屋重三郎）　中一冊

①「国字／傍訓／俚語／略解」と角書し「孝経平仮名付」、その下に横書で「板元」とあり、中央に耕書堂の商標を刻す　②孝経（国字傍訓俚語略解）耕書堂梓／孔子図　③（自）序　④孝経（かうけい）　⑤単無7行13字。白口。一丁目版心下部に「耕書堂蔵」とあり　⑦石川雅望跋　⑧千字文略解／孝経小解／寛政九年丁巳春三月／書肆御江戸常磐橋御門本町筋下ル八丁目通油町　蔦屋重三郎梓　⑨狩浜　⑩総振仮名。宋古文。

227同　文化六年三月刊（江戸　耕書堂蔦屋重三郎）　中一冊（覆226）

①以下同前　⑧千字文略解／孝経小解／文化六年己巳春三月／以下同前　⑨狩規玄斯。

又〔後印〕（江戸　耕書堂蔦屋重三郎）　半一冊

①孝経（平かな付講釈入）　②以下同前　⑨椙東　⑩異本を装い装訂を変えて二種売出せしものか。慶元堂修印本にも二種あり。

又〔修〕（江戸　慶元堂和泉屋庄次郎）　中一冊

①227中本の蔦屋の商標を慶元堂のものに改む　②同様に「耕書堂梓」を「慶元堂」と改む（梓の字なし）　⑤版心「耕書堂蔵」のまま　⑧書名二行削去。文化六年己巳春三月／書肆　江戸浅草新寺町　和泉屋庄次郎　⑨玄椙林。

又〔後印〕（江戸　慶元堂和泉屋庄次郎）　半一冊

①蔦屋半紙本に同じ　⑨玄椙浜。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　中一冊

②同前見返の「慶元堂」を「嵩山房」と改む　⑤版心同前　⑧文化六年己巳春三月／書肆　江戸日本橋通二町目　小林新兵衛　⑨東林。

228孝経古伝　徳力桃溪（良翰）撰　享和二年八月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①　②桃溪徳力先生著述／孝経古伝／東都書肆　嵩山房梓行　③享和二年歳次壬戌夏五月土田仍富序　④孝経古伝／徳力良翰伝／弟　良興／土田仍富／同校（跨行）　⑤双有9行18字小双。白口　⑦享和二年歳次壬戌夏五月岡井璵跋　⑧奥付「享和二歳次壬戌仲秋／東都書林　日本橋通弐町目　小林新兵衛板」　⑨規東　⑩断句。

229古文孝経解　金勝仙撰　享和二年十月刊（江戸　嵩山房小林新兵衛）　半一冊

①和字正註古文孝経解新刻　②金勝先生辯／和字正註古文孝経解／東都書肆　嵩山房梓　③享和二壬戌秋八月金勝仙序　④古文孝経解　⑤単有9行16字小双。白口。下象鼻に「嵩山房」　⑦享和二壬戌初冬東都隠士某跋　⑧「東都　書肆　嵩山房小林高英板／○孔安国ノ序解　近刻」。奥付「（広告書目）／享和二壬戌歳初冬／江戸書肆　日本橋南二丁目　小林新兵衛梓」　⑨岡狩　⑩狩は刊記「小林高英板」の「板」の字を削去せし後印本。

又〔修〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　半一冊

②同前　③「金勝仙」の前に「武陽」と入木　⑧「小林高英板」の「板」の字を削去せし他、刊記・奥付同前　⑨浜　⑩本文の訓みに修あり（一オ五行目「子曰」を「子曰」と改む）。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　半一冊

①和字正註古文孝経解　②金勝先生辯／和字正註古文孝経解／（ひろめ）東都書舗　嵩山房蔵　⑧同前　⑨玄椙東林。

230絵本孝経（外題）〔鍬形〕蕙斎画　文化十年春刊（〔名古屋〕片野東四郎等）　半二冊

①絵本孝経上（下）〈朱刷〉　②と③彩色図中に序（見開き）　④内題なし　⑤単無行字数不等。白口　⑧東都蕙斎先生画／文化十歳酉春発兌／書肆／浪花　松村九兵衛／東武　前川六左衛門／西村源六／尾張　片野東四郎　⑨斯　⑩国字解。総振仮名。経文抄出。

又〔後印〕（〔名古屋〕片野東四郎等）　半二冊

①同前　⑧同前刊記の「西村源六」を「小林新兵衛」と改む　⑨岡椙東林　⑩口絵彩色のもの早印。後印本は無彩色にて一冊本となる。岡三本（一本早印。二本上冊欠）は「前北斎戴斗先生画譜　尾張　永楽屋東四郎」と刻する広告書目を付す。東林一本（後印）は「御子様達江御進物ニ被遊候而格別亘敷書物／尾張名古屋本町七丁目　永楽屋東四郎」と刻する広告書目を付す。

又〔後印〕（江戸　小林新兵衛）　半一冊

①絵本孝経　⑧刊記同前。次に「（広告書目）／日本橋通弐町目小林新兵衛」。玄はその前に「広告書目」二丁あり　⑨岡狩玄椙東林。

231孝経証話　高〔橋〕女護島（閔慎）撰　〔江戸後期〕刊（〔証学堂蔵板〕）　大一冊

③孝経証序文之話　④孝経証話／女護島　高閔慎集著　⑤左右双有10行21字。白口　⑧「証拠学著述録　懐河　青信有誌」二丁　⑨岡玄　⑩国字。246「孝経証」と共に書目の墨釘・増補により印刷の先後判断可能。岡はやや後印。

又　文化十三年九月序〔印〕（〔証学堂蔵板〕）　大一冊

①　③文化丙子秋九月既望佐々木重晁序。文化二乙丑仲春高閔慎「大学仮字解（序）」―狩林なし。孝経証序文之話　⑧「証拠学著述録」三丁（林なし）　⑨狩東林。

232孝経考文〔永井〕昞斎（江襲吉）撰　文政七年五月序刊（松賢斎蔵板）　大一冊

①　③文政甲申孟夏上澣日江熙隆序　④孝経考文／日本尾張江襲吉訂正　⑤左右双有10行20字。白口　⑦文化甲戌仲夏昞斉（ママ）

江襲吉跋　⑧朱印「松賢／斎」。「門人源孟虎 江熙隆 紀中倫 源猷 覆校」　⑨狩玄浜　⑩断句。狩は朱印なし。

233孝経国字解　二巻　伊藤鹿里（祐義）撰　文政十年春刊（仰継堂蔵板）　大二冊

①孝経国字解上（下）　②文政十年丁亥春新鐫（横書）／鹿里伊藤忠岱著／孝経国字解／仰継堂蔵版　③文政丙戌暢月七日太田敦叙　④孝経国字解巻上（下）／信濃　伊藤祐義忠岱著（跨行）　⑤左右双有6行16字小双23字。白口。下象鼻に「仰継堂蔵板」　⑦丁亥三月望海保尚賢跋（序の後に綴ずるものあり）　⑨狩規玄斯椙東林。

234古文孝経韻語図解　岡田静安撰　天保六年十一月序刊（松響園蔵板）　半一冊

①孝経韻語図解　②岡田静安著／孝経韻語図／松響園蔵　③天保六年十一月冬至岡田静安序。凡例。古文孝経序韻語図解／東武蕨駅　隠医　岡田静安　著　④古文孝経韻語図解／東武蕨駅　隠医　岡田静安　著　⑤単有10行21字。白口　⑦（自）跋　⑨狩椙　⑩狩は二十一丁以下欠。

235孝経告蒙政談　佐藤〔延陵〕（貞吉）撰　天保十四年二月序刊　半〔二〕冊

①　③天保八年丁酉夏五月角田簡序。「参校・参訂」人列記。癸卯天保十四年春二月佐藤貞佑貞吉自序説　④孝経告蒙政談　佐藤貞吉著　⑤単有7行18字国字解小双。大黒口　⑨玄　⑩玄は下冊欠。

孝経告蒙解（235の外題換）　佐藤大道（貞吉）撰　天保十四年三月跋〔修〕（起雲洞蔵板）　大二冊

①「孝経告蒙　巻上（下）」―林。「孝経告蒙解　巻」―玄三冊本（第三冊に「一〈―三〉」と墨書）　②大道佐藤先生著／孝経告蒙解／起雲洞蔵　③天保十四年春三月山本邁跋。角田簡序。校合門人姓名（序二丁目修）。自序説　④孝経告蒙解　佐藤貞吉著　⑥孝経告蒙解終　⑧参校訂姓名（235「孝経告蒙政談」の「角田簡序」二丁目一・二行を削去し、「参校訂姓名」と入木をして使用。為に版心丁付「二」とあり）　⑨玄林。

孝経告蒙一家政談（前書の外題換）　佐藤東山（貞吉）撰〔通修〕　大一冊

①「古文孝経告蒙」―椙。「孝経一家政談」―浜　③角田簡序。校合門人姓名（浜は以上なし）。自序説　④孝経告蒙一家政談　東山　佐藤貞吉著　⑧参校訂姓名（浜なし）　⑨椙浜　⑩浜は後印か。

又　嘉永六年序〔印〕　大一冊

③嘉永癸丑夏五月宮崎安宅序　⑧なし　⑨玄。

236孝経通　二巻　蒔田雁門（貞）撰　天保十一年四月序刊（京　木村吉右衛門等〈烟霞堂蔵板〉）　大二冊

①孝経通全　②蒔田雁門先生著／孝経通／烟霞堂蔵　③天保十一年庚子初夏蒔田貞序。蒔田貞孝経説　④孝経通巻之上(下)／越前　蒔田貞註／男　亮校　⑤左右双有9行18字小双。白口　⑥「孝経通巻之上」。「孝経通巻之下終」　⑧蒔田雁門先生著述目録／烟霞堂蔵板／書肆／東都　日本橋通弐町目　山城屋佐兵衛／摂陽　心斎橋筋博労町　河内屋茂兵衛／皇都　東洞院二条

上ル　木村吉右衛門　⑨関西大学・椙　⑩椙は刊記の後に以下の奥付あり、後印本か。「書房／皇都　河内屋藤四郎／東都　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／摂陽　河内屋茂兵衛」。

又〔修〕（大坂　河内屋茂兵衛等）　大二冊

①孝経通上（下）　②同前（玄に見返と同様に刷印せる袋あり）　⑥孝経通巻之上（下）―「終」を削去　⑧同前（慶林なし）　⑨狩慶玄林。

又〔後印〕（大坂　河内屋茂兵衛等）　大二冊

①同前　⑧原刊記なし。奥付「書林（横書）／京都　河内屋藤四郎／江戸　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋新兵衛／山城屋政吉／英大助／英文蔵／丁子屋平兵衛／岡田屋嘉七／大阪河内屋藤兵衛／河内屋茂兵衛」　⑨東。

237〔頭書講釈古文〕孝経　高井蘭山撰　嘉永二年五月刊（江戸　嵩山房須原屋新兵衛）　中一冊

①古文孝経頭書講釈　②嘉永新版（横書）／高井蘭山先生著／頭書講釈古文孝経　平かな付／江戸書肆　嵩山房梓　③孔序　④孝経（かうきやう）　⑤単無7行13字。白口　⑦天保壬辰年春三月高井蘭山叟跋　⑧奥付「（広告書目）／嘉永二年己酉五月／浪華／東都／書肆／河内屋喜兵衛／須原屋茂兵衛／須原屋新兵衛」　⑨岡玄林　⑩総振仮名。

又〔明治〕印（東京　嵩山房須原屋新兵衛）　中一冊

①同前　②「江戸」を「東京」と改む　⑧「東都」を「東京」と改む　⑨東浜。

238絵本孝経　二巻　高井蘭山撰　〔葛飾〕北斎（前北斎卍老人）画　嘉永三年十月刊（江戸　嵩山房須原屋新兵衛）　半二冊

①「絵本孝経上（下）」（朱刷）　②前北斎卍老人画／画本古文孝経／東都書肆　嵩山房梓　③仲尼曾子の伝。天保五甲午孟春高井蘭山叙。大成至聖文宣王絵　④絵本孝経（ゑほんかうきやう）　⑤単無7行21字小双。白口。下象鼻に「嵩山房」　⑧奥付「嘉永三庚戌年初冬／彫工　江川仙太郎／尾州名古屋　永楽屋東四郎／京都　出雲寺文次郎／大坂　河内屋喜兵衛／同　河内屋茂兵衛／江戸　須原屋新兵衛梓」　⑨岡慶玄　⑩総振仮名。

又〔後印〕（江戸　嵩山房須原屋新兵衛）　半二冊

①同前（朱刷）　⑧奥付「嘉永三戌年初冬／彫工　江川仙太郎／諸国発行（横書）／越後水原　小田島儀兵衛／同三条　扇屋七右衛門／同長岡　中村屋作平／奥州仙台　伊勢屋半右衛門／常州水戸　升屋治三郎／武州川越　本屋儀左衛門／野州宇都宮荒物屋伊右衛門／東都書肆　須原屋新兵衛梓」　⑨東。

239同　二巻　高井蘭山撰　葛飾北斎（前北斎為一）画　元治元年冬刊（江戸　嵩山房須原屋新兵衛）　半二冊（覆238）

①同前　⑧奥付「東都　高井蘭山翁謹撰／東都　葛飾　前北斎為一翁画図／彫工　宮田六左衛門／原板嘉永二年己酉春出板／元治元年甲子冬再刻／東都書肆　嵩山房　須原屋新兵衛梓／京都書肆／須原屋平左衛門／出雲寺文治郎／勝村治右衛門／江都書肆／須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋佐助／須原屋伊八／岡田屋嘉七／和泉屋吉兵衛／和泉屋金右衛門／大坂書肆／河

内屋喜兵衛／敦賀屋九兵衛／河内屋茂兵衛／秋田屋太右衛門／尾州書肆　永楽屋東四郎／越後書肆／小田島儀兵衛／扇屋七右衛門／中村屋作平／信州書肆　小升屋喜太郎／野州書肆　荒物屋伊右衛門」　⑨岡楫浜林。

又〔明治〕印（東京　嵩山房須原屋新兵衛）　半二冊

①同前　②「東都」を「東京」と改む　⑧「東都」を「東京」、「江都」を「東京」と改む　⑨斯東。

240 古文孝経摂字註（外題）　二巻付孝経・孝経図・孝経図口義・孝経図解・孝経図解口義・感戴賦〔九鬼〕温斎（藤原隆都）撰　嘉永四年六月序刊　大一冊

①古文孝経摂字註　A　②扉「古文孝経温斎摂字註上（下）」　③嘉永四年歳次辛亥六月筒井憲序　④古文孝経巻之上（下）／藤原隆都摂字註　⑤単無12行23字。白口　B　②扉「孝経」　④孝経（単行60「孝経」と同板）　C　②扉「孝経図」　③弘化四年丁未正月藤原隆都序　④孝経図（単行319「孝経図」とは別板）　⑤単無。白口。下象鼻に「桃洞書院蔵」　⑦（自）跋　D　②扉「孝経図口義」　④孝経図口義／藤原隆都述　⑤単無12行19字小双。白口。下象鼻に「桃洞書院蔵」　⑦（自）跋　E　②扉「孝経図解」　④孝経図解／藤原隆都著　⑤単無12行19字。白口。下象鼻に「桃洞書院蔵」　⑦嘉永二年己酉正月元旦（自）跋　F　②扉「図解口義」　④孝経図解口義／藤原隆都著　⑤単無12行19字小双。白口。下象鼻に「桃洞書院蔵」　⑦（自）跋　G　扉「感戴賦」　④内題なし。「感ニ戴／聖恩ヲ而……」　⑤単無12行19字小双。白口。下象鼻に「桃洞書院蔵」　⑥巻末に「于時天保十五年甲辰三月朔旦微臣藤原隆都頓首」　⑨狩玄東浜林　⑩規蔵写本一冊は本文のみにて、刊本に比し、後半少しく出入異同あり。

又〔修〕（〔視如斎蔵板〕）　大一冊

①同前　A　（③筒井憲序。天保十年己亥十二月十二日藤原隆都序。凡例）　B　（③嘉永三年庚戌六月甲子藤原隆都序）　CDE　F　（⑦〈自〉跋。天保十二年癸丑二月藤原隆都書口義後。嘉永二年己酉十一月廿五日視如斎跋）　G　の順に綴ず　⑨規　⑩「孝経」と刷る袋あり。

又増補孝経庶人章（「感戴賦」不載）〔遁修〕（視如斎蔵板）　大一冊

①同前　②太平餘沢／孝経摂字註／視如斎蔵梓　A　（②扉なし。③以下同前）　B　（②以下同前）　H　②扉「孝経庶人章」　④庶人章第五　⑤無無9行19字内外。和文　C　（②扉「孝経図口義」―Dの扉―を付し其後にCDを続けて綴ず）　D　E　（②扉「図解口義」―Fの扉―を付し其後にEFを続けて綴ず）　F　（⑦〈自〉跋。天保十二年丑二月藤原隆都書口義後。視如斎跋）　⑨東・宮城県立図書館　⑩東は本書のH以下と扉の綴じ方に至るまで同一。但しABなく後補表紙。「書口義後」中の「癸丑」を「丑」と改む（天保十二年は辛丑）。

又付孝経・孝経図・孝経図口義〔後印〕（視如斎蔵板）　大一冊

①同前　②同前。BACDの順に綴ず。各扉あり　⑨規楫。

241 孝経〔刊誤集註〕氏家〔閑存〕（顕）撰　嘉永六年刊

（新潟　常善堂蔵板）　大一冊

①「嘉永／癸丑／新刻」と角書あつて「孝経刊誤集註」　②仙台氏家顕子徳述／孝経刊誤集註／北越新潟　常善堂蔵梓　③嘉永四年歳在辛亥季秋之月氏家顕序　④孝経／朱子刊誤　仙台　氏家顕集註　⑤単有9行20字小双。白口。版心下部に「常善堂蔵」　⑦〔朱〕熹跋二則　⑨狩規玄林。

242 孝経　小畑詩山（行簡）訳　元治元年二月序刊（〔江戸〕　詩山堂蔵板）　大一冊

①　②日本小畑行簡訳／孝経／詩山堂蔵梓（椙に同様に印刷せる袋あり）　③元治甲子之春二月小畑行簡序　④孝経／日本江戸　小畑行簡　訳　⑤単無9行19字訳文小字三行。粗黒口　⑥門人／宗昌庵／高嶋文栄／小川弘次／校／孝経終　⑨狩規椙浜林。

243 孝経参釈　川碕魯斎（履）撰　慶応四年春刊（江戸一貫堂万屋忠蔵〈尚志堂蔵板〉）　大一冊（朱墨套印）

①　②慶応四戊辰春新鐫（横書）／魯斎川崎先生著／孝経参釈／東都書肆　一貫堂発兌　③慶応三年丁卯三月穀旦沼田城主土岐頼之序。慶応丙寅桂月旬又八冀秋月種樹序。元治紀元甲子臘月川碕履序　④孝経参釈／魯斎（ママ）川碕履　著　⑤単有10行20字。白口　⑥男　川崎行恭／門人（跨行）／若松行尚／猪野中行／同校／孝経参釈終　⑦慶応三年丁卯正月穀旦猪野中行跋　⑧奥付「尚志堂蔵板／慶応四辰年春刻成／製本書林　芝飯倉町五丁目　万屋忠蔵発」　⑨東京教育大学。

又〔後印〕（江戸　一貫堂万屋忠蔵・嵩山房小林新兵衛）　半一冊

①　②書肆名を「嵩山房一貫堂発兌」と改む（岡に同様に印刷せる袋あり）　⑧奥付「（前半同前）／製本書林／日本橋通二丁目　小林新兵衛／芝飯倉町五丁目　万屋忠蔵」　⑨石岡狩規慶玄斯椙東浜林。

同　昭和十年刊（東京　吉川弘文館）　半一冊（影243・二色刷）

見返に「川崎魯斎著／孝経参釈／東京　吉川弘文館発兌」とあり（同様に刷印せる袋あり）。

244 古文孝経〔諺解〕〔林〕羅山口授　〔江戸前期〕刊（〔江戸〕　西村又右衛門）　大三冊

①古文孝経諺解上（中・下）　③孝経諺解。孔序　④古文孝経／孔氏伝（下冊は「孝経鈔／羅山子」）　⑤単無9行18字内外。白口　⑥古文孝経抄終　⑦（伝来）。巻末に「羅山子口授／治部卿法印春斎林子／印記二顆／樋口氏栄重」　⑧西村又右衛門開板　⑨狩林　⑩神宮文庫に高木正則献納にかかる寛文元年林春斎手跋を附せる江戸前期写本一冊あり。

又〔修〕　大三冊

①同前　⑧書肆名削去　⑨規玄椙東浜　⑩中冊末葉の版心墨釘なりしを「孝経鈔中終」と改む。椙は下冊欠。

245 孝経証〔高橋女護島〕撰　〔江戸後期〕刊（万寿堂）　大一冊

①　②孝経証／万寿堂蔵　③（自）序　④孝経証　⑤左右双有10行23字。白口　⑨狩。

246 孝経証　高〔橋〕女護島（閔慎）撰　〔江戸後期〕刊
（〔証学堂蔵板〕）　大一冊
①　③稼圃序。（自）序（送仮名）　④孝経証／女護島　高閔慎輯録　⑤左右双有10行19字。白口　⑧「証拠学著述録　懐河青信有誌」二丁　⑨慶　⑩231「孝経証話」と共に書目の墨釘・増補により印刷の先後判明す。
又　〔修〕（〔証学堂蔵板〕）　大一冊
①　③送仮名を削去　④同じく送仮名の一部を削去　⑧同前（「著述録」なきものあり）　⑨岡規椙浜林。
又　〔後印〕（証学堂蔵板）　大一冊
①　②扉―「富小路子真卿所賜之額字／証学堂／高閔慎謹縮霞峯万秋図」と書する額を二児の掲ぐる図（銀刷）　⑨石玄。

孝経講釈　二巻　熊沢〔蕃山〕（遊軒）講釈　大塩中斎参釈　明治十七年刊（東京　山中市兵衛）　中二冊
見返に「熊沢遊軒講釈／大塩中斎参釈」とあり。221「孝経小解」の本文に中斎の説を増補せしもの。
又　〔後印〕（東京　目黒十郎）　中一冊
又　題大塩中斎（後素）講　門人筆記　〔修〕（〔京〕聖華房）　半二冊
巻頭二行目「孝経」の下に「中斎大塩後素講述　門人筆記」と加刻。見返には「大塩後素先生」とあり。

孝経疏証　五巻付解題二巻・孝経攷異一巻・孝経定本一巻　鈴木順亭（柔嘉）撰　大正十二年刊（越後鈴木氏瑞香堂蔵版）　菊一冊（鉛印）
孝経刊誤口義　〔三宅尚斎〕講　（昭和十一年　内田周平校刊「孝経刊誤合纂」〈鉛印〉所収）
「講者筆者並ニ氏名ヲ逸ス」と題するが、下記の広島大蔵本の題書や本書の内容から三宅尚斎講義の筆録と推定してよい。底本は明かでない。
（広島大学）写一冊。書題簽に「尚斎先生／孝経刊誤口義完」。後半を欠き、内田本の一九丁ウの「世話ナシニ教ガ成就スルナリ」までを存し、以下欠。（*無窮会）明治五年写。末に「安福慎斎記之」「壬申九月十七日卒業有田」の奥書あり。三綱領口義その他と合綴一冊本収。
孝経刊誤師説　〔若林強斎講　浅見文次郎録〕（昭和十一年　内田周平校刊「孝経刊誤合纂」所収）
内田本には「講者筆者並ニ氏名ヲ逸ス」と題されているが、以下の写本により、標題の如く推定される。内田本は底本が明かならず、巻中往々かなりの脱落が存する。
（林）享和二年到津通麿写一冊。「到津／通麿」の蔵印。奥書に
右此師説一巻者同門前輩浅見氏之所聞之筆記也以其記写之者也　享保十六辛亥年十二月五日西山弥治右衛門光忠
孝経刊誤師説一巻蓋強斎先生之説而浅見文丈之所記也今其書蔵高宮小林氏之家予得之於寧斎（奥野）先生将写之適有采薪之憂不能終其功令弟正明代其役不日而成之但其間雖多転写之誤而一依

旧不改云丁未十月九日夜　栗〔川島〕斎書
享和壬戌年九月廿五日　通麿謹写
（斯）享和三年写一冊。光忠・栗斎の両奥書前本に同じ。次に「右孝経刊誤師説同門到津氏之所書写暫借之暇日写之者也享和三年癸亥十月十九日小野可言謹写」。
（林）昭和一一年林秀一影写（拠一柳氏蔵本）一冊。奥書に「孝経師説一篇究郷志学之徒師友無シテ講究ニ困ム者ノ為ニ書写シオク也他日一覧ノ勤メヲモ為ス者アラハ篤好カ死後天ニ在ルノ霊一大快ヲナスニ足ント期望スルノミ明和六己丑年五月十九日牧斎櫟原篤好書写」。外題「綱斎先生孝経刊誤講義」
（浜）文政二年写一冊。「緑竹堂蔵書記」蔵印。巻首「孝経刊誤講義／綱斎先生述」と題す。奥書に「右孝経講義浅見先生所述予得之於山県氏写而蔵之然而原本魚魯亥豕不少而不暇加訂正従原本間一二改正之云文政二年己卯十月　緑竹堂主人書」。浅見絅斎講とすれども、内容と前掲諸本の奥書とより見ても強斎講とすべきであろう。
（*小浜市立図書館）写一冊。「孝経刊誤講義」と題す。奥書に「右強斎先生講義借奚疑斎先生謹写之源庸　借内海氏謹写之　喜多川義実」。追記1参照。
（九州大学中国哲学研究室）写一冊。文章は前掲諸本と殆ど変りないが、たゞ句末がゾ式が多く、詞章に講義の口調の原形が残っている。巻末に「天明七丁未年五月二日」と記してあるのを胡粉で消してある。

孝経刊誤講義　稲葉黙斎講　篠原惟秀筆記　（昭和十一年　内田周平校刊「孝経刊誤合纂」所収）
底本不明。

II　今文

(1)　単経

247孝経　伝晋王羲之書　刊　大折一帖
①孝経王羲之書　④孝経　⑤無無6行11字　⑦玄宗皇帝・米元章・趙孟頫真蹟　⑨玄林　⑩白文。陰刻。
又　宝暦七年七月〔印〕（江戸　柳枝軒小川彦九郎等）
大一冊
⑧「筑陰　稽古林再摹／宝暦七年丁丑七月穀旦／東武　書肆／柳枝軒／春秋堂／松葉軒／発行（陰刻）」。次に「（広告書目）／江戸日本橋二丁目　小川彦九郎」　⑨玄。
又〔後印〕（江戸　小川彦九郎等）　大一冊
①孝経晋王羲之草書　⑧奥付「江府／日本橋南通三町目　小川彦九郎／同町　吉文字屋次郎兵衛／本町三町目通　万屋清兵衛」⑨狩　⑩「吉文字屋次郎兵衛」は春秋堂、「万屋清兵衛」は松葉軒。
又　明和七年秋〔印〕（江戸　五好堂小川庄七）　大一冊
①同前　⑧奥付「木記『五好堂』／明和七庚寅秋／東都　書舗／日本橋通二丁目　小川彦九郎／同丁　小川庄七」―玄。「（広告書目）／書房　日本橋南通二丁目　五好堂小川庄七」―椙　⑨玄

相。

又〔後印〕（江戸　柳枝軒小川彦九郎・京　同茨城多左衛門）　大一冊

①同前　⑧奥付「木記中央に『書坊柳枝軒寿梓』、右に『京六角通御幸町西街茨城多左衛門』、左に『江戸日本橋通弐町目小川彦九郎』」　⑨林。

又〔後印〕（京　尚書堂堺屋仁兵衛）　大一冊

①孝経王羲之書　⑧「尚書堂蔵板書目　唐刻和刻古法帖売買正舗／書肆尚書堂　京三条通柳馬場東入町　堺屋仁兵衛製」四丁を付す　⑨石規玄相東　⑩石に二本あるも、一本は廿三丁目迄にて以下切取らる。石一本と玄相は奥付なし。石一本の題簽は「孝経王羲之」、他の一本は「孝経晋王羲之草書」。

248〔孝経〕（呉文正公較定本）　田口正胤書　宝暦九年二月〔跋刊〕　大一冊

④内題なし　⑤単無4行11字　⑥右伝之十二章／宝暦九年己卯中春晦日　七十四歳／田口正胤（花押）書之　⑨狩　⑩白文。

249合刻四書　四巻（孝経）　宇〔佐美〕兼山（世璠）点　明和八年十一月刊（江戸　青山堂鴈金屋義助）　大〔四〕冊

①古訓合刻四書孝経一　②兼山宇子訓点／古学合刻四書孝経大学　学記中庸／青山堂桐梓　③明和八年辛卯十一月兼山宇世璠叙　④合刻四書辛之巻／孝経　上毛　宇世璠国読（跨行）　⑤左右双有9行16字。白口　⑧江戸書肆　小林新兵衛梓（以上第一冊）。第〔四〕冊「兼山先生宇子命梓書目／明和万年之八年辛卯十一月／東都書戸　小石川伝通院前　鴈金屋義助桐梓」　⑨林　⑩存「孝経」「中庸」二冊。中庸題簽「古訓合刻四書中庸四」。

又〔片〕山兼山（世璠）点〔修〕（江戸　青山堂鴈金屋義助）　大一冊

①合カ刻四書孝経大学　学記中庸（浜）　②「宇子」を「先生」と改む　③「宇」を「山」と改む　④「宇」を「山」と改む　⑧「孝経」末同前。「中庸」末「宇子命」の三字削去。広告書目中「古詩連珠」の下の「未刻」を「已刻」と改む　⑨岡浜林　⑩浜は見返なし。後印本か。

又　文政元年八月〔印〕（江戸〔青蘿館〕西村宗七・松本平助）　大一冊

⑧「孝経」末同前。「中庸」末書肆名一行削去。奥付「青蘿館蔵／文政元年戊寅仲秋／東都書肆／日本橋四日市　松本平助／本石町十軒店　西村宗七」　⑨宮城県立図書館。

又　天保七年五月〔印〕（江戸　玉岩堂和泉屋金右衛門）　大一冊

①古訓合刻四書　⑧「孝経」末「中庸」末同前。「玉岩堂蔵梓目録／東都　和泉屋金右衛門」七丁。奥付「天保七年五月／江都書林／須原屋茂兵衛／小林新兵衛／須原屋伊八／松本平助／西村宗七／和泉屋金右衛門」　⑨玄。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①同前　⑧「孝経」末「中庸」末同前。次に「嵩山房蔵板目録」　⑨玄東　⑩東は見返・奥付なし。

又〔明治〕印（東京　和泉屋金右衛門）　大一冊

①同前　⑧「孝経」末「中庸」末同前。奥付「京都　出雲寺文次郎／村上勘兵衛／大坂　河内屋喜兵衛／伊丹屋善兵衛／東京須原屋茂兵衛／／須原屋伊八／山城屋佐兵衛／須原屋新兵衛／和泉屋吉兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋勘右衛門／和泉屋金右衛門版」　⑨浜。

250孝経　平松〔楽斎〕（正慤）校　大野重民書　天保三年五月刊（津　平松氏）　特小折一帖

①　②六籍之根源百／王之模範／石川之褧敬書　④孝経　⑤単有6行13字　⑧天保三年壬辰端午／津藩　平松正慤校梓／美濃大野重民謹書　⑨規玄林　⑩白文。

251孝経　浅野陵点　天保四年冬刊（京　堺屋伊兵衛・朝倉儀助）　大一冊

①孝経正本　④孝経　⑤双有8行17字。小黒口　⑥孝経／平安浅野陵　考訂　⑧木記「天保四年癸巳玄冬上梓／京都書林／朝倉儀助／堺屋伊兵衛／発行」　⑨規玄浜。

252孝経　〔佐野山陰〕（藤原憲）点　天保五年春刊（京　河野伊兵衛・朝倉儀助）　大一冊

①孝経正文唐明皇序　③玄宗序　④孝経　⑤双有9行17字。白口。下象鼻に「宛委堂」　⑥孝経　阿波後学　藤原憲校　⑧奥付「天保甲午春新鐫／京都／朝倉儀助／河野伊兵衛」　⑨林。

又　天保五年三月〔以後印〕（京　堺屋伊兵衛信成）　大一冊

⑧木記「天保甲午春三月刊行／平安　堺屋伊兵衛信成」を八ウに加刻　⑨玄。

253孝経　〔萩〕原秋岩（鞏）書　天保六年春刊（〔江戸〕　朝倉佐平〈江戸　松本氏蔵板〉）　特小折一帖

①宋板孝経縮字本　②同上　④孝経　⑤単無6行12字　⑥尾題なく巻末に「秋岩原鞏縮臨」　⑧天保六年乙未春刊／江戸浅草松本氏蔵版／朝倉佐平刊　⑨東　⑩白文。欠筆あり。

254孝経　三国〔幽眠〕（直進）校　天保七年二月序刊（弍洗堂蔵板）　特小折一帖

①　③（見返の部分より序）天保七年龍集丙申春二月三国直準序　④孝経　⑤双（上下のみ・巻頭巻末のみ左又は右も双辺）有8行14字。白口　⑧朱印「弍洗／堂蔵」　⑨規玄東林　⑩断句。

255孝経　釈〔宗淵〕一桂校　弘化三年十二月跋刊（京　北野宮寺学堂蔵板）　大一冊（包背装）

①表紙中央に「孝経」とじかに刷る　③文宣王図。曾参図（図なきものあり）。元行冲序　④孝経　御註　⑤単有7行17字　⑥御註孝経　⑦弘化三年臘月桑門一桂跋　⑧裏表紙見返に「北野宮寺／学堂蔵板」（玄一本にのみあり）　⑨石岡狩玄斯楫東浜林　⑩本文字様270「孝経御註」に似る。跋に「菅原前大納言観光君ノ御本ニ就テ本文ヲ抄出シテ相伝ル所ノ音訓ヲ加フ」とあり。

256孝経　巻菱湖（大任）書　〔江戸後期〕刊（江戸　正学軒蔵板）　大一冊

①孝経菱湖先生楷書　②菱湖先生書／孝経／東都　正学軒蔵　④孝経　⑤単有5行10字　⑥尾題なく巻末に「巻大任書」　⑨林

⑩白文。陰刻。菱湖書石刻孝経本。明治十一年十一月刊（三重　吉川清三郎）本あり。単無4行12字。白文。陰刻。大折一帖。「羽港有馬鞭識　菱潭仙客巻僊書」と題する跋文・奥付は石印。

又〔修〕（江戸〔安政堂〕椀屋伊三郎）大一冊

①真書孝経菱翁書　②菱湖先生書／孝経真書／東都　安政堂梓　⑧「菱湖先生石摺綴本目録　本石町二丁目十軒店角　椀屋喜兵衛／椀屋伊三郎」。次に「菱湖先生用筆目録　越後柏崎　宝雅堂製／東都書房／大伝馬町三丁目　高木五郎兵衛／本石町二丁目十軒店角　椀屋伊三郎」　⑨岡東　⑩板面を切り取る。為に表丁の五行目・裏丁の一行目狭小。

又〔後印〕（江戸　椀屋喜兵衛）　大一冊

①同前　②同前　⑧広告目録同前。但し書肆名「本石町二丁目十軒店角　椀屋喜兵衛」のみ。又用筆目録中の書肆名を「東都書房／本石町二丁目十軒店角　椀屋喜兵衛／同所　椀屋伊三郎」と改む　⑨岡椙浜。

又〔明治〕印（東京　万笈閣椀屋喜兵衛）大一冊

①同前　②同前　⑧「菱湖先生石摺綴本目録　東京書肆　万笈閣蔵」。次に「（広告書目）／東京書林　本石町二丁目／椀屋伊兵衛／椀屋伊三郎／椀屋喜兵衛」　⑨岡玄林　⑩林は後印本で「菱湖先生石摺綴本定価目録　東京書林　万笈閣上梓」。奥付「（広告書目）／東京書林　本石町二丁目／椀屋伊兵衛／椀屋伊三郎／椀屋喜兵衛／三書房／発行」とあり。

257〔縮刻唐石経孝経〕〔松崎慊堂〕校　〔天保〕刊（〔江戸　松崎氏羽沢石経山房〕）　大一冊

③玄宗序　④内題なし　⑤単無8行19字。白口　⑥御注孝経一巻　⑨浜　⑩断句。圏点あり。浜は慊堂旧蔵本にて或いは校正刷りか。

又〔修〕（〔江戸　松崎氏羽沢石経山房〕）　大一冊

①縮刻唐石経孝経　⑨狩規慶玄椙東　⑩句点削去。圏点と紛らわしき為、除去せしものか。

258孝経（孝経彙註本）〔大塩〕中斎点〔江戸後期〕刊　大一冊

①　④孝経／中斎先生定本　門人同校（跨行）　⑤単有9行19字。白口　⑨林　⑩上段に標注あり。「増補孝経彙註」の経文のみを抽刻せしもの。

259孝経（群書治要鄭注本）〔江戸後期〕刊（〔水戸　彰考館〕）大一冊

①　④孝経（内題の下に底本の瓢型印記「彰考館」をそのまま刻す）　⑤双有7行12字。白口　⑦跋（「右群書治要本孝経……」とあり）　⑨岡狩玄東浜林。

260孝経〔江戸後期〕刊（有成館蔵板）大一冊

①　②孝経正文。朱印「有成館」　④孝経　⑤単有7行13字。白口　⑨規。

261孝経〔江戸後期〕刊　大一冊

①　④孝経　⑤双有7行12字。白口　⑨宮城県立図書館。

(2) 鄭注

262 孝経鄭註　偽題漢鄭玄注　良〔野〕〔華陰〕（芸之）輯　宝暦三年一月刊（京　華文軒中西卯兵衛・向栄堂山田三郎兵衛）　大一冊

①孝経古註　②漢鄭玄註／孝経古註／皇都書舗（華文軒 向栄堂）梓　③宝暦癸酉三月良芸之伯耕序　④孝経鄭註／（漢 日本　北海 讃岐　鄭玄 良芸之）註／門人（河内 平安　邨兼般 谷文卿）校　⑤単有6行12字小双。白口　⑧「宝暦三年癸酉孟春吉旦／平安書林（中西卯兵衛 山田三郎兵衛）梓」。次に「向栄堂刊行目　山田三郎兵衛」又は「向栄堂蔵板目録」。或いは「華文軒蔵板目録／皇都書肆　建仁寺町四条下ル二町目　加賀屋卯兵衛彫刻」を付すものあり　⑨石規玄椙浜林　⑩断句。上段に標注。東京教育大学の後印本は、見返なく、刊記の「平安書林」迄を残し、以下を削去す。

又〔後印〕（京　堺屋嘉七等）　大一冊

①同前　②なし　⑧年記のみを残し、「平安書林」も削去。奥付「皇都書肆／堺屋嘉七／銭屋長兵衛／桝屋清治郎／池田屋仲治郎／伊勢屋定七／菊屋忠兵衛／大和屋嘉右衛門／蓍屋善助／橘屋儀兵衛／秋田屋藤兵衛／吉田長兵衛」　⑨東。

又〔修〕（京　堺屋嘉七）　大一冊

①「孝経古註」又は「今文孝経鄭註」　②なし　⑧宝暦三年癸酉孟春吉旦／（欄外に木記）「皇都書肆　堺屋嘉七発行」　⑨石狩玄林　⑩卅三―卅五丁目全葉修。刊記は書肆名を欄外に加う。林は序なし。

又　文政五年春〔印〕（〔名古屋〕　永楽屋東四郎等）　大一冊

①孝経古註　②なし　③なし　⑧同前刊記の後に142「文政五年春印本」と同一の奥付あり　⑨岡。

263 孝経〔鄭註〕（群書治要本）　漢鄭〔玄〕注　〔河村乾堂〕（藤益根）輯校　寛政三年冬序刊　大一冊

①孝経　③寛政三年辛亥冬至藤益根序。凡例。論読式　④孝経鄭註　⑤単有8行17字小双。白口　⑨石狩規玄椙浜林　⑩断句。声点あり。林に刊本の影写本あり。その奥付に「平田大人著書弘所／尾張書肆　名古屋本町九丁目　永楽屋和助」とあり。後印本にかかる奥付を有するものあるか。

264 孝経鄭註（群書治要本）　岡田新川（挺之）輯点　寛政六年一月刊（名古屋　永楽屋片野東四郎）　大一冊

①　②新川先生校／孝経鄭註／張藩書肆　永楽堂梓　④孝経鄭註　⑤左右双有9行18字小双。白口　⑦寛政癸丑之秋岡田挺之跋　⑧「書林　片野東四郎梓」。奥付「（広告書目）／寛政六年寅正月／書林／大坂心斎橋　河内屋八兵衛／江戸通油町　蔦屋重三郎／尾張名古屋本町六丁目　永楽屋東四郎」　⑨椙。

又〔後印〕（名古屋　永楽堂片野東四郎）　大一冊

①　②同前（なきものあり）　③癸丑之秋岡田挺之序　⑧刊記同前。次に「東壁堂蔵版目録」又は「東壁堂製本目録」を付すものあり　⑨岡狩規東浜。

又　文政五年春〔印〕（〔名古屋〕　永楽屋片野東四郎

等）　大一冊

②なし　⑧刊記同前。次に「東壁堂蔵版目録」。奥付は「262文政五年春印本」と同一　⑨林。

又〔修〕（名古屋　永楽屋片野東四郎等）　大一冊

②なし　③岡田挺之序。良芸之序（262の序を流用）　⑧刊記同前。奥付「発行書林（横書）／江戸　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／大阪　河内屋喜兵衛／河内屋和助／京都　風月庄左衛門／丸屋善兵衛／尾州名古屋　永楽屋東四郎」　⑨玄。

又〔明治〕印（名古屋　永楽屋片野東四郎等）　大一冊

②なし　③挺之序。芸之序（順逆もあり）　⑧刊記同前。次に「東壁堂製本略目録記」五丁。奥付「発行／書肆／京都　菱屋孫兵衛／吉野屋仁兵衛／蓍屋宗八／田中屋治兵衛／東京　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋金右衛門／大坂　河内屋喜兵衛／河内屋和助／河内屋茂兵衛／秋田屋太右衛門／尾州名古屋　永楽屋東四郎」　⑨規玄林。

又〔後印〕（大坂　嵩山堂青木恒三郎）　大一冊

②漢鄭康成解釈／鄭註孝経／書肆　嵩山堂蔵版　③挺之序。芸之序（順逆もあり）　⑧刊記削去。奥付「和漢洋書籍発兌処／御用書肆／発行印刷者　大阪市　青木恒三郎／製本発売所　東京市　青木嵩山堂／仝　大阪市　青木嵩山堂」　⑨石林　⑩林に上記奥付に「売捌所　勢州四日市　嵩山堂支店」を加えるものあり。更に後印か。

265〔補訂鄭註〕孝経　窪木〔竹窓〕（清淵）輯補　文化元年十二月刊（下総　窪木氏息耕堂蔵板）　大一冊

①孝経　②唐魏文貞公原本／補訂鄭註孝経／文化紀元甲子新鐫　息耕堂蔵版　③文化紀元甲子七月伊能忠敬序。寛政丙寅仲夏日窪木清淵仲黙序例。孝経序（序逸）　④孝経／鄭氏（跨行）／唐魏文貞公原本／日本下総窪木清淵　補訂　⑤単有9行18字小双。白口。下象鼻に「息耕堂蔵版」　⑥補訂鄭註孝経終　男　俊克明校　⑦享和二年壬戌春正月窪木清淵跋　⑧「文化元年甲子冬十二月刻成版蔵于家不許售市／下総　窪木氏蔵」。方形朱印「久保木／氏／家蔵記」を捺す　⑨狩規楫　⑩断句。

又〔修〕（下総　窪木氏息耕堂蔵板）　大一冊

①同前　⑨石玄林　⑩一丁目修（林は原刻）。跋文中の清淵題署の次に印二顆を刻す。

又〔逓修〕（下総　窪木氏息耕堂蔵板）　大一冊

①補訂鄭註孝経　⑨楫浜　⑩跋文二丁目修。跋文末は「焉享和二年……」とありしを、「焉／享和二年……」と清淵の題署を別行に改む。二顆の印は刻さず。

又　文化九年八月〔印〕（江戸　西宮弥兵衛等）　大一冊

①同前　⑧刊記同前。奥付「文化九年壬申穐八月発兌／書肆／京　植村藤右衛門／名古屋　片野東四郎／大坂　秋田屋太右衛門／江戸　西宮弥兵衛」　⑨狩規。

同　昭和六年刊（千葉　房総文庫刊行会）　菊一冊（影265逓修本・「房総文庫」三所収）

又　昭和六年跋刊（〔東京〕松雲堂）　半一冊

房総文庫所収本の抽印単行。

266孝経鄭註・孝経〔鄭氏解〕・孝経鄭註補証　岡田〔新川〕（挺之）輯・（解）清臧鏞撰・（補）清洪頤煊撰　文化十二年刊（官板）　中一冊（覆清知不足斎叢書本）

①「孝経鄭註三種翻雕知不足斎本」。「官板」と角書するものあり　③癸丑之秋岡田挺之序　④孝経鄭註　⑤左右双有9行18字小双。白口　⑦寛政癸丑之秋岡田挺之跋。嘉慶辛酉八月朔日鮑廷博跋　⑧文化十二年翻彫清国鮑氏知不足斎叢書本（解）　③嘉慶辛酉季冬阮元題辞　④孝経鄭氏解　⑥孝経鄭氏解一巻　武進臧鏞堂述／同懐弟礼堂学　⑧文化十二年刊（補）　④孝経鄭註補証　臨海洪頤煊　⑧文化十二年刊　⑨岡狩規玄東浜林　⑩白文。「解」・「補証」の順逆なるものあり（後印本についても同じ）。売捌所の奥付を付すものあり。「日本橋通二丁目／山城屋佐兵衛」―規林。「東壁堂蔵版略目録」十一丁。次に「『大日本国郡全図』等の広告／尾州名古屋　永楽屋東四郎／江戸　同出店」―玄東。

又〔明治〕印　中一冊（「昌平叢書」所収）

①「官板孝経鄭註三種翻雕知不足斎本」。右下に「昌平叢書」　⑨石慶斯東林。

(3)　御　注

A　開元始注本系

267孝経　唐玄宗注　〔佐野山陰〕（藤原憲）校　寛政十二年五月序刊（京　堺屋伊兵衛信成・河南儀兵衛共利）　大一冊

①孝経御註　③寛政十二年庚申五月望藤原憲序。元行冲序。玄宗序　④孝経　御註　⑤双有9行17字小双。白口。下象鼻に「宛委堂」　⑥孝経御註／阿波後学　藤原憲校　⑦点譜　⑧奥付「寛政庚申閏四月／平安／河南儀兵衛共利／堺屋伊兵衛信成／刊行」　⑨石岡狩規慶玄椙東浜林　⑩岡は同上奥付に「書肆（横書）／京都千本通／一条下町／河野伊兵衛／製本之記」と刻する朱印を捺す。玄は見返に「京師書肆　尚書堂主人謹誌」と記す広告書目あり。但し奥付同上。

268孝経　三条西公条点　寛政十二年五月跋刊（〔江戸屋代輪池〕〈源弘賢〉）　大一冊（享禄四年三条西実隆手写本の模刻）

①「御注孝経」又は「開元御注孝経」　③元行冲序　④孝経御注　⑤単有6行15字小双。白口　⑥御注孝経　⑦文明十八姑洗下浣日桑門祥空識語。享禄辛卯後五月下澣慈芻尭空識語。天文第三六月十六日公条識語（以上元奥書）。寛政十二年五月九日源弘賢跋　⑨石岡狩規玄斯椙東浜林。

269同　明治二十四年三月跋刊（三条公美）　特大一冊（覆268・朱墨套印）

①孝経　③題字「孝経（『此二字係先考遺墨／今鉤摹以置巻首／辛卯三月公美敬識』）」。元行冲序　⑦弘賢跋迄同前。明治甲申七月三条実美跋。明治廿四年三月十八日公美参考。「父母生績章第十一　三十字（明治十七年九月藤原実美識語。辛卯三月公

美識語あり)」を付す　⑨石規東浜林　⑩朱にてヲコト点を付す。

又〔修〕(三条公美)　特大一冊

①　⑨岡規慶玄斯椙林　⑩九ウ一行目「行」を「行」と改む。

270 孝経御註　菅原為徳校　文化五年一月刊(京　堺屋伊兵衛信成〈菅家蔵板〉)　大一冊

①御註孝経　②狩のみ「五条菅公定本/御註孝経/平安　書肆河野信成発行」　③元行冲序。玄宗序　④孝経御註/参議従二位行右大辨兼(末画を欠く)長門権守菅原朝臣為徳校　⑤双有9行17字小双。白口　⑦文化元年甲子三月菅原為徳後序　⑧奥付「木記『菅家蔵版/門人増田春耕源秋宣謹書』/文化五年戊辰春正月/平安　堺屋伊兵衛信成発行/剞劂氏荻田桂蔵」　⑨石岡狩規玄東浜林　⑩断句。奥付に267「孝経」の備考に述べし朱印を捺すものあり—石林。「為徳後序」を「玄宗序」の次に綴ずるもの後印。

B　天宝重注本系

271 〔八分〕孝経　宝永三年九月刊(中村氏詩林堂)　大三冊(覆明崇禎迎紫斎刊本)

①唐帝御筆孝経上(中・下)　③天宝四載九月一日李斉古上表。玄宗序　④孝経　⑤単無2行5字小双。白口　版心下部に「○迎紫珍蔵」　⑥孝経終　⑦崇禎甲申穐重陽日郭元虬跋　⑧木記「宝永三丙戌年九月吉祥日　書林　中村氏詩林堂版」　⑨岡狩規玄林　⑩白文。

又〔松下〕烏石閲　寛延元年八月〔修〕(江戸　西村源六・京　中野宗左衛門)　大三冊

①八分孝経上(中・下)　②唐玄宗宸翰/八分孝経/烏石先生閲　③表。玄宗序。題辞　⑥削去　⑧奥付「寛延改元戊辰仲秋梓行/平安書舗　中野宗左衛門/東都書舗　西村源六」　⑨規東林　⑩林は下冊の四十九丁以下欠。

又〔後印〕(京　玉樹堂唐本屋吉左衛門)　大三冊

①同前。又は「八分孝経上(中・下)」　②唐玄宗八分宸翰/御註孝経/玉樹堂蔵　⑧同前奥付末行に「京西堀川仏光寺下ル町唐本屋吉左衛門」と加刻　⑨石玄斯椙浜　⑩石玄は奥付の前に「玉樹堂蔵板目録」一丁を付す。

272 〔御注〕孝経　文政九年十一月跋刊(江戸　狩谷氏求古楼)　大一冊(覆北宋天聖明道間刊本)

①御注孝経　②大唐開元天/宝聖文神武/皇帝注孝経　③玄宗序　④内題なし　⑤左右双有15行24字内外小双。白口　⑥御注孝経一巻　⑦孝経音略。文政九年十一月長至日狩谷望之校譌　⑧木記「湯島狩谷氏/求古楼重雕」　⑨規東　⑩白文。

又〔修〕(江戸　狩谷氏求古楼)　大一冊

①同前　⑦「校譌」中の通字の欠筆個所に修あり。七行目「通字欠筆不知何謂……」を「通章献明粛皇太后/家諱……」と改む　⑨岡規玄斯椙東浜林。

又〔後印〕(江戸　万笈堂英大助)　大一冊

⑧奥付「東都書肆/本石町十軒店　万笈堂英大助」　⑨玄　⑩

玄に奥付「発行／書林／大坂　秋田屋太右衛門／河内屋喜兵衛／河内屋茂兵衛／河内屋藤兵衛／江戸　岡田屋嘉七／小林新兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋茂兵衛／須原屋伊八／製本所　通本石町十軒店角　英大助板／英文蔵」を付すものあり。

又〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

⑧「書林嵩山房蔵版目録（東京とあり）」。又は「（広告書目）／嘉永四年辛亥十一月再版／東京（入木）書肆　嵩山房　小林新兵衛梓」とある頻出奥付を付す　⑨石狩規慶玄椙東浜林。

273孝経〔江戸後期〕刊（〔仙台〕養賢堂蔵板）　大一冊

①　②新刻玄宗註／孝経／養賢堂蔵梓　④孝経／唐　玄宗　註　⑤双有7行14字小双。白口　⑨狩規林　⑩断句。

(4)　その他

274孝経本義　承応二年一月刊（〔京〕　中野市右衛門）

大一冊

①孝経註解　③玄宗序　④孝経本義　⑤左右双有7行15字小双。白口　⑦跋　⑧木記「承応二癸巳年孟春吉旦／中野氏市右衛門刊行」　⑨狩規玄林　⑩唐本の覆刻ならむ。

又〔後印〕（伊吹吉右衛門）　大一冊

⑧木記の「中野氏市」を削り「伊吹吉」と入木　⑨東京教育大学。

275呉文正公較定今文孝経　元呉〔澄〕撰　明江元祚校

寛文八年八月刊　大一冊（覆明）

①　③朱子刊誤原式。呉文正公較定今文孝経考　④呉文正公較定今文孝経／明仁和江元祚訂　⑤単無10行20字小双。粗黒口　⑦呉文正公刊誤。大徳癸卯十月甲寅朔張恒跋　⑧岩寛文八戊申祀八月十五日　⑨規玄椙。

又〔修〕　大一冊

①同前。又は「呉文正較定孝経」　③「朱子刊誤原式」を削り「呉文正公較定今文孝経考」と改め、次の同題書を削去す　⑨椙東林。

276孝経集伝　四巻　明黄道周撰　寛文九年二月刊（〔京〕唐本屋宇兵衛）　大二冊（覆明）

③臣道周序。目録　④孝経集伝巻之一（―四）　⑤単無9行18字小双。白口　⑦崇禎十六年八月朔門人中貢張天維等較刊。癸未十月朔日胡夢鏞等跋　⑧木記「寛文己酉歳仲冬月／唐本屋宇兵衛梓行」　⑨狩。

277孝経音義・論語音義　唐陸徳明撰　宝暦三年七月刊（〔京〕風月堂荘左衛門）　大一冊

①孝経論語音義　④孝経音義／唐国子博士兼太子中允贈斉州刺史呉県開国男陸徳明撰　⑤双有9行20字小双。白口。本文首丁・終丁の下象鼻に「風月堂蔵」　⑦沢田重淵刊語　⑧宝暦三癸酉歳秋七月　風月堂荘左衛門梓　⑨狩玄　⑩断句。

又〔後印〕（大坂　象牙屋治郎兵衛等）　大一冊

⑧刊記同前。奥付「発行／書房／江戸　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／大阪　敦賀屋九兵衛／敦賀屋彦七／象牙屋治郎兵衛」　⑨斯　⑩この奥付頻出。

278 韻字孝経解　題清廖文英訂　鄧亦文校　大江〔玄圃〕（資衡）点　安永十年一月跋刊（京　循古堂近江屋治郎吉）　半一冊

①　②韻字孝経集／解善本／石渠閣梓行　③玄宗序　④韻字孝経解／連陽廖文英百子訂　古岡鄧亦文聰哲校正　⑤双有8行20字小双。白口。版心下部に「石林堂」とあり　⑦安永辛丑春正月大江資衡跋　⑧木記「皇都書鋪循古堂近江屋治郎吉寿梓」　⑨玄椙浜林。

279 孝経註疏　九巻　〔唐玄宗〕注　宋邢昺疏　〔元禄〕刊　大三冊（覆明万暦刊本）

①「孝経正義一（一三）」。又は「孝経註疏正義一（一三）」　③邢昺序。郷貢傳序。玄宗序。邢昺正義　④孝経註疏巻第一（一九）　宋邢昺校　⑤左右双無9行21字小双。白口　⑨石玄浜林　⑩序一丁目版心上象鼻に「万暦十四年刊」とあり。玄浜と林の一本は後印で題簽は「十三経註疏孝経序一二（三四五）（六七八九終）」。元禄五年刊の書籍目録に初見。

又　〔後印〕（京　唐本屋吉左衛門）　大三冊

①前記後印本に同じ　⑧巻九・六ウに「西堀川仏光寺下ル町唐本屋吉左衛門発行」　⑨狩規椙　⑩椙は同上刊記を裏表紙見返に刷る。此方早印。

280 同　九巻　寛政二年六月刊（京　玉樹堂唐本屋吉左衛門）　大三冊（覆279）

①孝経註疏上（中・下）　②寛政再刻／孝経註疏／皇都書肆玉樹堂　③「寛政二年庚戌夏六月伊藤善韶序」を巻首に加う　⑧奥付「寛政二年庚戌六月再版／京都書林　西堀川通仏光寺下ル町　唐本屋吉左衛門」　⑨規玄椙浜林　⑩「孝経註疏序」の一丁目最終行「成都府学主郷貢傳」（279番本）の「主」を「生」と刻す。

又　〔後印〕（大坂　象牙屋治郎兵衛等）　大三冊

①同前　③善韶序なし　⑧奥付「277後印本」に同じ　⑨斯椙。

281 孝経註疏　九巻　享和元年二月刊（京　吉村吉左衛門〈中山侯蔵板〉）　半三冊

①孝経註疏一（一三）　③邢昺序。郷貢傳序。玄宗序。邢昺正義　④孝経註疏巻第一（一九）／宋邢昺較　⑤左右双有9行21字小双。白口　⑧朱印「中山／侯蔵」／享和元年辛酉春二月京都　吉村吉左衛門　⑨玄東林　⑩断句。声点あり。

又　〔後印〕（大坂　米田清右衛門等）　半三冊

①同前　⑧朱印の後に「享和元年辛酉春二月／京師／風月荘左衛門／田中市兵衛／今村八兵衛／吉村吉左衛門／植村藤右衛門／出雲寺文次郎／勝村治右衛門／中江久四郎／五十川清太郎／吉原荘助／東都／北圃茂兵衛／小林新兵衛／北沢伊八／前川六左衛門／浪華／柳原喜兵衛／大野木市兵衛／米田清右衛門」　⑨規東。

282 孝経会通　明沈淮撰　朱鴻校　文化四年八月刊（江戸須原屋孫七・京　林権兵衛）　大一冊

①　③文化丁卯秋八月朔日朝川鼎序。嘉靖丁未沈淮序。凡例。目録　④孝経会通／明　後　学沈　淮述／朱　鴻校／費浩然閲　⑤単有9行18字。白口単白魚尾　⑧奥付「孝経類梓行目録／文

化丁卯／仲秋開鐫／京都　寺町二条下ル　林権兵衛／江戸　本町二丁目　須原屋孫七」　⑨玄　⑩単経。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①　⑧奥付「（広告書目）／江戸　書肆嵩山房　小林新兵衛梓行」　⑨狩玄浜。

又　題〔朝川〕善庵校閲　〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①　②善庵先生校閲／孝経会通／江戸書林　綺文堂梓行　⑧「書林嵩山房蔵版目録」に「東京」とあり　⑨東林。

(5)　日本人著作

283 玄宗御註孝経補義　福井〔敬斎〕（軏）撰　天明八年六月跋刊（篠山　振徳堂蔵板）　大一冊

①玄宗御註孝経補義　②新鐫（横書）／玄宗御註／孝経補義　③〔藤原忠裕〕序（写刻体・四丁）。玄宗序　④玄宗御註孝経補義　⑤単有8行17字小双。白口。下象鼻に「振徳堂蔵版」　⑥玄宗御註孝経補義終／天明八季歳次戊申夏六月吉旦／臣米照乗拝手稽首敬書　⑦（天明八年）五月二十又二日福井軏後序　⑧朱印「篠山振／徳堂／蔵板」（陰刻）　⑨狩玄　⑩藩主の序は切貼りにてかなりの字句を訂正。

又〔修〕（篠山　振徳堂蔵板）　大一冊

①同前　②同前　③〔忠裕〕序（切貼り訂正の通りに直る）。玄宗序　⑧朱又は墨印同前　⑨岡規玄椙林　⑩本文一オ四行目「間居」を「閒居」と改めるなど修あり。

又〔逓修〕（篠山　振徳堂蔵板）　大一冊

①同前　②同前　③玄宗序　⑥「天明八季……」以下二行削去　⑧墨印同前　⑨石岡玄斯椙林　⑩石玄林は刊記の前に「原本有／侯之序要之但係于諭其臣民之言／非欲示之四方故茲不載」とあり、後印ならむ。岡は更に後印と思われる半紙本。見返は同文なれど半紙本に合せ小ぶりになる。椙の扉同上、又〔忠裕〕序あり。

又　寛政五年四月〔印〕（京　林伊兵衛等）　大一冊

②なし　③玄宗序　⑧奥付「寛政五年癸丑四月／製本発行所／皇都書林／村上勘兵衛／中川藤四郎／吉邨吉左衛門／植村藤右衛門／長邨半兵衛／林伊兵衛」　⑨規・東京教育大学。

又〔逓修〕　大一冊

①玄宗御註孝経補義　②「新鐫（横書）／玄宗御註／孝経補義」。規一本は前出半紙本のものを扉とす　③〔藤原忠裕〕序（非写刻体・三丁）。玄宗序　⑧なし　⑨規玄東。

又〔明治〕印（東京　宮嶋儀三郎）　半一冊

①同前　②前出半紙本と同じ　③同前　⑧奥付「製本所　柚野伝一郎　浅草区聖天町四拾九番地／発兌人　宮嶋儀三郎　日本橋区檜物町九番地」　⑨東。

284 孝経御註訳義　平柿園（景敬）撰　寛政十年刊（甲斐渡辺角右衛門蔵板）　大一冊

①　③寛政十年戊午三月平景敬序。玄宗序　④孝経御註訳義／唐玄宗皇帝註　⑤単有7行12字小双。白口。下象鼻に「柿園蔵

⑦〔渡辺角右衛門〕刊語　⑧寛政十年戊午／甲斐鶴郡渡辺角右衛門蔵板　⑨岡狩玄東林。

又　寛政十年秋〔以後印〕（京　汲古堂河南儀兵衛）

大一冊

①　⑧奥付「寛政十年戊午秋発行／皇都書林　三条通寺町西江入町　河南儀兵衛」　⑨狩玄椙東　⑩椙は奥付なし。東は奥付の前に「書林汲古堂　京三条通寺町西江入ル町　河南儀兵衛」の広告書目一丁あり。

285〔増攷〕孝経〔鄭氏解補証〕清洪頤煊補証　東条〔一堂〕（弘）増攷　文化十一年刊（蜾蠃窟蔵板）　大一冊

①増攷孝経鄭氏解補証　②文化甲戌鐫（東は「文化甲戌発兌」）〈横書〉／清洪頤煊補証　日本東條弘増攷／孝経鄭氏解／蜾蠃窟　③文化十一年甲戌秋九月亀田興序。東条弘提要（四丁）　④孝経／鄭氏解（跨行）／清　臨海洪頤煊　補証／日本上総東条弘　増攷　⑤単有9行19字小双。版心下部に陰刻にて「蜾蠃窟」　⑦文化甲戌重九宮原明雄跋　⑨狩規慶椙東林　⑩卅一丁。

又〔修〕（蜾蠃窟蔵板）　大一冊

①同前　②「洪頤煊」と誤刻　③亀田興序。東条弘提要（五丁・前とは別板）　⑨狩玄浜林　⑩卅丁。修全葉に亘る。

又〔遞修〕（蜾蠃窟蔵板）　大一冊

①同前　②初め「煊」、後「煊」と改む　③東条弘提要五丁のみ（三ウに修あり）　⑨玄椙浜林　⑩卅丁。十二ウ・十六ウ・十九ウ・廿四ウ等修。例えば十二ウ五行目「当視民証補注見釈文毛詩節南山疏（訓点送仮名省略）」を「証補注見釈文毛詩節南山疏（同上）」と改む。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

①同前　②「煊」とあり　③同前　⑧「嵩山房蔵板目録」を付す　⑨石岡規玄椙東　⑩石椙東の各一本と規は更に後印と見らるる、見返の「蜾蠃窟」を「付録両造簡孚」と改めしもの。その場合奥付は「両造簡孚」に付けられたる如し。石・大東急記念文庫・早稲田大学に揃いのものあり。両書がわかれた場合、「両造簡孚」については、付印本か単行の印本か判断し難いものあり。313「孝経両造簡孚」参照。

286孝経〔発揮〕津阪〔東陽〕（孝綽）撰　文政九年刊（〔津〕有造館蔵板）　大一冊

①孝経発揮　②文政丙戌新刊／孝経発揮／有造館蔵版　③文政六年歳次癸未陽月初吉津阪孝綽序。同人序説　④孝経　⑤左右双有10行20字小双。白口　⑥孝経全　⑨岡狩玄林　⑩修本共、藩校用と売捌用と二種出せしものか。

又〔後印〕（津　山形屋伝右衛門等）　大一冊

②なし　⑥孝経全（但し「全」の字修のものあり—浜林）　⑧奥付「文政八年乙酉十月初吉／欽准発行／書林／京都　鉛屋安兵衛／江戸　西宮弥兵衛／大阪　柏原屋清右衛門／名古屋　永楽屋東四郎／津　山形屋伝右衛門」（浜はなし）　⑨狩浜林。

又〔後印〕（大坂　河内屋茂兵衛等）　大一冊

②なし　⑧奥付「書林（横書）／京都　河内屋藤四郎／江戸　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋新兵衛／山城屋政吉／英大助／英文蔵／丁子屋平兵衛／岡田屋嘉七／大阪　河内屋藤兵

衛／河内屋茂兵衛」　⑨林。

又〔修〕（〔津〕有造館蔵板）　大一冊

②文政丙戌新刊／孝経発揮／有造館蔵版　③序九ウに標注を加う　⑧なし　⑨石岡玄斯椙東浜　⑩序文・本文中の「耳・母」の二字に修あり。

又〔後印〕（津　山形屋伝右衛門等）　大一冊

②なし　⑧前出後印本（津　山形屋伝右衛門等）の奥付と同じ　⑨玄。

又〔明治〕印（津　山形屋伝右衛門等〈三重県蔵板〉）

大一冊

②「有造館蔵版」を「三重県蔵版」と改む　⑧同前　⑨大東急記念文庫。

又〔後印〕（津　木村光綱〈三重県蔵板〉）　大一冊

②同前　⑧奥付「製本所　伊勢国津　木村光綱」、又は「製本／発売所　伊勢国津　木村光綱」　⑨石慶玄斯東林。

又　明治三十年十月〔印〕（津　関西図書株式会社）

大一冊

②「三重県蔵版」を「津藩有造館蔵」と改む　⑧裏表紙見返に朱印「明治三十年十月十五日印刷／明治三十年十月二十日発行／印刷兼発行者関西図書株式会社／三重県津市西町五十九番屋敷／右代表者専務取締役後藤倍吉」。又は同じく墨印「明治三十年（ママ）月（ママ）日印刷／同年（ママ）月（ママ）日発行／発行兼印刷者関西図書株式会社／三重県津市西町五拾九番屋敷」　⑨林。

同　明治十六年八月刊（新潟　梅楓交枝軒室直三郎）

大一冊（銅版翻286後修本）

287孝経〔集伝〕　山本〔楽所〕（惟孝）撰　天保四年六月刊（若山　帯屋伊兵衛等〈南紀　学習館蔵板〉）　大一冊

①孝経集伝　③文政庚寅春三月山本惟孝序　④孝経　紀伊　山本惟孝集伝　⑤左右双有9行19字小双。白口　⑧朱印「学習／館」の下に「南紀学習館蔵版之記」。次に「天保四年癸巳六月発兌／発行書林／江戸　須原屋茂兵衛／同新兵衛／大阪　敦賀屋九兵衛／秋田屋太右衛門／紀州若山　綛田屋平右衛門／帯屋伊兵衛」　⑨石岡狩規玄椙東浜林。

288孝経義　二巻　金岳陽（順）撰　天保五年刊　半二冊

①孝経義上（下）　②扉「天保甲午新鐫／孝経義」　③天保甲午孟春金秀信序。凡例　④孝経義巻一（二）／明徳館祭酒岳陽金順天祐氏著　孫秀信高朗校　⑤左右双有10行21字内外国字解小双。白口　⑨岡狩規慶玄椙東浜林　⑩東は下巻欠。

289増補孝経彙註　三巻　明江元祚輯　呉太冲訂　大塩〔中斎〕（源後素）増補　天保六年四月刊（大坂　河内屋吉兵衛等〈精義堂蔵板〉）　大三冊

①三子標釈増補孝経彙註上（中・下）　②増補孝経彙註／精義堂蔵板　③天保甲午冬十一月南至日大塩後素叙。引用姓氏　④増補孝経彙註巻之上（中・下）／明仁和江元祚刪輯／銭塘呉太冲参訂／大日本浪華源後素増補　⑤単有9行19字。白口　⑦聚序説。孝経管見。管見後説。朱鴻跋。大塩後素跋。参訂姓氏　⑧奥付「天保六乙未歳四月／発行書林／大坂　京屋浅次郎／河内屋喜

兵衛／河内屋茂兵衛／河内屋吉兵衛」　⑨狩規玄東林。

又〔後印〕（江戸　小林新兵衛等）　大三冊

⑧奥付「天保六乙未歳四月／発行書林／大坂　京屋浅次郎／河内屋喜兵衛／河内屋茂兵衛／河内屋吉兵衛／江戸　小林新兵衛」　⑨慶椙林。

又　大正四年五月跋修（京　聖華房）　特大三冊（朱墨套印）

①同前　②同前（同様に刷印せる袋あり）　③後素叙。聚序説。孝経管見。管見後説。朱鴻跋。後素跋。参訂姓氏。引用姓氏　⑦大正四年五月山本憲跋。捐貲助費者（木活）　⑧朱印「聖華／鑑蔵」　⑨岡玄椙　⑩捐貲助費者列記の後に「右諸君子以朱字印本贈之後不復朱字印之」とあり。

又〔後印〕（京　聖華房山田茂助）　大三冊

⑧奥付「（広告書目）／書林聖華房　皇都寺街通六角南式部町山田茂助蔵」　⑨岡玄浜　⑩岡玄は奥付なし。

増補孝経彙註　三巻　（明治三十四年刊「日本倫理彙編」三所収）

290孝経傍訓　三国〔幽眠〕（直準）撰　天保八年一月序刊（一洗堂蔵板）　大一冊

①頭鰲孝経傍訓　③天保七年龍集丙申春二月三国直準序。天保丁酉孟春五日岡翼・田中良知校語。三国直準孝経総説。丁酉之春人日後二日林重威序　④孝経傍訓／越前　三国直準子縄述／門人（跨行）／岡　翼／田中良知／仝校（跨行）　⑤左右双有9行18字。白口　⑧朱印「弍洗／堂蔵」の下に「一洗堂蔵版之記」と刻す（朱印なきもの後印）　⑨石岡狩玄斯椙東浜林。

291孝経纂義　二巻　中井乾斎（豊民）撰　弘化二年十月刊（中井氏明善堂蔵板）　半二冊（木活）

①孝経纂義上（下）　②弘化乙巳聚珍版（横書）／乾斎中井先生著／孝経纂義／明善堂発行　③弘化改元歳在甲辰季冬之月尾藤積高序。天保癸卯秋九月川北重熹序　④孝経纂義巻之上（下）／日本江都乾斎中井豊民著／受業同校／江戸大野健／常陸橋本信義／下総篠塚重巽／同州秋葉誠／武州新井業（下―江戸阿部喜任／上総安井例／同州中村謹／下総中山極／越後富永震哉）　⑤双有10行20字小双。白口　⑦弘化二稔乙巳九月木村温跋。上下巻正誤（末に「卒業校讐自外先刪及字画譌者尚多悉竢／重刷訂正　製刷司　津田成斎／中根鳳斎」とあり）　⑧弘化二年乙巳十月発行　⑨岡浜林　⑩次掲も同時に印行せる売例用書か。

又〔後印〕（江戸　須原屋新兵衛等）　半二冊

⑧刊記同前。木活奥付「中井隆益蔵板／書肆／京都三条通升屋町　出雲寺文次郎／大坂心斎橋北久太良町　河内屋喜兵衛／江戸日本橋通二町目　須原屋新兵衛」　⑨狩玄東林。

292大道微言〔孝経〕　乾長孝撰　〔江戸後期〕刊　大一冊

③乾長孝大道微言。孝経註大意五則　④大道微言／因幡　乾長孝　著／孝経（孔本冠ニ／古文ヲ―原文小字双行）　⑤双無10行20字。白口　⑥孝経終　⑨規玄　⑩規は「大道微言〔無量義経〕」と合綴。

Ⅲ　折衷本

293孝経〔辞伝〕　向井玄升撰　寛文十一年二月刊（京　霊蘭堂）　大一冊

③寛文甲辰夏五月日向井玄升序。義例　④孝経（孝者以レ道事レ親之名／経者経常当レ行之謂〈原文小字双行〉）　古今二文合一／日本　関西肥州　長崎　向井玄升辞伝　⑤双無8行18字。白口　⑧寛文十一辛亥歳仲春既望　雒下　霊蘭堂刊　⑨規玄。

294孝経集覧　二巻　山本北山（信有）輯校　安永四年一月刊（奚疑塾蔵板）　大二冊

①孝経集覧上（下）　②北山先生輯／孝経集覧　二冊／安永四年乙未新鐫　奚疑塾蔵（見返なきものあり。斯は見返なく同様に刷る袋あり）　③安永三年甲午孟冬山本信有喜六序。享保十六年辛亥十一月壬午大宰純古文孝経序。孔序。玄宗序。孝経註疏序　④孝経集覧巻之上（下）／漢　孔安国　伝／唐　玄宗皇帝　御註／宋　刑昺疏／朱　熹　刊誤／日本山本信有　乙輯（巻下は「輯」のみ）　⑤単有10行20字小双。白口。下象鼻に「奚疑塾蔵」　⑧山本喜六著／乙未安永四年正月　刻成／嗣出著述目録五種　⑨岡規玄斯林。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大二冊

①同前　②同前　③信有序。純序。玄宗序。註疏序。孔序（同前の順もあり）　⑧刊記同前。奥付「（広告書目）／江戸　書肆嵩山房　小林新兵衛梓行」　⑨狩玄浜。

又　寛政二年春〔修〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大二冊

③信有序。純序。孔序。玄宗序。註疏序　⑧刊記同前。奥付「寛政二年庚戌春　江戸　書肆嵩山房　小林新兵衛梓行（奥付の耳に『孝経証』とあり）」　⑨岡・早稲田大学　⑩上二十九ウ標注なし。かけたものならむ。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大二冊

③同前　⑧刊記同前。次に「書林嵩山房蔵版目録」　⑨石慶東。

295孝経集伝付呉文正公刊誤　新井白蛾（祐登）撰　安永八年九月刊（京　武村嘉兵衛・浅井荘右衛門）　大一冊

③安永七年春三月廿日新井祐登謙吉序。凡例　④孝経集伝　⑤双無行不等15字。白口。下象鼻に「古易館」　⑦付録呉文正公刊誤　⑧「新井白蛾先生著述書目」。奥付「安永八年己亥九月　立誠館／平安書林／堀川通仏光寺下ル町　浅井荘右衛門／二条通新町東江入町　武村嘉兵衛」　⑨椙東。

296同　寛政三年九月刊（京〔博厚堂〕武村嘉兵衛・〔有斐堂〕浅井荘右衛門）　大一冊（覆295）

①孝経集伝　②寛政辛亥新鐫（横書）／新井白蛾先生著／孝経集伝／平安書舗　博厚堂有斐堂　③寛政三年春三月廿日新井祐登謙吉序（覆刻にて年記のみを改む）。凡例　⑧奥付「寛政三年辛亥九月彫師下村幸次郎／平安書林／堀川通仏光寺下ル町　浅井荘右衛門／新町通二条下ル町　武村嘉兵衛」　⑨玄浜林　⑩玄林は見返なく奥付の前に「新井白蛾先生著述書目」あり。早印なるべし。

又〔後印〕（京　菱屋孫兵衛）　大一冊

①孝経集伝新刻　②同前　⑧奥付「（広告書目）／皇都書林　京御幸町御池下ル町　菱屋孫兵衛板」　⑨玄林。

297 中文孝経付孝経考異　矢野篁校　寛政二年三月跋刊

半一冊

③寛政二年庚戌春三月天台後学良玄至徹跋　④中文孝経／日本勢州　矢野篁　校　⑤単無9行20字。黒口　⑦孝経考異／日本勢州　矢野篁　編録　⑧「寛政元年／己酉初冬」。次に木記の如く枠の中に「勢州　矢野篁述／論語大成正文　全部近刻」　⑨林　⑩単経。校異を付録として巻末に掲げる。

298 〔較定〕孝経　山本北山（信有）校　寛政九年刊（〔秋田〕　明道館蔵板）　大一冊

①較定孝経　②「寛政丁巳新鐫（横書）／明道館蔵版／校定孝経／経義掇説」。岡・狩二本・規玄一本・東は見返なし　③寛政丁巳夏源義和序（規玄浜一本はなし）。寛政乙卯六月吉旦山本信有較例（規一本はなし）④孝経／武蔵　山本信有較　⑤双有9行21字小双。白口。下象鼻に「明道舘蔵」⑨岡狩規玄斯相東浜林　⑩単行のものと307「経義掇説」と組んで出されしものとある如し。単行本が後か。校訂注あり。

299 孝経定本　源竹溪（継光）校　文政三年刊（白華園蔵板）　大一冊

①　②文政庚辰新刻（横書）／竹溪先生著／孝経定本／白華園蔵　③文化十一年甲戌夏五月源継光序　④孝経定本／秋田　源継光校　⑤双有9行20字。白口。下象鼻に「白華園蔵」　⑦文政二年歳次己卯春三月梅常跋　⑨玄　⑩断句。序に「近来吾北山先生新校定本列挙同／異並存是非使後人各択其善者而／……」とあり。経文を十八章に分つ。標注あり。

IV　総論その他

(1)　漢人著作

300 孝経宗旨・孝経引証　明羅汝芳撰　劉鱗長校（引）明楊起元撰　劉鱗長校　承応元年一月刊（五倫書屋）

大一冊（覆明）

①孝経宗旨并引証　④孝経宗旨／盱江　近溪羅汝芳　著／晋江　乾所劉鱗長　訂（孝経引証／帰善　復所楊起元　纂／晋江　乾所劉鱗長　訂）　⑤双無9行20字。白口　⑦（「宗旨」末に）楊起元跋　⑧木記「承応元壬辰孟冬日／五倫書屋」　⑨石規玄林。

301 同　山〔崎〕崎嵘（如山）点　文政二年四月刊（江戸小林新兵衛・和泉屋吉兵衛）　大一冊（覆300）

①孝経宗旨引証合刻　③文政二年祝犂単閼春三月望田龍雲卿甫序。文政己卯暮之春中澣山如山序。扉「孝経宗旨」（引証の前にも扉「孝経引証」あり）　④孝経宗旨／明（跨行）／盱江　近溪羅汝芳　著／晋江　乾所劉鱗長　訂／日本　東都　崎嵘山如山　校（孝経引証／明（跨行）／帰善　復所楊起元　纂／晋江　乾所劉鱗長　訂／日本　東都　崎嵘山如山　校）　⑤単無9行20字。白口　⑦（「宗旨」末に）楊起元跋。田経綸跋（狩は

なし）　⑧奥付「文政二己卯年四月／東都書肆／芝神明前　和泉屋吉兵衛／日本橋通二丁目　小林新兵衛」　⑨岡狩規玄椙東浜林　⑩300の粗なる覆刻。

302孝経大全（外題）　明江元祚編　〔江戸前期〕刊　大十冊（覆明）

①孝経大全一（一十止）　③崇禎癸酉秋七月朔葛寅亮序。崇禎六年正月日聖諭。古今羽翼孝経姓氏。参閲姓氏。目録（以下版式は前と同じければ省略）　A　孝経考甲集（双無9行19字。白口）　B　宗伝図考／明仁和江元祚述ス（双有9行19字）　C　全孝図　D　伝経始末　E　全経綱目　F　孝字釈　G　全孝心法　H　誦経威儀〈以上第一冊〉　I　今文孝経直解漢本乙集／明江元祚訂（双有8行18字小双）　J　③臣斉古進石台孝経表。玄宗序　④石台孝経／明銭塘葛寅亮閲／仁和江元祚訂〈以上第二冊〉　K　朱文公定古文孝経宋本　丙集／宋朱　申註／明江元祚訂　L　③文公刊誤古文孝経原本式丁集（玄は第四冊の巻頭にあり其方が本来のものであろう）。朱文公刊誤古文孝経（目録）　④朱文公刊誤古文孝経元本／元董　鼎註／明江元祚訂　M　朱文公刊誤孝経旨意（巻末に「仁和後学朱鴻撰」とあり）（双有8行18字）〈以上第三冊〉　N　③呉文正公較定今文孝経　④呉文正公較定今文孝経元本／明仁和江元祚訂（双有8行18字小双）　⑦呉文正公刊誤。大徳癸卯十月甲寅朔張恒呉文正公較定今文孝経記（巻末に原刊語あり）〈以上第四冊〉　O　孝経彙註巻上戊集／明仁和江元祚刪輯／銭塘呉太冲参訂（「孝経彙註巻中」。巻下は「孝経彙註」のみにて「巻下」と題さず〈双有9行19字〉）〈以上第五冊〉　P　③孝経会通凡例　④孝経会通己集／明仁和沈　淮述／外孫江元祚較　Q　③江元祚訂孝経疏鈔考　④孝経疏鈔／唐　元行冲疏／宋　邢昺正義／明　梅鼎和鈔　R　四書孝語／明江元祚参考／姪　弘較〈以上第六冊〉　S　五経孝語庚集／明仁和朱　鴻編輯／江元祚参考　T　曾子孝実付録／仁和江元祚刪註／男　広較（巻末に「雑付」を付す）　U　孝経彙目／仁和江元祚述／壻沈元龍訂〈以上第七冊〉　V　孝経集霊辛集／巻上（下）／銭塘虞淳熙述／仁和江元祚訂（巻末に「付集」あり）〈以上第八冊〉　W　孝経釈疑壬集／銭塘孫　本著／仁和江元祚訂　X　孝経質疑／仁和朱　鴻著／江元祚訂　Y　従今文孝経説／明　虞淳熙述／江元祚訂　Z　古文孝経説（巻末に「銭塘後学孫本撰ス」とあり）　a　古孝経一篇大一旨〈以上第九冊〉　b　孝経集文癸集／明仁和江元祚輯／銭塘聞啓祥訂（尚以上の本文の界線は訓点、送仮名の多少により一定していない。従って全く界線のない葉も存する）　⑦江元祚孝経大全跋　⑨岡規慶玄（壬集欠）椙東（乙辛集欠）林（甲集欠）　⑩岡慶は「序・聖諭・跋・孝経姓氏・参閲姓氏・目録」の順に綴じる後印本。Jの序も「玄宗序・表」の順に綴じる。東は第一冊巻頭巻末の「甲集」を切取り紙をあて「乙集」と書改める。前付は「序・聖諭・跋・参閲姓氏・孝経姓氏」。

(2)　日本人著作

303孝経外伝　山崎〔闇斎〕（柯）編　明暦二年八月刊（京

武村市兵衛）　大一冊

①　③明暦二年八月朔日後学山崎柯序。孝経（経一章）　④孝経外伝　⑤双無7行13字。白口　⑧木記「明暦二丙申年南呂吉辰／二条通松屋町　書肆武村市兵衛刊行」　⑨林。

又　山崎〔闇斎〕（嘉）編　〔修〕（京　武村市兵衛）　大一冊

③「柯」を「嘉」と改む　⑨岡狩玄浜。

又　〔後印〕（大坂　河内屋源七郎）　大一冊

⑧刊記削去。奥付「発行／書肆／江戸　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／須原屋新兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋吉兵衛／須原屋伊八／出雲寺万治郎／紙屋徳八／尾州名古屋　菱屋藤兵衛／大坂河内屋源七郎板」　⑨玄　⑩107後印本と同奥付。

同　昭和十二年刊（東京　日本古典学会）　菊一冊

（影303後修本・「続山崎闇斎全集中巻」所収）

304孝経外伝　山崎〔闇斎〕（敬義）編　正徳五年三月序刊（藝州倉橋　敬長舘蔵板）　大一冊

①「孝経外伝」の下に「倉橋板」と横書　③孝経（経一章）。明暦二年八月朔日後学山崎敬義序。正徳五年三月九日秋篠守道序。嶋居好之序　④孝-経外-伝　⑤双無8行14字小双。大黒口。下象鼻に「敬長舘蔵版」　⑧木記「藝州倉橋敬長舘之板」　⑨林。

又　寛政二年〔修〕（藝州倉橋　敬長舘蔵板）　大一冊

①同前　③山崎敬義序。秋篠守道序。嶋居好之序。孝経　⑦裏表紙見返に「野津綱夫跋」　⑧同前刊記の後に以下の三行を加刻。「明暦二ハ丙申　丙申ヨリ乙未マテ　六十年ニアタル／正徳五ハ乙未　丙申ヨリ庚戌マテ　百三十五年ニアタル／寛政二ハ庚戌乙未ヨリ庚戌マテ　七十六年ニアタル」　⑨石岡玄　⑩本文にも訓みなど部分的に修あり。

又　〔遞修〕（藝州倉橋　敬長舘蔵板）　大一冊

①同前　③同前　⑦同前　⑧「六十・百三十五・七十六」の文字修　⑨浜林　⑩寛政二年修本の「六十・百三十五・七十六」の文字拙き為改めたか。

孝経外伝　（昭和十一年　内田周平校刊「孝経刊誤合纂」所収）

底本304正徳五年三月序刊本。

305服膺孝語　宇〔佐美〕〔濁水〕（恵）輯　天明八年一月刊（江戸　西村源六等）　大一冊

①　③天明甲辰春二月浦井宗徳序　④服膺孝語／南総　宇恵子迪輯　⑤双有9行16字。白口　⑥尾題なく巻末に「壬寅之春門人　浦井宗徳子崇校」　⑦紀徳民跋　⑧奥付「天明八年戊申正月／書肆／尾州　菱屋久兵衛／京　西村平八／大坂　柏原屋与左衛門／江戸　西村源六」　⑨玄。

又　文政五年春〔印〕（〔名古屋〕　永楽屋東四郎等）　大一冊

⑧奥付は「262文政五年春印本」と同一　⑨浜林。

又　〔後印〕（名古屋　永楽屋東四郎等）　大一冊

⑧奥付「発行書林（横書）／江戸　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／大阪　河内屋喜兵衛／河内屋和助／京都　風月庄左衛門／俵屋清兵衛／尾州名古屋　永楽屋東四郎」　⑨斯。

又〔明治〕印（名古屋　永楽屋東四郎等）　大一冊
⑧「東壁堂製本略目録記」五丁。奥付「発行／書肆／京都　菱屋孫兵衛／吉野屋仁兵衛／蓍屋宗八／田中屋治兵衛／東京　須原屋茂兵衛／山城屋佐兵衛／岡田屋嘉七／和泉屋金右衛門／大坂　河内屋喜兵衛／河内屋和助／河内屋茂兵衛／秋田屋太右衛門／尾州名古屋　永楽屋東四郎」　⑨玄楫。

306孝経外伝集解　村瀬櫟岡（観）撰　寛政五年七月刊（〔江戸〕　小林新兵衛〈時習館蔵板〉）　大一冊
②櫟岡先生著／孝経外伝／時習館蔵　③寛政五年癸丑重五日東亀年序。寛政五年歳在癸丑夏四月瀬観序　④孝経外伝集解／東都　櫟岡　瀬　観　著／門人／立石豊／猪　直／柴久敬／同校　⑤左右双有9行20字小双。白口。下象鼻に「時習館蔵」　⑦寛政癸丑□夏望木克跋　⑧奥付「村瀬良助著／寛政五年癸丑七月／朱印『時習／館蔵』／小林新兵衛発行」　⑨石慶楫浜　⑩楫は跋文なし。

307経義掫説　山本北山（信有）撰　〔寛政九年〕刊（〔秋田〕　明道館蔵板）　大一冊
①　③総目録　④経義掫説／武蔵　山本信有著　⑤双有9行21字。白口。下象鼻に「明道館蔵」　⑨岡狩玄斯楫浜林　⑩298「〔較定〕孝経」参照。狩は「〔較定〕孝経」と合綴され、題簽に「較定孝経」・「経義掫説」の二枚を並べて貼る。又見返に298の②と同じものを貼るも原装に非ざるべし。
経義掫説（昭和四年刊「日本儒林叢書」五所収）

308孝経餘論　豊〔島〕〔豊州〕（幹）撰　寛政九年十二月序刊（〔江戸　豊島氏〕由己堂蔵板）　大一冊
③寛政丁巳冬十二月武蔵処士豊幹序　④孝経餘論／武蔵　豊幹子卿氏撰　⑤単有10行20字。白口。版心下部に「由己堂」　⑦丁巳冬十二月晦中岡終吉跋　⑨規。

309孝経餘論　豊島〔豊州〕（幹）撰　〔江戸後期〕刊（〔江戸　豊島氏〕由己堂蔵板）　大一冊
①孝経餘論　③寛政丁巳冬十二月豊島居士豊幹序　④以下同前　⑨狩　⑩文字似るも覆刻に非ずして版下を書き直せしもの。往々文面・文字等を改める箇所あり。
孝経餘論（昭和四年刊「日本儒林叢書」五所収）
底本308。

310孝経大義略之抜書　観瀾斎瀇浦撰　享和三年五月刊（大坂　油屋甚七）　半一冊
①大義孝経抜書　②四海浪治る御代や初日影　観瀾斎瀇浦／忠孝（大書）　④孝経大義略之抜書（こうきやうたいぎりやくのぬきがき）　⑤無無7行　⑦享和三癸亥仲夏備後玉浦林種館主人跋。芭蕉・観瀾・不前の発句三句　⑧裏表紙見返に「享和三癸亥五月仲旬／書林　大阪御堂筋瓦町南ェ入　油屋甚七」　⑨玄林　⑩和文。跋に「右伝略の抜書（ミキデンリヤクヌキガキ）……」とあり。

311古文孝経私記　二巻　朝川〔善庵〕（鼎）撰　文化八年十一月刊（江戸　小林新兵衛等）　大二冊
①古文孝経私記上（下）　②見返又は扉「古文孝経私記」　③文化六年己巳冬十月山本信有序。文化七年十一月中浣佐藤坦序。目録。文化己巳冬十月泉沢充例言　④古文孝経私記巻上（下）／

江戸朝川鼎五鼎氏著　門人／南部泉沢充／遠江大田恵／江戸今井観／仝校（巻下は「江戸朝川鼎五鼎氏著　門人／秋田鈴木譲／伊豆三須復／南部汲川恭／仝校）　⑤双有10行21字。白口。下象鼻に「学古塾蔵」　⑧奥付「文化八年辛未冬十一月癸兌／京都　須原屋平左衛門／植村藤右衛門／大坂　河内屋喜兵衛／江戸　西宮弥兵衛／小林新兵衛」　⑨岡玄東林。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大二冊

⑧「嵩山房蔵版（板）目録」五丁又は半丁　⑨石岡玄楫　⑩東京教育大学・早稲田大学蔵本に奥付「（広告書目）／江戸　書肆嵩山房　小林新兵衛梓行」を付すものあり。

又〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大二冊

⑧「嵩山房蔵版目録」の「東都」を「東京」と改む　⑨斯浜。

古文孝経私記（昭和四年刊「日本儒林叢書」五所収）

312 国字孝経（外題）　文政元年十一月序刊　半一冊

①国字孝経　③文政紀元戊寅冬十一月亀田興叙　④内題なし　⑤無無8行25字内外　⑨狩規玄東浜林　⑩古文孝経をもとにした和文の再話。

313 孝経両造簡孚　東条一堂（弘）撰　文政十三年刊（蝶嬴窟蔵板）　大一冊

①　②文政庚寅鐫（横書）／一堂東条弘士毅著／孝経両造簡孚／蝶嬴窟　④孝経両造簡孚／東条弘著　⑤単無12行29字。白口。版心下部に陰刻にて「蝶嬴窟」。十五丁目の丁付を「十四」と誤る。丁付「二十一終」　⑨斯　⑩国字。

又〔修〕（蝶嬴窟蔵板）　大一冊

⑤丁付を改む。丁付「二十二終」　⑨狩玄楫東浜林。

又〔後印〕（江戸　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

②なきものあり　⑧嵩山房蔵版（板）目録　⑨岡狩規玄林　⑩285「〔増攷〕孝経〔鄭氏解補証〕」参照。

又〔明治〕印（東京　嵩山房小林新兵衛）　大一冊

②なし　⑧奥付「（広告目録）／嘉永四年辛亥十一月再版／東京書肆　嵩山房　小林新兵衛梓」　⑨石・早稲田大学　⑩早稲田大学蔵本に見返なく、東京嵩山房蔵版目録を付すものあり。石と早稲田大学の各一本は285の付録。見返なきものは285と合せて売られしものならむ。

314 待問録　東条一堂撰　文政十三年刊（龍鱗舘蔵板）

中一冊

①　②文政庚寅鐫（横書）／一堂先生門人　坂口光　森田孚　等輯／待問録／龍鱗舘蔵　③文政庚寅之秋新田源道純序　④待門録　一堂東条先生門人　東都（跨行）／坂口光／森田孚／等輯（跨行）　⑤単有8行18字小双。白口。下象鼻に「龍鱗舘蔵」　⑨玄東。

315 孝経謹奉進　巻上　最上徳内撰　天保三年刊（江戸嵩山房）　半一冊

①孝経謹奉進上巻　②天保三年新鐫（横書）／孝経上下二巻（以下に「最上徳内先生著／古孝経及古文今文鄭註／四通流本七十余品之比校」とあり）／上巻　伝来大綱　孔序之解　歴代伝系　校本提目　便覧正文　古字略考／下巻　古今　毎章　七十余品之異同　錯乱確証　対文押韻之考徴　衍文闕脱／発行　日本橋通二丁目　嵩山房　④孝経謹奉進巻之上／最上徳内述説／男　効進／壻　祐次／同校（跨行）／外孫女平松氏志藝訓点（「伝来大綱〈孝経孔安国自序解〉」・

「歴代伝系」・「校本提目」・「孝経奉貢釈正文〈巻末に『付言』あり〉」・「古孝経古字考〈『文政丁亥秋七月望後一日早川敬明序』・『最上徳内跋』あり」〉 ⑤単有9行20字小双（「歴代伝系」は無界）。白口 ⑨狩規斯林 ⑩巻下未刊。461・462参照。

316示俗孝経（外題） 斎藤弘撰 天保四年十月序刊 大一冊

①示俗孝経 ③天保四年十月斎藤弘序 ④内題なし。「示レ俗／孝経云……」 ⑤単無7行11字小双。白口 ⑨石岡玄浜林 ⑩「庶人章」の注解。総振仮名。

317孝経刊誤付考〔浅見絅斎〕撰〔元禄〕刊 大一冊

① ④孝経刊誤付考 ⑤単無9行18字小双。黒口 ⑨玄椙林 ⑩椙に143「孝経刊誤」と合綴せるものあり、所蔵者の合綴。元禄九年刊・正徳五年修の書籍目録では、著者を「浅見」とし、享保十四年刊の書籍目録では「闇斎」とす。

又〔後印〕（大坂 河内屋万助） 大一冊

① ⑧「（広告書目）／大阪書肆 心斎橋通久宝寺町 河内屋万助蔵板」 ⑨林。

318尚書学・孝経識・孟子識〔荻生〕徂徠（物茂卿）撰〔江戸後期〕刊（安中 板倉氏蔵板） 中一冊（「甘雨亭叢書」第四集所収）

①尚書学孝経識孟子識 ②第四集／甘雨亭叢書／安中板倉氏開雕（狩なし） ③甘雨亭叢書（目録）。板倉勝明子赫撰徂徠荻生先生伝（「尚書学」省略） 扉「孝経識」 ④孝経識／徂徠物茂卿著 ⑤左右双有9行21字。白口（「孟子識」省略） ⑨岡狩慶玄椙東浜林。

319孝経図〔九鬼温斎〕撰〔江戸後期〕刊 中一冊

① ④孝経図 ⑤無無 ⑨玄 ⑩240参照。

孝経説（愛日斎随筆経説部一） 古屋愛日斎（鼎）撰（明治四二年刊「肥後文献叢書」二所収）

孝経考 中江藤樹撰 加藤盛一校（昭和三年刊「藤樹先生全集」一・昭和十五年増訂印「藤樹先生全集」一所収）

底本篠原氏全書本、対校岡田氏全書本。

孝経講釈聞書 中江藤樹講 門人筆録 加藤盛一校（昭和三年刊「藤樹先生全集」二・昭和十五年増訂印「藤樹先生全集」二所収）

底本享保十四年中村伯常写本。追記2参照。

孝経外伝或問 四巻 熊沢蕃山撰 正宗敦夫校（昭和十五年刊「蕃山全集」三所収）

底本正宗文庫蔵影北小路本、対校二巻本。

第二部 未刊本

401会沢正志斎（安）著 孝経考

首に嘉永己酉〔二年〕季秋望常陸会沢安題の「孝経序」の自序。御注の経文の下に玄宗と司馬光の指解の両注を掲げ、末に「考」或は「按」と標して自注を附す。自序に「今併列二家解附以所聞於先師与愚見所及者」と云う如く、師の藤田幽谷の説

と自家の見解とを述べたもの。経文は首より五章を合せて一章五節となし、全篇を十四章に分ち、上欄に経注に対する校合注を標記する。

（斯）明治一六年増子青雲写一冊。（玄）近写一冊。（林）昭和一一年林秀一写〈拠前本〉一冊。（東京教育大学図書館）明治一五年写一冊。（尊経閣）近写一冊。（国立国会図書館）近写一冊。（同上）明治二八年写（「孝経彙」第三冊収）。

402 藍沢南城（祗）著　孝経考

孝経の名義成立伝承の総論を述べ、次に章名の由来に論及し、古文に従って経文を摘解す。和漢諸家の説をあげ、祗云として自説の論断を附す。所々上欄に標記あり。林本は第一章、東大本は孝平章第七にて止り以下を欠く。恐くは未完か。著者は名は祗、字は子敬、北祗の子、越後の人。父子ともに片山兼山に学び、家学を継ぎ、万延元年歿。

（東）写一冊（*林）近写一冊。

403 〔荒砥武伴〕著　孝経刊語講義存伝五章以下

刊語により経文を一節ずつ掲げ、和文の注解を下す。注はほぼ董鼎の大義によるが、諸書の原文の引用を混え、かなり詳細。表紙見返に「仙台人荒砥武伴稿本」と記さる。著者の伝不明。

（浜）写一冊。押紙による刪削等もあり。著者の稿本であろう。

404 猪飼敬所（彦博）著　孝経考

孝経の諸問題について、諸家の説を掲げ、末に「博按」として自説を附す。著者は名は彦博、字は文卿、一字は希文、近江の人。初め手島堵庵に心学を修め、後ち岩垣龍渓の門に入って儒を学び、京師に講説し、古注に基づき、古今を渉猟し、諸家を折衷す。弘化二年歿。

（*大阪府立図書館）写（自筆）一冊。

405 猪飼敬所（彦博）評　橘正逵編　古文孝経私記評抄

二巻

首に「古文孝経私記上（下）巻評抄／江戸朝川鼎五鼎氏著／近江猪飼敬所先生評　門人橘正逵抄之」と題す。善庵の「古文孝経私記」の文を摘録し、「評博按」と標して、批評を加う。恐らくもと敬所が「私記」の刊本に書入せる標記を門人の正逵がこの形に編したものであろう。

（京都大学図書館）文政九年橘三美写一冊、「猪飼氏旧蔵書」第一三三冊所収、「古文尚書勤王師評抄」と合綴。

406 石川嵓著　孝経反正

首に天保十三年壬寅臘月石川嵓高斎書の自序。朱子刊誤の武断、明江元祚の彙注等の空理を排して後生の愚蒙を披くの意を以て反正と命名すと述べ、古文の経文を一節ずつ摘解し、先儒の説の是非を論評し、折衷の態度に近い。三才章に止る。著者の伝未詳。

（*林）昭和一一年林秀一影写〈拠一柳氏蔵本〉一冊。

407 石川清綱著　孝経改観

巻首に「孝経改観／江戸石川清綱公愷学」と題す。巻初に孝経は孔子の遺書に非ず、孔伝は劉炫の偽作たることを論じ、経

文の句の基づく所の出典をあげて考証し、間々按語を附する。著者の伝は明かでない。国会図書館蔵本は上下二巻に分れ、書写者によって一本との朱筆校合が加えられ、また第十章(巻下)以下には各章経の全文が掲げられている。無窮会本はその一本即ち草本に属するようである。無窮会蔵近写本の表紙に、その底本にあったと思われる「唐它山氏学　木石園偶鈔／天保癸巳初春功訖矣」の識語が転写されている。「近代著述目録後篇」等には堤它山(名は公愷、字は公甫、越前の人、嘉永二年歿)の著作として「孝経改観　二」と録されているが、上記の識語によれば它山が天保四年に本書を書写したと解され、著者の石川清綱公愷と塘公愷公甫とは同一人とは思われないから誤伝されたものか、後証を俟つ。

(国立国会図書館)明治二七年写〈「孝経彙」第二冊収〉。本奥書「文政二年乙卯十月二日卒業」。(無窮会)昭和一八年加藤虎之亮写一冊。巻末奥書「昭和十八年二月二十四日借松雲堂主人六／日夜至廿八日午前写了／加藤虎之亮識(花押)〈朱書〉三月二十日一校了　虎再識」。

408 石井仏塢編　孝経類鈔

孝経の成立伝承伝本その他に関する解題総論にして、刊誤・釈疑・邢昺疏・偽書考・四庫全書簡明目録・困学紀聞・黄氏日抄・西河合集・経義考その他の諸家の説を引録するに止る。首葉欄外に「文化六巳年仏塢学」と記さる。著者は伊豆の人、名は耕、字は子耕、通称は俊助。

(狩)写一冊。自筆稿本か。

409 伊東茹堂(祐道)著　孝経大意

首に孝経の総論を述べたる嘉永癸丑〔六年〕七月伊東祐道述の「読孝経須知」(初め「経義考」と題し、且つ「嘉永庚戌春三月伊東祐道序説」と署したが、末に一条を追加し、今の如く改めた改削の跡あり)をおき、巻末に「孝経大意成」と題する自作の五言律詩を附す。近文による経文を一節宛掲げ、漢文の注を附す。閨門章のみは古文により補入。注は各節の大意要旨を明かにすることに意を用い、字句の訓釈よりは評論を主とする。著者は名は祐道、字は子成、奚疑、又茹堂と号す。陸前の人。仙台藩に仕え、郡奉行となる。安政六年歿。

(浜)写一冊。巻末に「日本仙台　伊東祐道　男永沼秀実　大意校訂」の朱筆の押紙を貼附。巻中刪改の跡あり。(無窮会)写一冊。前掲本と全く同一人の筆跡の写本である。明治時代に同じ人によって自筆稿本から幾部か書写されたものか。

410 伊東茹堂講　河野荃汀(通之)編録　孝経正文

首の「孝経正文」の次行に「茹堂伊東先生章旨　門人河野通之編纂」と題す。今文の経文を一節宛掲げ、その章の大旨を注解せる茹堂の章旨(前掲書に所収)を加う。今文になき閨門章は古文から補入。上欄に標注を記入。荃汀は名は通之、字は子明、陸前の人、仙台藩の儒員となる。大正五年歿。

(東京教育大学図書館)万延元年写(自筆ヵ)一冊。尾題「孝経正文大尾」下に「万延元年夏六月／河野草健越智通之謹写」の書写奥書。

411 伊藤信民著　読孝経

巻首「読孝経／尾張　厚田　伊藤信民君和父著」と題す。孝経の本邦伝承の事蹟を書紀以下の諸書から輯録し、且つ国史経籍志・漢書藝文志を引いて総論とす。次に「孔序」と題し、その要句を標記して、注を附する。注は字義ではなく、主に事蹟故事事項に関して諸書よりの引用である。経文の注はなく、末に「下郷寛曰」「邢昺云」として今古文の注釈家の伝系を附記す。著者の伝未詳。

（斯）写（自筆か）一冊。

412稲垣寛著　孝経集解

首に「孝経集解／石見　稲垣寛子容甫著」と題す。今文の経文を一章宛掲げ、董鼎曰として大義を主として、間々孔伝・鄭注・御注を引く。著者の伝未詳。

（斯）写一冊。

413〔岩垣龍溪〕著　古文孝経管見（外題）

春台校の古文孝経による、春台序を含めての詳細な国字解。撰者名を題さず、たゞ無窮会蔵本の表紙見返の押紙に「此書岩垣龍溪ノ講義筆記なるべし」と記してある。本書の内容と次掲の東園の講義本とを比較して見ても、ほゞそのように推定される。龍溪は名は彦明、字は亮卿、一に孟厚、京都の人、明経博士清原家に学び、古学に通ず。文化五年卒。

（無窮会）写八冊。

414岩垣東園（源維光）著　孝経講説

首に寛政丁巳〔九年〕春二月穀旦源維光謹識の「孝経講説序」。経文は故明経博士佩蘭清公（清原宣条）校（97）の古文孝経を用い、師説により孔伝を主とし、鄭注を始め諸家の説を参照して、経文の字句を和解す。著者は名は初め維光、後に松苗、字は長等。京師の人、清原家に学んだ岩垣龍溪の養子となり、嘉永二年歿。

（東京教育大学図書館）写一冊。林泰輔旧蔵。（狩）写一冊。

415大田錦城（元貞）輯　古文孝経講説引証

経伝文の主要字句について、その出典を諸書に探索して輯録し、往々按語を加える。

（*神宮文庫）幕末明治初間写一冊。

416大田晩成（玄齢）著　孝経集成

前に孝字義・経字義に始り孔安国序後人之偽作に至る十七項目を立てゝ、孝経の成立・伝来・今古文・評価等についての総論・解題を述べ、次に孔序（齢曰不レ詳二其文一則不レ能レ知二其真偽一。故注レ之。として注を附す）、経は古文を掲げ、各章毎に今・古文の異同をあげ、字訓については、先考曰を冒頭にして諸書各家の説を博引して、家学に基いて詳細な考証を加える。漢文。巻末に「文政八年十二月廿日　遮那謹誌」と。著者は大田錦城の第四子、名は玄齢、字は季喬、通称は遮那四郎、晩成、蠅虎堂、敬時堂とも号す。性放縦にして仕を厭い、処士を以て終り、慶応三年歿。

（*玄）写一冊。恐は自筆稿本か。（玄）明治四年写一冊。巻末に「維時文政十二己丑正月十六日自始及二月二十九日而書写了蓋時有四家集講及礼記会説且詩文之会且余風咳之病故歴日数如此云　六十翁田侃於兄島建中園題識」「右此書籍者戸

田芳村先生処賜也維時明治三庚午冬十有二月十五日自始明治四辛未三月朔日而書写了蓋時有詩経講及孟子会説且余咳之病故歴日如是云爾二十小子僧訥於踏迹亭西窓之下題識（印）（印）」。（無窮会）写一冊。前表紙見返に「此孝経一本午十一月某日佐藤彦六／浅岬辺于店而得之直／天保五年午十二月記之」の識語がある。この本は晩成著「孝経集成」と内容が同じでありながら、巻首題名の次に「東都　小笠原師著」、尾題の次には「小笠原剛次著」と題署され、後表紙見返には「讃岐国香川郡高松城主南海之簾頭松平讃岐守源頼恕侯家臣小笠原長良著」と墨書され、巻中の「先考曰」「齢曰」の所が殆ど胡粉で抹消されている。小笠原某の伝は不明で、晩成の著を剽窃して小笠原某の著とせんとしたのか、不可解な本である。

417大田遜著　孝経撮記

首に「孝経撮記　東奥大田遜稿」と題す。初に孝経の総論があり、経句を摘出して、諸家の説を引いて経文の異同及び経義文字の要を注解す。漢文。佐藤一斎の説を引くことが多い。著者の伝は明かならず、前書に「余嘗著孝経私抄。在水戸之日。罹兵燹為烏有。」の語が見える。（無窮会）写一冊。

418岡本況斎著　孝経注疏考（外題）

「孝経正義」の注・疏について、字句の校勘や出典その他についての考証箚記を漢文で記し、末に補一丁を附す。著者は名は保孝、江戸の人、本姓は若林氏、業を狩谷棭斎に受け、昌平黌の教官となり、明治十一年歿。（尊経閣）写（自筆）一冊。

419奥村慎斎著　孝経管窺

巻首「孝経管窺壬子四月廿九日起筆与集伝可互見　慎斎著」と題し、末に壬子五月九日夕書之の和文の跋文及び壬子五月十日慎斎書の漢文の附記あり、次に加賀臣高木貞福著の「民間孝子伝」の和文一篇をかゝげて、同文に対する寛政壬子年中夏十二日慎斎書と署する和文の批評を附する。孝経刊誤によって経文を掲げて、平易な国字解を下す。巻中所々に集伝に委しくあり等と記し、師新井白蛾の「孝経集伝」（295）の参照を前提にしている。著者は名は尚寛、加賀藩の老臣、新井白蛾に学び、易学に精く、学を好み、藩務の傍ら易・四書類の注釈書を著す、享和三年歿。（*金沢市立図書館）大学中庸管窺論語愚鈔孟子略説と共に写五冊。自筆稿本と思われる。表紙の「大学管窺草藁孝経管窺草藁」の右旁に「慎斎襍著」と副題さる。又右端に「寛政四年四月　加賀奥村尚寛著」と署名がある。（無窮会）前者と同様大学等と共に写五冊。

420織田越山（継周）著　孝経訂解　二巻

首に日本寛政六年歳次甲寅春三月戊子織田継周謹撰の「孝経訂解序」。経は古文によるが、首章を綱領として、二十三章に分つ。「孝経也者行孝之礼経也」の見を執って、経義を一々礼経に徴して礼の立場より独特の注解を下している。漢文。著者は名は継周、越山と号し、尾張の人、寛政五年十一月単経の「訂解孝経正文」（織田氏賛襄館蔵版）（37）を上木し、此はそ

の注書。

（*玄）写一冊。版心に「賛襄館蔵」と刻する印刷罫紙を使用。著者の自筆稿本か版下本であろう。（*林）林秀一影写〈拠前本〉一冊。

421 海保漁村著　孝経解

首に「孝経解／海保尚賢漁村氏学」と題し、孝経作者考・古文孝経考附孔伝考（この末に「文政丁亥。十一月二夜。燈下書。漁村道人」の識語）・古今文（本為一書非二本）異同考・孝経章名考・皇国尊奉孝経攷・諸儒尊奉孝経・中文孝経の項目の下に、清儒に至るまでの諸家諸書の説を博く引録し、間々按語を附する。刪除増補欄外行間の書入が甚しく、草案の域を脱しない。著者は名は元備、字は純卿、また伝経廬と号す。上総の人、大田錦城に師事し、幕府の医醫直舎の儒学教授となり、尤も経学を究め、幕末考拠学の泰斗と云われ、慶応二年歿。

（*東）写（自筆）一冊。

422 海保漁村著　孝経辨説

首に「孝経辨説巻第一／漁邨海保尚賢順卿学」と題し、次に「孝経作者考」と題し、撰者の考証を述べ、次に「孝経通釈／上総　海保尚賢順卿著」と題し、古文の経文をかゝげ、今古文との異同を主とせる考証注を附するが、第六章の初に止って、以下なし。脱稿に至らなかったものであろう。

（*東）写（自筆）一冊。

423 海保漁村輯　孝経考証（古文孝経欄外書）

巻末の多紀元佶の跋に「右一書海保元備古文孝経欄外所記也借之漁村先生擬倣何焯読書記体繕修以為冊子時弘化乙巳夏朔抄謄於医庠　劉元佶記　同初二日校訖」とある如く、漁村の標記書入を編輯したもので、主に和漢諸家の注説の輯録である。

（*中華民国国立故宮博物院楊氏観海堂）写〈編者自筆〉、441 孝経名義考と合一冊。（国立国会図書館）明治二七年写〈「孝経彙」第三冊収〉。「古文孝経欄外書」と題す。巻末に「右此一巻、海保漁村元備古文孝経欄外所記也、借之多紀安常元佶擬倣何焯読書記体、繕修次序、以為冊子、弘化乙巳仲夏二十四　鈴木嘉誌」と。

424 釈覚非著〔孝経〕大義私記

董鼎の孝経大義の和解にして、室町期の仮名抄の様式で、句末をナリ或はゾで結んでいる。巻末奥書に「右此抄正保二乙酉暦臘月十三日於半夜／山寺□燈□以聞夜半鐘声書之誠是鳥／焉馬誤夥之後来君子一笑々荷々／□海□□埜釈／石材軒散木叟覚非書之」と。著者の伝未詳。

（京都大学図書館）清原家旧蔵。正保二年写一冊。表紙左に「大義私記完」、右下端に「覚非之」と墨書。自筆稿本であろう。

425 嘉藤尚成（直）著　孝経童子問

首に天明甲辰〔四年〕秋八月既望藤直撰の「孝経童子問自序」、末に天明乙巳季夏十五日東郭森鉄大年手書の「孝経童子問跋」あり。童子との問答の形に託して孝経の要点の趣旨を漢文にて記す。著者の伝未詳。

（宮内庁書陵部）写（「片玉集」七十二所収）

426蟹養斎（維安）著　孝経句解

首に宝暦己卯〔九年〕七月朔旦蟹維安謹序の自序。朱子刊誤の経文を一節宛録して、諸家の説を按じて漢文注を附す。著者は名は維安、字は子定　三宅尚斎に学び、尾張藩に仕えたが、後辞して伊勢に去る。安永七年歿。

（*蓬左文庫）明和六年中村習斎写一冊。習斎の朱筆校字書入あり。（同上）江戸後期写〈「道学資講」一九五収、習斎書入も移写〉。（林）昭和一一年林秀一写〈拠一柳氏蔵道学資講本〉一冊。（玄）写一冊。

427亀井昭陽（昱）著　孝経考

亀井の学は昭陽の祖父聴因父南冥以来、子弟を教育するに、孝経を以て先となすを以て塾則となした。本書は南冥校古文孝経により、注も孔伝を重んずるが、必しも墨守せず、鄭注御注を始め和漢の注を参照して独自の創見を示し、巻末の附記は我が歴朝の孝経尊崇の事蹟を列挙し、最後に南冥が家塾に掲げた壁書一条を記す。本書の成立は初稿本の尾題に「孝経考終（是考未定也異日当参鄭註御註新疏定稿）文政乙酉十二月十一日至十七日卯成」と記された如く文政八年（五十三歳）で、昭陽の日記たる「空石日記」巻廿の文政八年十二月十一日の条に「十書生乞孝経講、閲知不足斎孝経序跋、午飲寐夜校孔伝遂側註」、十二日「窮日力卒孝経考閲」、十三日「始講孝経、……始卯孝経考、……夜尚書卒会飲臥丑起卯考一枚」、十四日「孝経卒講、考至丑夜卯十五枚」、十六日「将卒考」、十七日「孝経考廿五枚卒業釘授韋甫」と見える。本書はその後増補改定を加え、それは現存本で見る限りでは三次に亘っている。第二次稿以下の本書首章の挿注文中に「朝氏以孔伝、断為隋人偽造、余一一為之答、以問於朝氏、未得復書、丙戌稿下、有孝経窒記、是也」とある如く、翌文政九年朝川善庵の「古文孝経私記」を得て、それを批判した善庵への質問状が「孝経窒見」で、日記の九年十一月四日「終日臥尊読朝川善庵孝経私記」、五日「朱批私記了」、六日「卯孝経私記窒記」、七日「窒記成登句点過子」と記されている。初稿本の文を加除訂正し、善庵説の批判、鄭注・御注等の参照考定等を加えて大幅に増補したのが第二次稿である。二次稿本に於て傍記標注であったのを本文に入れ、且つ僅少の加除を施したのが第三次稿、挿注に於て数条の増補の入ったのが第四次稿で、伝存本の多くは第三・四次稿本に属する。伝本の中には巻末に昭陽の男暘州（鋭次郎）が「孝経窒記」を附記（末に「天保己亥八月不肖鋭附録之」と）した転写本がある。

第一次稿本　（浜）天保五年写一冊。書写奥書に「天保五年甲午春三月令祖源師写之／即校合畢元本乾生蔵書／翫古書屋」（朱書）と。（東京都立中央図書館井上文庫）天保七年写一冊。書写奥書に「于時／天保七丙申季春六日／野田和一郎写之／此写書甚悪故得心可読者也」と。（林）天保九年写一冊。奥書「天保九戊六月写レ之／斎藤樹三良写之」。（林）写一冊。追記3参照。

第二次稿本　（斯）写一冊。昭陽流の筆蹟。経全文を掲げ、注は全て小字双行。他本には全て孝平章の末にある「孝経之章段以引詩与曾子問別之凡八段」の条が、この本は巻末

にあり。

第三次稿本　（浜）写一冊。（*福岡大学図書館）天保七年写一冊。香江家旧蔵。書写奥書に「天保七年丙申季冬書之／季冬自九日始メ／季冬十七日終ニリ」と。（斯）安政六年写一冊。「孝経窒記」を附す。書写奥書に「安政六未季冬写之也　石橋性蔵」と。（規）弘化四年写一冊。附窒記。書写奥書に「弘化四丁未歳十二月朔写終之也」と。（斯）明治一六年写一冊。書写奥書「于時明治十六年仲夏写之半千」。（尊経閣文庫）写一冊。附窒記。（京都大学図書館蔵）安政六年写一冊。附窒記。奥書「安政己未歳七月下旬写之終」。（関西大学図書館）弘化四年写一冊。附窒記。奥書「于時弘化四年冬於司馬楼写之／紙数四十八枚」。

第四次稿本　（玄）写一冊。（国立国会図書館）写一冊。青山延于旧蔵。（同上）明治二六年写〈「孝経彙」第一冊収〉。（東京都立中央図書館）写一冊。中山久四郎旧蔵。（同上）昭和一一年野田文之助写一冊。経文全載。奥書「昭和十一年二月初五写校了」。（無窮会）写一冊。経文全載。（同上）写一冊。経文全載。（同上）近写一冊。経文全載。（斯）〔昭和・野田文之助〕写一冊。経文全載、附窒記。（*九州大学図書館）写一冊。附窒記。（*九州大学中国哲学研究室）写一冊。附窒記。（岡）明治一三年写一冊。（東）明治四年写一冊。奥書「明治四辛未仲夏／岡見清光謹書」。

428 季氏講石川源太郎補講　孝経〔講義〕

津藩有造館に於ける弘化二年十一月十二日に始り翌三年四月七日に終った講義聞書と嘉永七年正月の伊賀崇広堂の講義聞書とを収む。今文により、恐らく津阪東陽の286「孝経発揮」を教科書としたものであろう。前者は首章のみは聞書に非ざる簡単な漢文注で、二章より六章までを欠き、三才章第七以下を存し、毎章末に講義日附を附し、「（三才章）弘化三年丙午春正月廿二日講于有造館　（紀孝行章）以腹瀉故煩石川源太郎為補講云　（諫諍章）右弘化三年丙午春三月十七日季氏告病奉檄故煩石川源太郎氏為補講云　（感応章）右三月廿二日講于有造館（喪親章）弘化三年丙午四月七日卒業終講也」等の如く見える。後の聞書は首章と天子章の二章のみで「右嘉永七年甲寅正月八日講于伊賀崇広堂」と。

（*玄）写一冊。

429 木沢（楠）天童（大淵）著　経伝設蔕

長沢氏蔵本は首に文化三年夏四月書二于萬載城東温泉宮一楠天童大淵敬識の「読孝経序」あり。本文首「経伝設蔕天部／楠天童大淵著　柴　貞中学校」と題す。東大蔵本は序なく、首「経伝設蔕之一／天斎男　木沢図　木沢蘭　同輯」と題す。内容は両本殆ど同文。古文に従うが、章を分けず廿二段に分ち、経を一節宛録して、解を下し、段毎に評論を加え、修辞・章節間の脉絡の考察に特に意を留めている。木沢天童は名は大淵、字は澹兮、一字は子澹、源一郎と称し、また樟山とも号す。信濃の人、松本藩校の教授　文政二年歿。木沢天童と楠天童とは恐らく同一人なるべく　一時楠と称したのか後考を俟つ。恐らく長沢本が第一次稿の系にして、東大本は後に一族の人によって校された清書

本で、元来章名は附さなかったので、第七章以下には章名を記した見出紙が貼ってある。

（*規）写一冊。（東大）写一冊。「木沢／氏記」の印あり。

430 金岳陽原著　黒沢四如（巽）編増補　孝経述義

「岳陽先生遺稿孝経義第十五章以上詳而已下未備偶因門人請講義竊不自揣敢加鄙見以卒之名曰孝経述義云云」の天保十年歳在己亥夏四月門人黒沢巽識の前書あり。師の金岳陽の講義と遺稿を重編して、自解を増補附加す。経文は今文による。岳陽の288「孝経義」と重なる所多し。編者は名は重巽、字は鳳卿、号は四如又は半村、羽後の人、秋田藩の儒官。嘉永四年歿。

（斯）天保写一冊。押紙や欄外書入・巻中の増删が多く、恐らく自筆稿本であろう。

431 釈西天著　孝経示蒙

首に文化九年龍集壬申盛花之晨　自在菴離染道人釈西天識の序あり。本文内題の次に「日本常陽塾生自在釈西天田宝輯録」と題する。序に「従春台氏刻之紫芝園以来孔伝盛行于世初学苦研尋伝雖偽本要是唐以前之物也不無一助也業餘収諸家説便童蒙」と。古文により経文の字句を摘録して下に小字双行の漢文注を附する。注は孔伝御注を始め説文爾雅玉篇その他の諸書や仁斎徂徠の説を引く。著者の伝未詳。

（浜）写一冊。見返に「水戸三国筆海自在先生著門人竹嬾陳人校（印）／古文孝経孔伝示蒙／桃華園蔵（印）」と。版下の稿本であろう。

432 坂本天山（源俊豈）輯校　孝経全文音釈

首に寛政十二年庚申夏四月源俊豈謹撰の「孝経全文音釈序」あり。古文の経文の字全てに対し反切注を附し、趙宋古文等との異同は眉上に標記。著者は名は俊豈、字は伯寿、信濃の人、業を大内熊耳に受け、また宇佐美灊水に学び、傍ら浪華の荻野氏について砲技を究む。業成って高遠藩に仕え、後京摂に講説し、享和三年歿。

（無窮会）写一冊。

433 座光寺南屏（源為祥）著　孔子正学古文孝経緼義

首に天明八戊申仲夏上旬甲州南屏山下逸民源為祥謹識の自序。易・左伝による独特の解注が多い。漢文。著者は名は為祥、字は履吉、甲斐の人。五味釜川に学び、自家独得の古文復古の説を唱えた。

（*林）写一冊。

434 佐藤一斎（信行）著　孝経解意補義

首に寛政元年歳次己酉十一月念有三日佐藤信行撰の「孝経解意補義序」、末に附録として孫本撰「古文孝経説」、寛政庚戌春三月源衡識の「題孝経解意補義後」を附す。自序に「注於孝経者不知幾数十家也。大率章句訓詁間耳。間忽得孫本解意読之。殆与鄙衷相符。噫。以行之浅陋哉何得与古人同意于千載上也。不亦謂天幸哉。往日之解探諸籠中。而参之。較之。於彼所言。我削之。彼所未発。我闡之。命曰解意補義。行不佞。於今年甫十有八。識未定。見未博。将焉能知注之当否。然疑而不解。可為信道哉。解而不言。可謂好古哉。既已有孫本之解在。故聊注所見。以示二三同志也。非敢公諸世。唯庶幾於道有小補而已矣」と。本文首「孝経／明銭塘孫　本解意／日本荏土佐佐藤信

行補義」と題し、経文を掲げ、低一格を以て孫本注、次に（補云）と標して注を記し、特に自説は愚謂と標する。明の孫本の「孝経解意」の補注である。本書に跋せる衡は後に林家を嗣いだ林述斎であるが、当時はまだ実家岩村藩主松平家の公子で、一斎はその近侍として切磋講習していた。本書には弱冠十八歳の鋭気軒昂たるものが流れている。

（*東京都立中央図書館河田文庫）寛政写〈自筆稿本〉一冊。巻末に「臣佐藤信行書」と署するが、抹消してある。出典の原文を引録せる上欄の朱筆標記は一斎の後年の筆蹟。「愛日楼蔵弆」等の蔵印。一斎の女婿河田迪斎旧蔵。（同上）写一冊。「愛日楼鈔本」の印刷罫紙使用。「愛日楼蔵弆」等の蔵印。前者の副本。

435〔下郷楽山（平寛）〕著　読孝経

現存本は表紙なく、巻初の葉を欠き、首章の中途から存し、巻末に「読孝経巻二終」と題する。経及び伝の字熟語を摘出標記して、その注は経・史・字書等の諸書からの引用を以て古訓を明かにしようとしている。撰者名があったと思われる葉を欠失しているので、著者が明かでないが、巻末の葉の裏面に「読孝経巻一　論語古訓考証巻第一／日本尾張　平寛君栗撰」と記され、次に「読論語十冊」以下「柳園和文集十巻」に至る、恐らく寛の著書と思われる十三部の書名とその巻或は冊の数が記されている。本書の注文及び首書には「操按」と記された条が少しあるが、「寛按」の按語が多数見られるから、尾張の諱は寛、字は君栗なる人、即ち下郷楽山の著と思われる。楽山は名は寛、字は君栗、次郎八と号し、又別に百川学海・莓苔園と号し、尾張の人、業を市川鶴鳴に受け、寛政二年歿。

（斯）写一冊。

436神習学人著　麑洲狂夫校　孝経訓点

片山兼山の「標註古文孝経序」、太宰春台の「重刻古文孝経序」、孔安国の「古文孝経序」を首におき、本文初の「孝経訓点／神習学人著　麑洲狂夫校／開宗明誼章第一／○仲尼間居曾子侍坐」と訓ずる如く、全巻を大和言葉の古語を以て総振仮名を附す。

（浜）〔幕末〕写一冊。丸山作楽旧蔵本。

437曾我部容所（源元寛）著　孝経事談（外題）

「ヤコトナキ方ヨリ、孝経ハイツレノ人カ作レル、又幾巻ノ書ナルソト問ハセ給ルニ答ヘ奉レル詞」と前書して、孝経の成立、今古文の別、鄭注・孔伝・御注、我が国への伝来につき略述する。末に「天明二年十一月　阿波美馬郡人源元寛」と署す。著者は名は元寛、字は苞卿、阿波の人、天明七年歿。

（*神宮文庫）天明三年荒木田経雅写一冊、外題「孝経事談」。（同上）写一冊。外題「孝経国字考」とあるが、原題には非ざるべし。

438平美啓著　読孝経

首に寛政三年辛亥歳五月朔和景平美啓謹序の自序。開宗明義章のみの平仮名国字解。著者の伝未詳。

（*林）写一冊。

439高松貝陵（源芳孫）著　孝経通蘇

首に安政二年夏四月高松源芳孫の「孝経通蘇序」。岡田輯校孝経鄭注による国字解。章名を省き経文を四篇に分つ。著者は名は芳孫、易蘇堂とも号し、易学者として江戸に講説す。

（玄）写一冊。（*林）昭和一一年林秀一影写一冊〈拠前本〉。

440高松貝陵著　孝経将蘇

序なし。前掲本の和文を漢文とせるもの。

（玄）写一冊。

441〔多紀棠辺〕（苦匏散人）輯　孝経名義考

首の自序に

孝経有二本曰古文曰今文諸家概以今文為正也古文者諸家或以為劉炫所偽造也此論未必然也雖然古今俱有得失矣不可用此而廃彼也唯如作者則千載之下可得而考乎先哲辨之極多諸家説者不帰一也唯恨余性質痴胷臆鶻突言不去／口伏待諸家之辨解今承命於　儒学教諭流水先生講此書於函崎之高堂焉因編此注書於柳嶼之茅屋云爾弘化二年歳次乙巳嘉月念四日　苦匏散人譔并書

孝経名義に関する和漢の諸家の説を列挙輯集し、経の首章の中途まで注を附して、以下白紙となる。未完で終ったものであろう。文中吾友鈴木嘉云と引く。嘉は越後の人、号は順亭、嘉永元年年廿四にて歿、孝経疏証并解題考異の著あり、一時多紀家に学んだことがある。冒頭に佶案とあり、又この本と同筆にて合綴の423孝経考証の跋文から考えて、輯者の苦匏散人とは幕府の医官多紀家の元佶、号は棠辺であろう。

（*故宮博物院楊氏観海堂）写（自筆）、孝経考証と合一冊。

442太宰春台（純）著　重刻古文孝経序略解。

末に「右因叨下　問略記所見以呈／閣下伏祈　昞炤／十二月日／後学太宰純再拝謹書」（十二月日の日付は書陵部蔵自筆本の外の諸本に殆どなし）と。春台校享保十七年十一月刊「重刻古文孝経」（70）の自序を今文・古文・孔安国等の二十一条の標目の下に仮名文で説明注解せるもの。

（宮内庁書陵部）写一冊、春台自筆稿本と伝える。（浜）写一冊。（玄）写一冊。巻末識語に「春台先生古文孝経序略解一本／於牛門嵜戸巷書攤収得／寛政庚申閏四月九日／杏花園／（印）（印）」。大田南畝旧蔵本。（東）写一冊。（国立国会図書館）明治二七年写〈「孝経彙」第一冊収〉。（東北大学図書館）鶴峯戊申写〈「鶴峯戊申草稿」所収〉。（内閣文庫）写一冊。（同上）明治二三年写一冊。

443田辺楽斎（匡勅）著　孝経刊誤考

経文の要語を摘出して、その下に司馬光指解・御注・刑昺・呉澄等の諸説を引いて注解し、その後に始め山本信有の経義掇説を見て「孝経大全」等が刊誤の原本の形を伝える説を知ったが、大全等を閲する能わず、その後大全等を読み、「朱子ノ元本トハアレトモ元本ニアラス文集六十六ニ載スルノガ朱子之原本ト知ヘシ　文化十二年冬十月田辺匡勅識」と記し、次に明孫本撰「孝経釈疑」明朱鴻撰「孝経質疑」明虞淳熙撰「孝経集霊」の説を録し、按語を加えて批判し、最後に今伝わらない朱子の「孝経考異」を大義の釈音所載の考今文異同がそれに該

当するものと擬定して引載する。未定稿の如し。著者は名は匡勅、字は字順、楽斎また中洲と号し、家学の崎門学を承け、仙台藩儒、文政六年歿。

（宮城県立図書館）写一冊。自筆稿本か。

444東条一堂（弘）輯　孝経纂要（外題）

知不足斎叢書の「孝経鄭注三種」を書写し、その欄外に一堂が書入をなせし本にして、同本に収入されざる、鄭注佚文を含む諸書や関係文献を列記し、間々「弘按」と記し考証を記す。一堂の文化十一年刊「増攷孝経鄭氏解補証」（285）成立に至る備忘ノートの一つであろう。

（*狩）写一冊。自筆本。

445東条一堂（弘）輯　孝経資考（外題）

孝経の篇章・序・伝来について、和漢の関係文献を引用類聚し、弘按として考証を附す。一堂の文政十三年刊「孝経両造簡孚」（313）成立に至るノートの一種であろう。著者は名は弘、字は子毅、上総の人、業を皆川淇園に受け、古注学を唱え、江戸に於て帷を垂れ、名声大に揚る。安政四年歿。

（*狩）写一冊。自筆稿本。

446中根鳳河（紀）著　孝経衍義

古文孝経を一節宛掲げ、下に漢文の自注を小字双行に挾む。著者は名は之紀（略して紀）、字は伯綱、近江の人。荻生徂徠に学び、膳所藩に仕え、寛政九年歿。

（玄）写一冊。

447中村習斎（蕃政）著　読孝経刊誤私記

孝経はもと大学以上の書で、太極本然深奥の聖意あり、単に初入幼童の訓と浅膚に誤解すべからざることを論ぜる仮名書きの短文。著者は名は蕃政、尾張の人。兄厚斎と共に始め小出侗斎に学び、後蟹養斎に就学、崎門学を堅守し、尾藩の儒官、寛政一一年歿。

（*蓬左文庫）〔江戸末〕写〈「道学資講」第一九四収〉。（斯）

明治七年森達写一冊、尚斎撰「孝経刊誤筆記」（460）と合綴。

448中村習斎著　孝経講餘

孝経刊誤を中心として、孝経に関する種々の所見を記す。首に天明八年戊申三月廿四日後学中村蕃正書の前書。天明四年の記多し。巻中「古今文　甲辰十月朔日夜、古今文ノ別ヲタトヘタルコト、左ノ如シ、当否如何ト知ラサレトモ、記シテ達者ノ評訂ヲ期ス。孔安国註　桜ノ花ノコトシ。鄭玄注　ムバサクラノ如シ。明皇注　ステウヘノ菊ノ如シ。邢昺講義　万年草ノ如シ。刊誤　梅ノ花ノ如シ。」と。

（*蓬左文庫）〔江戸末〕写〈「道学資講」第一九六収〉

449中村習斎著　読孝経類

春台校古文孝経（寛政二―四年）・闇斎校孝経外伝（明和八年・寛政五年）・溪百年（経典餘師）孝経（寛政六年）・十三経注疏孝経（寛政七年）を読みこの箚記に「講孝経説」を附す。巻末「乙卯〔寛政七年〕七月廿二日（十二月廿八日再定）蕃書」と署する。

（*蓬左文庫）〔江戸末〕写〈「道学資講」第一九六収〉

450奈須伯容著　孝経講義

孝経は曾子学派によって漢初に成立せりと断じ、経中の重要

語について主として先秦の諸書を引いて古義による所見を記し、間々校勘を加う。漢文。著者の伝未詳。奥書に「友人奈須伯容所著公寵記」と。

（京都大学図書館）〔江戸後期〕萩原公寵写一冊〈「萩原家遺著及旧蔵書」第四十八冊収〉

451 西島蘭溪編　孝経紳書

孝経の成立今古文テキスト等の諸問題に関し、漢書藝文志以下清儒に至る諸書諸家の説を輯録するが、自説は記していない。

（*玄）写〈自筆〉一冊。

452 西山元著　古文孝経国字解　一一巻

巻首「古文孝経国字解巻一／西対処士　西山元著」と題す。春台校の孔伝古文孝経による、春台序・孔伝に至るまでの平易詳細な仮名注釈書。間々眉上に標注を附す。著者は名は元文、単に元とす。寛政頃の対馬藩士。

（国立国会図書館）写合五冊。自筆稿本か。

453 丹羽欽哉著　孝経薄氷

首に天保六乙未七月丹羽欽哉謹訳の「孝経薄氷自序」及び凡例あり。「孝経終」の尾題の次に「以上通計紙数百九枚／七月望日執毫而閏月／三日誌畢／天保六年乙未仲秋／丹羽欽哉源茂綱謹訳／行年四十有四」と記し、次に孝経薄氷自跋を附す。古文の経文をかゝげ、特に女子の教訓を目的として、文字熟語を易しく解釈し、殆ど総振仮名付きの和文。著者の伝未詳。

（*玄）天保六年写一冊。自筆稿本か。

454 〔船橋某〕著　古文孝経辨

外題「文圣古孝辨」、見返に「船橋家辨」と墨書。「古文孝経序／古文孝経ト申シマスルハ此ノ書ノ名デソノワケハ此ノ／序ノ中ニクワシウトイテコザリマス序ト申シマスル／ハイトグチト申シマスルコト／……」の如く、古文孝経の経文の講釈。父母生績章に止って以下なし。江戸前期の明経博士船橋（清原）家の人の筆にして、恐は御進講の手控草稿か。

（京都大学図書館）清原家旧蔵、〔江戸前期〕写一冊。

455 古田玄道著　孝経釈訓集成

古文に従い、経文を一字宛篆書し、一字宛その下に小字双行を以て、先ず説文を引き、爾雅や各種の字書韻書を主として、諸経書史書等を引いて釈訓し、孔伝・御注・足利本孔注も参照、また古文・今文の異同も記し、間々頭注を加える。著者は名は原、字は仲本、玄道と称し、桃宇と号す、遠州見付の人、京に遊び梁川星巌に学び、帰郷後医を業とし、書に巧み、嘉永四年歿。著者には本書と同類の四書釈訓集成（今孟子を欠く）・老子釈訓大成の稿本が伝存している。

（*静岡県立中央図書館）写一冊。自筆稿本。抹消訂正の跡が多く、頭注には少しく他筆を混える如し。

456 穂積能改斎（以貫）著　孝経国字解　六巻

首に孝経総論を解説し、孝経大義序から末の跋まで「孝経大義」を丁寧懇切に和文を以て解釈す。著者は名は以貫、播磨の人、業を伊藤東涯に受け、浪華に講説し、著書に多数の国字解書がある。明和六年歿。

（無窮会）写八冊。

457 堀田弥左衛門正義・□□友徳講　孝経〔外伝講案〕

外題に「孝経外伝講案」と。山崎闇斎輯校「孝経外伝」の仮名講義録にして、闇斎序の注の末に「此講義上田民部殿用人堀田弥三（ママ）左衛門正義先達而所講習ノ講案ヲ取捨シテ友徳講義ヲ合セ録スル者也寛保三癸亥十一月廿二日於浅野求馬殿発端云々」、末に「右孝経外伝講義者　厳祖父友徳之所箚記（中略）欲便後月我講習然亦皆未得免稿也　安永八己亥三月日記早　源行成」とある。講者の伝不明。

（玄）安永八年写一冊。

458 松平孤龍（龔）校　別本今文孝経

首に天明甲辰二月明法道博士斎劉明卿書の序、明和辛卯〔八年〕春二月（見せ消しを附し、新に右旁に「安永三年甲午二月」と）三河源氏賀茂朝臣松平龔謹書の「別本今文孝経之緒言」、本文首「今文孝経／漢大司農北海鄭　玄註」（「今文」の二字及び次行の撰者題署に見せ消しを附す）と題し、経文に小字双行の所謂鄭注を挾み、上層に孔本・一本・治要・御注等の校字を首書し、巻末「孝経鄭註終」（「鄭註」「終」の字抹消）と題し、次に明和二年乙酉春松平龔公偃と署する跋あり、また餘白に天明四年に至る間の龔の識語数条が存する。序跋や識語によれば、龔は九経を校正し、宝暦初古書中に久しく亡佚せる今文鄭注本を発見し、明和八年それを校訂したのが本書である。しかるにその後群書治要所収の鄭註と比較するに、それは鄭注に非ずして、一今文の宋明の俗本にすぎないことを知るに至った旨が安永年間の龔の識語に記されている。その結果自序は初め版心に「今文孝経鄭註之序」と記してあったのを胡粉で塗抹し、欄外に「別本今文孝経之緒言」と追記し、首尾題等の鄭玄の字を抹消したのである。龔が鄭註と最初思ったこの本の注は宝暦三年良野芸之刊の偽鄭注と同類であった。しかし寛政六年刊岡田本孝経鄭注の刊行前に龔が群書治要所収の孝経注文が鄭注たることに注目して校合に使用せるは先見の明ありと云うべきは、林秀一博士が既に指摘してその功を紹介された通りである。著者の伝は未詳。この著者に明和七年刊「孔氏伝古文孝経」（96）の校訂本（自筆草稿本を長沢規矩也博士蔵）があり、別に「孝経孔氏伝遺考」二巻、「今文孝経校正」ありと云うが、それは伝存していないようである。

（*規）写（自筆）一冊。表紙の外題に「孝経（別有古文孝経二本及今文孝経校正全）」と。

459 馬淵嵐山講述　孝経訳説　二巻

巻首「孝経訳説上／馬嵐山先生口授門人筆録／伊勢平類長子良輯校」と題す。古文孝経を平易に講釈せる聞書筆記であるが、その解釈は必しも孔伝のみによらず、その斎子学の立場から経文の分句分節の文法上の分析の説明に意を用いている。著者は名は会通、字は仲観、京都の人、学を斎宮静斎に受く、天保七年歿。

（国立国会図書館）明治写一冊〈「斎子学叢書」九五〉。

460 三宅尚斎（重固）著　孝経刊誤筆記

首に「享保十四年己酉十一月久米順利説孝経因并平素所見録

之　庚戌五月十九日終之　重固」の前書あり。刊誤に基づき漢文にて注解札記をなす。

（*神宮文庫）天明六年荒木田末寿令写一冊、奥書「借朴斎先生之本使人写／之　荒木田末寿／天明六年六月」。（岡）近写〈拠前本〉一冊。（椙）写一冊。（東）写一冊。（宮城県立図書館）写一冊。尚斎の「西銘解筆記」と合綴。（*蓬左文庫）〔江戸末〕写〈「道学資講」第一九四収〉、注文末に朱筆の中村習斎の書入〈巻末に「乙亥〈宝暦五〉二月十七日蕃政謹書」と署す〉の移写あり、巻末識語に「蕃政先生蔵本孝経刊誤於上旁者以朱書附于此／明和四丁亥孟夏　山本大進書」と。（斯）中村習斎著「読孝経刊誤私記」447と合綴、明治七年森達写一冊。前者と同種で、明和四年山本の奥書及び習斎の書入移写を存し、巻首に「以道学資講巻之百九十四校定」と藍書。（大倉精神文化研究所）天保九年三浦氏香写一冊、習斎書入の移写あり。

461最上徳内著　孝経白天章乾

巻首に「孝経白天章／最上徳内述説／男効進訓点／平松権平脚註」と題し、伝来大綱・孝経原始・孝経来歴・伝系・校本提目・孝経白天章原文の項に分ち、末に早川敬明撰「古孝経古字考」（文政丁亥敬明識の序を附す）を附する。本書は315徳内著天保三年刊「孝経謹奉進」上の草稿本で、両本を比較するに、刊本は文章記事共に増補刪正が多く加えられ、最も大きな違いは、稿本の原始・来歴が刊本では「孝経孔安国自序解」と改め、孔序の全文とその注解考証の形をとっていることである。本稿本は表紙に「乾」と記されているが、坤の巻は今伝来せず、刊本は封面に上下巻二巻と記され、下巻の内容項目が豫告されているが、未刻に終った。しかし未刊の「謹奉進」下巻の稿本は次の如く幸に伝存している。それによれば本書の下巻は稿本の段階で既に「白天章」が「謹奉進」と改題されていたようである。

（*静嘉堂文庫）写一冊。外題に「孝経白天章乾」、四周単辺有界九行白口の木活字印刷罫紙使用。前表紙に「不許他見藤原恭」と朱書、後表紙に「天保十三歳正月吉日／藤原恭／字敬叔／号雲松」と墨書さる。徳内の手稿本と称されている。（無窮会）近写一冊。（同上）昭和一五年写一冊。

462最上徳内著　孝経謹奉進下

巻首「孝経謹奉進巻之下／最上徳内述説／男効進／壻祐次同校／外孫女平松氏志藝訓点」と題し、尾題「古孝経謹奉進経（ママ）」。「古文孝経孔氏伝」と題し、徳内の所謂古孝経（宋に伝った趙宋古文に対し、本邦古伝来の孔伝古文）の山崎美成蔵古鈔本を底本とする経文を掲げ、上巻の校本提目所録の古孝経・古文・今文・鄭註の諸本との校異に始り、諸家の説を引用参照し、経文の錯乱衍文を正し、詳細な訓釈考証を下している。特に著者が得意とする音韻の知識から対文押韻の考徴に独特の創見を示し、その訓点特に虚字助字には特異の訓みが存する。著者の論は武断の説も多く、悉くは従い難いが、当時の凡ゆる資料と和漢の諸家の説とを駆使批判しながら、孝経の原始を目指して綜合的研究を企てたことは、特筆すべきである。著者は名は常

矩、字は士規、徳内と称し、鶯谷また甑山と号す。出羽の人、業を本多利明に受け、天文測量地理航海の学を究め、その蝦夷・樺太の北海探検の功とその著説は世に名高いが、徳内はまた経術の造詣が深く、音韻の学に精しかった。天保七年歿。

（*玄）写一冊。使用罫紙及び筆蹟は前掲静嘉堂文庫蔵白天章と同じ。「掃葉山房蔵書印」あり、東条琴台旧蔵。削補の押紙や切りつぎが多く、或は定稿に至らなかったか。

463 諸葛琴台（鑫）著　孝経考

巻初に「読例」八条あり、孝経は孔子の遺書に非ず、戦国時代斉魯の書生が荀子・管子等の諸書を点綴して曾子に仮託せる偽書たることを立証し、次に「孝経考附録」四条に於て、現行孔伝は漢人の語気に似ず、六朝人の風にして孔安国の真本に非ず、隋の王逸・劉炫の輩の偽作と推定、次に天和二年大浦矯写の誦経威儀古文孝経を琴台が刪校せる「孝経本文」を掲げて、その異同を示す。後に享和三年癸亥春正月二十二日上表の「上大学孝経二考表」及び「蔡邕石経大学本文次序」を附する。国会図書館蔵本はこの二篇はないが、別に「古文孝経孔伝評」「駁太宰氏重刻序」「与山本喜六論其所著経義撮説義」の三篇を附する。創見が多い。著者は名は鑫、字は君測、下野の人。輪王寺宮の侍読となり、後姫路藩に仕う。文化七年歿。

（*規）写一冊（林）昭和一五年林秀一影写〈拠前本〉一冊（国立国会図書館）明治二七年写〈「孝経彙」第一冊収〉。（無窮会）昭和一八年加藤虎之亮写一冊。孝経本文は第八章に止り、「孝経終　一斎儲六」と署され、「上大学孝経二考表」以下がない。巻末奥書に「拠松雲堂主人蔵本筆写／昭和十八年三月十四日天淵主人加藤虎識（花押）／（朱書）三月二十日一校了　虎再識」。

464 山井璞輔著　直解本偽古文孝経孔伝書後

末に甲辰〔弘化元年〕如月十八日山井璞識と。題より察するにもと直解本に附せる跋文であったのを重写して一冊となしたものであろう。祖の山井崑崙（鼎）が「七経孟子考文」に収めた足利本孝経直解を解説し、現行孔伝は真の孔伝に非ずして、隋の劉炫の偽作たることを述ぶ。漢文。著者は松崎慊堂に学び、西条藩の儒官、文久二年歿。

（*林）昭和一〇年林秀一写〈拠一柳氏蔵本〉一冊。

465 山口西園（直淳）著　孝経講義

首に文政三年辰六月安藝山口直淳の「孝経講義跋」及び「孝経講義総論」をおいて本文に入る。跋に本書の趣旨を述べて「竊謂孔伝博引他書之文、其言不関係于本文者多。鄭注及御註皆簡略而闕明暢。独胡氏之大義殆詳悉。然其解皆程朱之遺意而与吾之所学齟齬者不鮮矣。故平日之講習雖暫用之乎私心不説。於是不自揣就大義謾加刪定。其与吾之学同者存之、異者刪之、補以諸家之説、間又雑己之見、以作此解。名曰講義」と。漢文注。伊藤仁斎東涯等の堀川派の説を引くことが多いのは他に例のない特色である。著者は名は直淳、伊豫の人。父西里は宇和島藩儒、西園は家学により、伊藤古義堂派の学を修め、広島藩の国老上田氏に仕え旁ら講説す。嘉永五年歿。

（*林）写一冊。巻末約一丁欠の如し。

466〔山本某〕講　孝経大義講述鈔

孝経大義序説総論（外題「孝経大義序解」）二冊、「孝経山本先生講義経巻」（外題）二冊、「孝経大義註解講述鈔伝」（外題）四冊から成る。「孝経大義」の注文に至るまでの詳細な講義筆録。巻中闇斎絅斎の名をあげる所多い崎門学派の講義。享保三年刊勝田祐義著「孝経安知鈔」（190）を引く所あり、また巻末朱子の識語の「淳熙丙午八月十二日記」の年紀について、「淳熙ハ宋朝孝宗帝ノ年号……本邦人皇第八十二主後鳥羽院ノ文治二年ナリ源平ノ合戦ノ比乎明和ノ比マテ五百八十餘年ニ及」とあり。以て本講成立の年代をほゞ推定し得る。講者は外題に記された山本先生というほか詳かでない。

（斯）〔明和年間〕写八冊。刪改の跡あり。著者稿本の如し。

467〔若林強斎講〕　孝経刊誤〔講義〕

講者名を題さないが、強斎講「孝経刊誤師説」（六〇頁参照）と内容が同じく、強斎の講義と推定されるが、詞章はやゝ異り、この本の方が詳しい。彼とは筆録者が別なるか、或は時を異にする講義の聞書か。

（*玄）近写一冊。

468鷲見慶明著　孝経大意

首に寛政六寅のとし八月十五日の自序。古文二十二章の大意を平仮名和文を以て記す。著者の伝不明。

（*林）写一冊。後表紙裏に「鷲見蔵書」と墨書。或は自筆稿か。

469孝経管窺

古文孝経の片仮名国字解。巻末に「右和解銭唐大東公ノ記」とあり。

（*林）寛政六年写一冊。奥書「寛政ノ六甲寅秋八月下旬拝写同秋九月十四日先生卒ス矣」。

470孝経刊誤口釈

冒頭に文化甲子〔元年〕六月廿七日始と記され、八月廿八日に終った朱子の孝経刊誤の講義聞書。内容は殆ど若林強斎の師説と同じく、その学派の人の講義であろう。

（九州大学中国哲学研究室）写一冊。

471孝経〔刊誤国字解〕　四巻

孝経刊誤に基づく片仮名国字解。

（*林）文政元年佐藤才助写二冊。

472孝経刊誤便講

首に「孝経要旨」と題する漢文自序あり、尾に「孝経刊誤便講畢文化八年自正月三日至十八日成」と題す。経文は単行。朱子の刊誤は双行、注を小字三行に挿み、漢文を以て諸注を引き注解す。著者名を題さないので、何人なるか明かでないが、注文中に「成按」と屢々見え、また一条「栗斎服部曰」とあるが、消して「或曰」に改めてある。崎門学派の著である。

（斯）写一冊。自筆稿本か。

473孝経記聞

経文を摘録し、その下に和文の注を附せる聞書。

（*林）嘉永四年写一冊。奥書「嘉永四辛亥年／十月迄／西口

克太郎／聞書写之吉兵衛（花押）」。

474 孝経〔諺解〕

首に「孝経考」と題し、小字を以て、漢何休公羊伝序より以下諸書の孝経の成立、今古文・伝来に関する記事を輯録す。本文は「孝経」と題し、毎葉下半が古文の経文の語句を摘録してゾ・ナリ混合の室町時代仮名抄の遺風を残せる片仮名注を加え上半はその注釈の原拠となる孔伝・御注・正義・刊語・大義や明人の注並びに諸書よりの引文を標記する。注解は簡潔ながら各家の説を参酌して要を得て、経義の脉絡の委細にも配意して、参照引用書は明人の著に至るまで江戸前期当時我が国に伝来せる孝経関係文献を殆ど網羅している。標記引用文の末に間々「順按」として按語が附されているのが見られる外、著者を推定せしめ得るものはなく、その氏名を詳になし得ないが、学力かなり卓抜なる朱子学者の手になるものと思われる。斯道文庫本以外に伝本を見ず、その末に「寛文三癸卯年／黄鐘十日初筆而霜月卅日終」の書写識語が存する。

（斯）寛文三年写一冊。押紙があり、様式より見て、著者の自筆稿本か。

475 孝経諺談巻上

表紙中央に「孔壁／孝経諺談上」と外題、その左旁に第一章より八章に至る所収章名を記し、右旁に「仏教信仰ノ輩聴衆ノ中ニ／有トキハ［］ノ処ヲ抜テ／講ス」と墨書。首に孔子の略伝・孝経の解説あり、本文首に「孝経心学諺談」と題しながら、それを抹消し、「本文」と題す。古文孝経による心学の徒の和文の講釈書。第九章以下を下巻とするらしいが、欠失か未完か不明。

（東）写一冊。

476 孝経講義

前に孝経の総論をなし、経の要句を標記して、諸書を引き注を下す。漢文。著者未詳、山本信有の説を引く条あり。

（国立国会図書館）明治二七年写〈「孝経彙」第二冊収〉。本奥書「安政五戊午年五月廿五日書写再校」。

477 孝経〔国字解〕

内題なく、外題「孝経」。古文孝経による経文を掲げ、次に小字で平易な仮名講釈を附す。序に春台の校刊に言及しているから、その後の成立である。

（慶）写二冊。

478 孝経古文演義

宝暦七年丁丑正月十一日東都之客舎ニ於テ謹識の序。孔伝の片仮名読み下しに近い。

（斯）写一冊。

479 孝経参校

経文は古文によるが、孔伝鄭注御注邢疏を始め指解大義から楊慈湖に至る宋元明の諸注、中江貝原冢田等の本邦諸儒の諸説を引き、字義を明かにす。

（東）〔江戸後期〕写一冊。内題なく、外題に「孝経参校稿」と。朱筆の訂正や附筆が多く、著者の未定稿の如し。

480 孝経参註

巻首に「孔子国(ママ)為古文作伝以其先人所蔵之壁中之書也亀氏奉之数世至於昭陽先師録其所考為之羽翼為有此二書也予雖不敏得近聖人之末光而又間有異見今輯録之名曰参註欲与二書参以発揮之也」と撰述の趣旨を述べている。著者名を題していないが、亀井昭陽の門下の撰たることは明かである。経文を摘出して、下に漢文の注を附し、各文間の脉絡の解明に意を用いている。

(斯)写一冊。

481 孝経私議(外題)

経文は古文により、孔伝・大義・御注その他の諸注を輯録す。

(斯)写一冊。

482 孝経輯疏(外題)

古文孝経を一節宛摘出し、下に今文との異同を校勘し、漢文注は邢疏を主として字義と義理を明かにす。

(斯)写一冊。

483 孝経大義俚諺釈(外題)

孝経大義の董鼎注の片仮名国字解。経の末に「孝経大義俚諺巻之一終」と題し、次に伝五章まで(首尾中間に欠丁あり)を附するが、筆蹟は前と同じであるが、前と体式を異にし、削増の訂正が多く、また押紙を附し、草稿たるの跡が著しい。

(*林)写一冊。

484 孝経微考

首に「一云惣賛孝大、二云示道淵源」から「十二云広嘆感応」に至る十二項目の下に孝について総論し、次に春台校の古文による経文の大意を講釈。仏徒の講らしい。

(浜)文政一一年写一冊。奥書「文政十一戊子下春写之/江州守山(以下抹消)」。

485 古文孝経聞書

孔伝による講義聞書。

(椙)写一冊。首に「開講辛卯極月五日」と記せる「中庸聞書」と合綴。

486 古文孝経孔伝講疏

孔伝の字句に対して諸書諸家説を引輯して注解す。編者未詳。

(国立国会書館)明治二八年写〈「孝経彙」第三冊収〉

487 古文孝経〔国字解〕 二巻

経の全文を掲げ、次に片仮名文を以て訓解を記す。広要道章第十五以下を下巻とす。孔序の解はない。著者を明かにし得ず、巻上末に「寛政十午年/五月吉日/有吉時陳(印〈時陳〉)」とあるは書写奥書か、著者のそれか未詳。

(斯)寛政一〇年写一冊。「有吉/家蔵」「時/陳」「陳」の蔵印あり。

488 古文孝経示蒙解

書名の如く、経文孔伝共に童蒙用に平仮名文にて和解す。

(東)写一冊。朱筆の訂正や欄外書入があり、著者の稿本と思われる。

489 呉文正公較定孝経和解

元の呉澄の孝経定本の平仮名国字訳。「仲尼(ちうじ)居(いたまふ)曾子侍(そうしじす)」の

如く注文の訳に至るまで殆ど総附仮名を附してある。

（*林）写一冊。

490 東海先生孝経講義

首に「東海先生孝経講義／門人大津竹陰詳録」と題す。孝経刊誤による講義の聞書。東海を号とする儒者は多いので、講者を推定し得ない。

（無窮会）写一冊。

追　記

(1) （林）文化二年写一冊。「孝経刊誤講義」と題す。書写奥書に「旨　文化二歳乙丑文月中元日　清節斎謹写」。「風水舎蔵」の印刷罫紙使用。

(2) この本はI古文(3)日本人著作の所、即ち四〇頁の藤樹著孝経啓蒙の次に分類排列さるべきを誤る。

(3) （大阪大学図書館）天保三年南里元易写一冊。この本は小出永庵著「孝経大義講草鈔」(179)の首の「孝字訓解大概」、林羅山著「孝経見聞抄」(172)の首の「誦孝経威儀記」を写し、次に南里元易が正史その他から孝経を誦して感応のあった四十五人の伝を抄録し、末に「天保二年三月七日　南里元易百拝識」と署せる和文の跋を附し、次に昭陽の「孝経考」を写す。間々上眉に「元易按」の案語を書入。奥書に「文政九丙戌初秋写於興容社／清水大駿／右孝経考一巻本書他本之内ニ書入レタルニ依／テ句々前後ニ散在セリ今聊謄写スト雖猶誤／処多シ後日以他本可改者也／卿成ヨリ八年天保三壬辰季秋　南里元易」。（広瀬家先賢文庫）写一冊。